

東久留米市地域福祉計画（第4次改定）の策定のための

# 市民アンケート調査結果報告書

令和6年3月

東久留米市

## 目次

<b>第1章</b>	<b>実施概要</b> .....	<b>1</b>
	1 目的 .....	1
	2 実施概要 .....	1
	3 報告書の見方 .....	2
	4 標本誤差 .....	2
<b>第2章</b>	<b>調査の全体結果（一覧）</b> .....	<b>3</b>
<b>第3章</b>	<b>調査の全体結果（設問毎）</b> .....	<b>11</b>
	1 あなた（ご本人）のことについて .....	11
	2 近所付き合い、地域の暮らしについて .....	17
	3 地域の活動について .....	22
	4 相談や情報について .....	26
	5 災害への備えについて .....	30
	6 権利擁護支援について .....	32
	7 立ち直りを支援するまちづくり（再犯防止）について .....	34
	8 市の地域福祉について .....	36
<b>第4章</b>	<b>調査結果からの考察</b> .....	<b>37</b>
	回答者属性 .....	37
	考察1 地域への愛着、居住意向 .....	41
	考察2 近所付き合い、地域の暮らしについて .....	43
	考察3 地域の活動について .....	48
	考察4 相談や情報について .....	51
	考察5 災害への備えについて .....	55
	考察6 権利擁護支援について .....	57
	考察7 立ち直りを支援するまちづくり（再犯防止）について .....	60
<b>資料1</b>	<b>自由記述</b>	
<b>資料2</b>	<b>アンケート調査票</b>	

# 第1章 実施概要

## 1 目的

東久留米市地域福祉計画（第4次改定）の策定にあたり、地域福祉、成年後見制度、再犯防止に関する市民の意見や日頃から感じている地域課題などをお聞きし、計画策定に役立てることを目的に実施しました。

## 2 実施概要

対象	市内在住の18歳以上市民より無作為抽出 2,000名
調査方法	調査票の郵送配付 調査票の郵送回答／専用WEBサイトからインターネット回答（回答者選択）
調査期間	令和5年11月13日～12月4日
回答	842名（郵送701名、インターネット141名） 回答率 42.1%

（参考）性別の配付・回答状況

区分	配付		回答		配付数に対する 回答率 (%)
	配付数 (名)	配付割合 (%)	回答数 (名)	回答割合 (%)	
男性	1,000	50.0	353	41.9	35.3
女性	1,000	50.0	462	54.9	46.2
その他・無回答			27	3.2	
合計	2,000	100.0	842	100.0	42.1

（参考）年齢別の配付・回答状況

区分	配付		回答		配付数に対する 回答率 (%)
	配付数 (名)	配付割合 (%)	回答数 (名)	回答割合 (%)	
18～29歳	263	13.2	52	6.2	19.8
30～39歳	247	12.4	75	8.9	30.4
40～49歳	328	16.4	120	14.3	36.6
50～59歳	374	18.7	156	18.5	41.7
60～69歳	277	13.9	126	15.0	45.5
70歳以上	511	25.6	295	35.0	57.7
無回答			18	2.1	
合計	2,000	100.0	842	100.0	42.1

### 3 報告書の見方

---

- 図表の「n (number of cases)」は、設問項目に対する回答者数を表します。
- 回答数値は小数点第2位を四捨五入した百分率(%)で表しています。そのため、(1つに○)とある設問であっても、選択肢の回答合計が100.0%にならない場合があります。「0.0」は回答者がいないことを表しています。
- (○はいくつでも)とある設問は、回答者が複数の選択肢に回答することができるため、全ての回答比率を合計すると100.0%を超える場合があります。
- クロス集計表は分析軸となる設問の「無回答」を非表示にしているため、分析軸のn(回答者数)の合計が全体の回答者数と一致しない場合があります。
- 自由記述の意見は、主な意見(原文)を抜粋して掲載しています。意見内容に影響を及ぼさない範囲で誤字等を修正しています。

### 4 標本誤差

---

- 本調査は調査対象となる母集団(18歳以上の市民)から一定の人数を抽出して行う標本調査であり、調査結果を母集団に当てはめて推定する際、理論上の誤差(標本誤差)が生じます。今回の回答割合から推定した標本誤差は表のとおりです。
- 表の見方は、全員を対象とする設問で選択肢のひとつが「50%」の場合、母集団に当てはめると、「±3.4%」の範囲(46.6%~53.4%)と推定されることを表します。

回答数値	99%または1%前後	90%または10%前後	80%または20%前後	70%または30%前後	60%または40%前後	50%前後
全員への設問の場合	0.7%	2.0%	2.7%	3.1%	3.3%	3.4%

※標本誤差は選択肢の回答割合で異なる

- なお、回答者を限定した設問や属性区分(クロス集計)の調査結果は、回答者数(標本数)が少ない(標本誤差が大きい)ことから、調査結果の数値には特に留意が必要です。

## 第2章 調査の全体結果（一覧）

		回答者全体 (n)	842
問1 ①あなたの性別をお答えください。		単数回答	
No.	選択肢	回答者 (人)	(%)
1	男性	353	41.9
2	女性	462	54.9
3	その他	5	0.6
	無回答	22	2.6
問1 ②あなたの年齢をお答えください。		単数回答	
No.	選択肢	回答者 (人)	(%)
1	18～19 歳	0	0.0
2	20～24 歳	24	2.9
3	25～29 歳	28	3.3
4	30～34 歳	35	4.2
5	35～39 歳	40	4.8
6	40～44 歳	55	6.5
7	45～49 歳	65	7.7
8	50～54 歳	72	8.6
9	55～59 歳	84	10.0
10	60～64 歳	58	6.9
11	65～69 歳	68	8.1
12	70～74 歳	88	10.5
13	75～79 歳	89	10.6
14	80～84 歳	81	9.6
15	85 歳以上	37	4.4
	無回答	18	2.1
問2 現在、あなたの世帯の構成は、次のどれにあたりますか。		単数回答	
No.	選択肢	回答者 (人)	(%)
1	ひとり暮らし	119	14.1
2	夫婦のみ	239	28.4
3	夫婦と親（二世帯同居）	20	2.4
4	夫婦と子ども（二世帯同居）	295	35.0
5	ひとり親と子ども（一番下の子どもが18歳以上）	61	7.2
6	ひとり親と子ども（一番下の子どもが18歳未満）	8	1.0
7	三世帯同居（親と子と孫）	25	3.0
8	上記以外	56	6.7
	無回答	19	2.3
問3 同居している世帯の状況について、あなたご自身を含めてお答えください。		複数回答	
No.	選択肢	回答者 (人)	(%)
1	未就学児がいる	77	9.1
2	介護が必要な人がいる	54	6.4
3	障害者手帳を所持している人がいる	76	9.0
4	病気で寝たきりの人がいる	5	0.6
5	生きづらさを感じている人がいる	35	4.2
6	1～5のいずれもない	518	61.5
	無回答	102	12.1
問4 あなたのお住まいの住居形態は、次のどれにあたりますか。		単数回答	
No.	選択肢	回答者 (人)	(%)
1	持ち家（一戸建て）	496	58.9
2	持ち家（マンションなどの共同住宅）	109	12.9
3	民間賃貸（一戸建て）	16	1.9
4	民間賃貸（マンションなどの共同住宅）	108	12.8
5	都営住宅	46	5.5
6	社宅・社員寮	9	1.1
7	上記以外	38	4.5
	無回答	20	2.4

問5 あなたの市内の居住年数（市内での転居を含めた通算）をお答えください。 単数回答			
No.	選択肢	回答者（人）	（％）
1	5年未満	127	15.1
2	5～10年未満	59	7.0
3	10～15年未満	83	9.9
4	15～20年未満	59	7.0
5	20～25年未満	85	10.1
6	25～30年未満	87	10.3
7	30年以上	324	38.5
	無回答	18	2.1

問6 現在のお住まいの地域は、次のどちらですか。 単数回答			
No.	選択肢	回答者（人）	（％）
1	第1ブロック	75	8.9
2	第2ブロック	69	8.2
3	第3ブロック	72	8.6
4	第4ブロック	142	16.9
5	第5ブロック	108	12.8
6	第6ブロック	138	16.4
7	第7ブロック	119	14.1
8	第8ブロック	103	12.2
	無回答	16	1.9

問7 あなたは、お住まいの地域に愛着を感じていますか。 単数回答			
No.	選択肢	回答者（人）	（％）
1	とても感じる	317	37.6
2	少し感じる	328	39.0
3	あまり感じない	102	12.1
4	まったく感じない	15	1.8
5	どちらともいえない	59	7.0
	無回答	21	2.5

問8 あなたは、お住まいの地域で今後も生活していきたいと思いませんか。 単数回答			
No.	選択肢	回答者（人）	（％）
1	可能な限り、生活したい	604	71.7
2	市内の他の地域に転居したい	27	3.2
3	市外に転居したい	48	5.7
4	わからない	139	16.5
	無回答	24	2.9

問9 ふだん、となり近所とは、どのようなお付き合いをされていますか。 単数回答			
No.	選択肢	回答者（人）	（％）
1	お互いの家を行き来している	34	4.0
2	いただき物や旅行のお土産をおすそ分けする	206	24.5
3	あいさつ程度	488	58.0
4	ほとんどない	76	9.0
	無回答	38	4.5

問9付問 前問で「4 ほとんどない」と答えた方におたずねします。近所付き合いをしていない主な理由は何ですか。 複数回答			
No.	選択肢	回答者（人）	（％）
	限定設問の回答者全体	76	
1	仕事や学業、家事・育児などで忙しく時間がないから	26	34.2
2	引っ越してきて間もないから	10	13.2
3	普段、付き合う機会がないから	41	53.9
4	となり近所と知り合うきっかけがないから	37	48.7
5	同世代の人が近くにいないから	15	19.7
6	気の合う人や話の合う人が近くにいないから	16	21.1
7	あまり関わりをもちたくないから	18	23.7
8	その他	7	9.2
9	特に理由はない	7	9.2
	無回答	2	2.6

問 10 (同居をしていない家族や友人のうち、一番親しい方を思い浮かべて回答してください。) あなたとの方とのコミュニケーションの頻度について、ア～ウごとにそれぞれお答えください。

単数回答

ア 直接会って話す

No.	選択肢	回答者(人)	(%)
1	週4～5回以上	57	6.8
2	週2～3回程度	82	9.7
3	週1回程度	109	12.9
4	2週間に1回程度	69	8.2
5	月1回程度	163	19.4
6	月1回未満	179	21.3
7	全くない	49	5.8
	無回答	134	15.9

イ 電話(ビデオ通話含む)

単数回答

No.	選択肢	回答者(人)	(%)
1	週4～5回以上	39	4.6
2	週2～3回程度	80	9.5
3	週1回程度	75	8.9
4	2週間に1回程度	86	10.2
5	月1回程度	119	14.1
6	月1回未満	149	17.7
7	全くない	102	12.1
	無回答	192	22.8

ウ SNS(LINEなど)、電子メール、ショートメール

単数回答

No.	選択肢	回答者(人)	(%)
1	週4～5回以上	119	14.1
2	週2～3回程度	111	13.2
3	週1回程度	104	12.4
4	2週間に1回程度	79	9.4
5	月1回程度	89	10.6
6	月1回未満	61	7.2
7	全くない	81	9.6
	無回答	198	23.5

問 11 あなたは、日頃の生活の中で、孤独であると感じることがありますか。

単数回答

No.	選択肢	回答者(人)	(%)
1	決してない	294	34.9
2	ほとんどない(月1回未満)	292	34.7
3	たまにある(月1回程度)	119	14.1
4	時々ある(月2～3回程度)	77	9.1
5	しばしばある・常にある(週1回以上)	36	4.3
	無回答	24	2.9

問 12 あなたのお住まいの地域では、お互いに助け合う「地域のつながり」を感じますか。

単数回答

No.	選択肢	回答者(人)	(%)
1	とても感じる	46	5.5
2	どちらかといえば感じる	244	29.0
3	あまり感じない	361	42.9
4	まったく感じない	113	13.4
5	どちらともいえない	58	6.9
	無回答	20	2.4

問 13 あなたは、現在の地域での暮らしに「地域のつながり」は必要だと思いますか。

単数回答

No.	選択肢	回答者(人)	(%)
1	とても必要である	153	18.2
2	どちらかといえば必要である	444	52.7
3	あまり必要ない	139	16.5
4	必要ない	11	1.3
5	わからない	75	8.9
	無回答	20	2.4

問 14 あなたの地域で次のような世帯を見たり、聞いたりしたことがありますか。

複数回答

No.	選択肢	回答者(人)	(%)
1	大量のごみが自宅や敷地に放置されている世帯(ごみ屋敷)	95	11.3
2	高齢者が同居の高齢者の世話(看病、介護、介助など)をしている世帯(老老介護)	187	22.2
3	世帯全員が近隣や地域と関わりをもっていないと思われる世帯(孤立世帯)	118	14.0
4	自宅にひきこもっている人がいると思われる世帯(ひきこもり)	64	7.6
5	高齢の親が中高年の子どもの生活を支えている世帯(8050問題)	48	5.7
6	親の世話(看病、介護、介助など)と自分の子育てを同時に抱えている世帯(ダブルケア)	49	5.8
7	未成年の子どもが親や兄弟姉妹を介護し、自分の時間をもてない世帯(ヤングケアラー)	4	0.5
8	家族の間で虐待が疑われる世帯(虐待)	11	1.3
9	となり近所で何かのトラブルが起きていると思われる世帯	59	7.0
10	上記以外で、課題を抱えていると思われる世帯	21	2.5
11	見たり、聞いたりしたことはない	473	56.2
	無回答	21	2.5

問 15 あなたは、まわりの人(家族以外)に手助けできること(してもいいこと)はありますか。

複数回答

No.	選択肢	回答者(人)	(%)
1	安否確認の声かけ	393	46.7
2	ちょっとした買い物やごみ出し	28	3.3
3	食事や掃除・洗濯の手伝い	1	0.1
4	通院の送迎や外出の手助け	2	0.2
5	子どもの預かり	14	1.7
6	話し相手や相談相手	55	6.5
7	災害時避難の手助け	89	10.6
8	具合がよくない時に病院などに連絡する	19	2.3
9	専門の相談機関等に連絡する	11	1.3
10	その他	13	1.5
11	特になし	203	24.1
	無回答	14	1.7

問 16 あなたが地域に参加するとしたら、どのような活動に参加したい(しやすい)ですか。現在の活動の有無に関係なく、お答えください。

複数回答

No.	選択肢	回答者(人)	(%)
1	自治会、町内会、マンション管理組合、自主防災組織、消防団などが行う地域活動	168	20.0
2	保護者会、PTAなどが行う、学校などを拠点とする活動	71	8.4
3	社会福祉法人、福祉サービス事業者などが行うイベント・講習会・ボランティア	144	17.1
4	趣味のグループ、自主サークルなどが行う地域活動(自分が関心のある分野)	330	39.2
5	市、商店街、NPOなどが行うイベント・講習会・ボランティア	155	18.4
6	自分たちが主体となって行う地域活動(交流づくり、居場所づくりなど)	76	9.0
7	その他	29	3.4
8	そうした活動に参加したくない・関心がない	220	26.1
	無回答	25	3.0

問 17 あなたは、どのような環境があると地域活動に参加しやすいと思いますか。現在の活動の有無に関係なく、お答えください。

複数回答

No.	選択肢	回答者(人)	(%)
1	自分の時間に余裕があること	471	55.9
2	時間や期間にあまりしばられないこと	432	51.3
3	関心・興味のあるテーマの活動があること	406	48.2
4	知り合いや気の合う仲間がいること	340	40.4
5	身近な場所で活動できること	410	48.7
6	家族の理解・協力が得られること	147	17.5
7	子どもの世話や親の介護を代わってもらうこと	41	4.9
8	自分の能力向上につながる事	146	17.3
9	参加に報酬があること	105	12.5
10	その他	13	1.5
11	そうした活動に参加したくない・関心がない	79	9.4
	無回答	22	2.6

問 18 あなたが身近な地域（自宅以外）で利用する場所がありますか。

複数回答

No.	選択肢	回答者(人)	(%)
1	公園	282	33.5
2	カフェ（喫茶店）、レストラン、飲食店	414	49.2
3	商業施設（スーパーやコンビニなど）	596	70.8
4	自治会、マンションなどの集会スペース	43	5.1
5	地域センター・地区センターなどの公共施設	157	18.6
6	図書館	245	29.1
7	学校（教室、校庭、体育館など）	49	5.8
8	その他	26	3.1
9	利用することはほとんどない	66	7.8
	無回答	11	1.3

問 19 下記の地域福祉に関する活動や組織について、聞いたことがあるものをお答えください。

複数回答

No.	選択肢	回答者(人)	(%)
1	地域福祉コーディネーター	87	10.3
2	民生委員・児童委員	521	61.9
3	地域活動支援センター	180	21.4
4	地域包括支援センター	416	49.4
5	自立相談支援機関	97	11.5
6	子ども家庭支援センター	251	29.8
7	社会福祉協議会	338	40.1
8	1～7はいずれも聞いたことがない	117	13.9
	無回答	20	2.4

問 20 あなたやご家族が日常生活での困りごとを相談できる人や機関はありますか。

複数回答

No.	選択肢	回答者(人)	(%)
1	家族や親戚（同居、別居を問わない）	681	80.9
2	友人・知人	509	60.5
3	近所の人、自治会、町内会	119	14.1
4	民生委員・児童委員	13	1.5
5	かかりつけ医	184	21.9
6	ケアマネジャー（介護支援専門員）やヘルパー（介護員）	79	9.4
7	地域福祉コーディネーター	4	0.5
8	仕事・学校関係の人（職場の同僚、保育所・幼稚園・学校の先生やカウンセラー）	121	14.4
9	相談支援専門員（障害者）	7	0.8
10	地域包括支援センター	39	4.6
11	市役所の窓口	112	13.3
12	社会福祉協議会	20	2.4
13	その他	4	0.5
14	相談できる人や機関はない	44	5.2
	無回答	19	2.3

問 21 現在、あなた自身やご家族は、どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えていますか。

単数回答

No.	選択肢	回答者(人)	(%)
1	ある	83	9.9
2	ない	706	83.8
	無回答	53	6.3

問 21 付問 前問で「1 ある」と答えた方におたずねします。お困りの内容は何ですか。

複数回答

No.	選択肢	回答者(人)	(%)
	限定設問の回答者全体	83	
1	家族・親族間の人間関係(虐待、ひきこもりなどを含む)	27	32.5
2	子育て、看病、介護などの問題	27	32.5
3	依存症の問題(薬物、アルコール、タバコなどを含む)	2	2.4
4	収入、就労の問題	20	24.1
5	学校、勤務先での人間関係	9	10.8
6	事業や家業の経営上の問題	4	4.8
7	金銭トラブル	4	4.8
8	近隣、地域との関係	13	15.7
9	事故、事件などの被害	4	4.8
10	その他	13	15.7
	無回答	2	2.4

問 22 あなたにとって、市役所、社会福祉協議会がより相談しやすくなる方法は、何ですか。

複数回答

No.	選択肢	回答者(人)	(%)
1	土日・祝日でも相談できる	352	41.8
2	早朝や夜間でも相談できる	143	17.0
3	チャット、LINEで相談できる	222	26.4
4	相談員が親身になってくれる	279	33.1
5	1か所で相談できる	150	17.8
6	その他	23	2.7
7	現状のままでいい	52	6.2
8	わからない・利用したことがない	203	24.1
	無回答	32	3.8

問 23 あなたは、市の福祉(サービス)に関する知識や情報をどこから得ていますか。

複数回答

No.	選択肢	回答者(人)	(%)
1	市や社会福祉協議会のホームページ	186	22.1
2	市広報「ひがしくるめ」やパンフレット	612	72.7
3	市役所や社会福祉協議会の窓口	48	5.7
4	地域包括支援センターなどの市が設置している施設	39	4.6
5	NPO・ボランティア等の民間団体	14	1.7
6	地域福祉コーディネーター	4	0.5
7	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌など	96	11.4
8	関係機関のホームページ	48	5.7
9	家族・親戚、友人・知人	199	23.6
10	その他	16	1.9
11	特にない・関心がない	80	9.5
	無回答	24	2.9

問 24 あなたは、スマートフォン、タブレット、パソコンのいずれかを使っていますか。最も使うものの頻度でお答えください。

単数回答

No.	選択肢	回答者(人)	(%)
1	日常的に使っている	648	77.0
2	時々、使っている	56	6.7
3	持っているが、あまり使っていない	43	5.1
4	持っていない	80	9.5
	無回答	15	1.8

問 25 あなたは、日頃から、災害発生時に備えていますか。		複数回答	
No.	選択肢	回答者 (人)	(%)
1	防災訓練に参加している	65	7.7
2	避難場所や避難経路を確認している	267	31.7
3	家具などの転倒防止を行っている	298	35.4
4	避難行動要支援者名簿に登録している	6	0.7
5	3日分以上の食料、水などを備えている	361	42.9
6	防災マップ、洪水ハザードマップを確認している	239	28.4
7	その他	17	2.0
8	特にしていない	223	26.5
	無回答	21	2.5

問 26 あなたは、災害発生時に地域の防災活動に協力できることはありますか。		複数回答	
No.	選択肢	回答者 (人)	(%)
1	避難の声かけをする	493	58.6
2	高齢者などと一緒に避難する	251	29.8
3	避難所で人のお世話をする	199	23.6
4	(自身や家族の状況が許されれば) 災害ボランティア活動に参加する	143	17.0
5	その他	7	0.8
6	特にない	201	23.9
	無回答	32	3.8

問 27 あなたは以下の防災の取り組みや用語について知っていますか。		複数回答	
No.	選択肢	回答者 (人)	(%)
1	福祉避難所	111	13.2
2	仮設住宅	628	74.6
3	災害ボランティアセンター	288	34.2
4	在宅避難	355	42.2
5	避難所運営マニュアル	89	10.6
6	知っている取り組みや用語は一つもない	111	13.2
	無回答	45	5.3

問 28 あなたは、権利擁護に関することについて知っていますか。		単数回答	
ア成年後見制度			
No.	選択肢	回答者 (人)	(%)
1	内容を知っている	280	33.3
2	聞いたことはある (内容は知らない)	314	37.3
3	知らない	190	22.6
	無回答	58	6.9

イ任意後見制度		単数回答	
No.	選択肢	回答者 (人)	(%)
1	内容を知っている	131	15.6
2	聞いたことはある (内容は知らない)	247	29.3
3	知らない	384	45.6
	無回答	80	9.5

ウ社会貢献型後見人 (市民後見人)		単数回答	
No.	選択肢	回答者 (人)	(%)
1	内容を知っている	36	4.3
2	聞いたことはある (内容は知らない)	142	16.9
3	知らない	572	67.9
	無回答	92	10.9

問 29 あなたやご家族のどなたかが認知症などによって判断が十分にできなくなる場合に備えて、あるいは、できなくなった場合、上記 (問 28) ア～ウのうち、いずれかの制度を利用したいと思いませんか。		単数回答	
No.	選択肢	回答者 (人)	(%)
1	既に利用している	11	1.3
2	利用を検討する	410	48.7
3	利用しない	89	10.6
4	わからない	293	34.8
	無回答	39	4.6

問 29 付問 前問で「3 利用しない」と答えた方におたずねします。制度を利用しない主な理由は何ですか。		複数回答	
No.	選択肢	回答者(人)	(%)
	限定設問の回答者全体	89	
1	制度の内容や利用方法がわからない	14	15.7
2	事務手続きが面倒	11	12.4
3	後見人に財産管理や契約手続きを任せるのは不安	22	24.7
4	申立てにかかる費用や後見人へ支払う報酬が負担	14	15.7
5	家族などに支援してもらいたい	70	78.7
6	その他	6	6.7
	無回答	3	3.4
問 30 あなたは、東久留米市社会福祉協議会で遺言相続・成年後見制度相談ができることを知っていますか。		単数回答	
No.	選択肢	回答者(人)	(%)
1	既に利用したことがある	2	0.2
2	知っている(利用したことはない)	152	18.1
3	知らない	668	79.3
	無回答	20	2.4
問 31 犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動である「社会を明るくする運動」や「再犯防止啓発月間」を知っていますか。		単数回答	
No.	選択肢	回答者(人)	(%)
1	両方とも知っている	68	8.1
2	「社会を明るくする運動」のみ知っている	98	11.6
3	「再犯防止啓発月間」のみ知っている	37	4.4
4	両方とも知らない	604	71.7
	無回答	35	4.2
問 32 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生に協力する下記の民間協力者がいることを知っていますか。		複数回答	
No.	選択肢	回答者(人)	(%)
1	保護司	532	63.2
2	更生保護女性会	43	5.1
3	協力雇用主	128	15.2
4	BBS会	9	1.1
5	更生保護施設	244	29.0
6	教諭師	110	13.1
7	篤志面接委員	13	1.5
8	いずれも知らない	243	28.9
	無回答	27	3.2
問 33 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを応援し、社会復帰を果たすために、市が行う支援として何が重要だと考えますか。		複数回答	
No.	選択肢	回答者(人)	(%)
1	就労支援	596	70.8
2	住まいの確保支援	408	48.5
3	経済的支援	301	35.7
4	地域住民の声かけ・関わり	189	22.4
5	非行の防止・就学支援	343	40.7
6	民間協力者の活動促進	170	20.2
7	どのような支援が必要かわからない	109	12.9
8	特に必要な支援はない	33	3.9
9	その他	13	1.5
	無回答	29	3.4

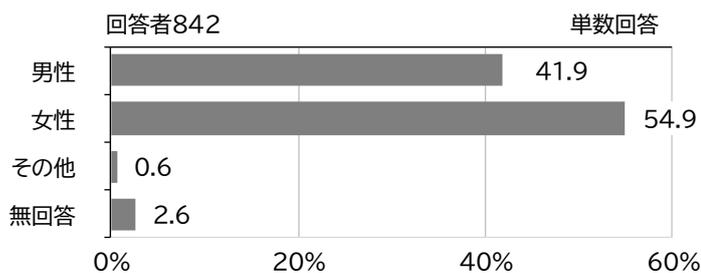
## 第3章 調査の全体結果（設問毎）

### 1 あなた（ご本人）のことについて

問1 あなたの性別、年齢をお答えください。（それぞれ〇は1つ）

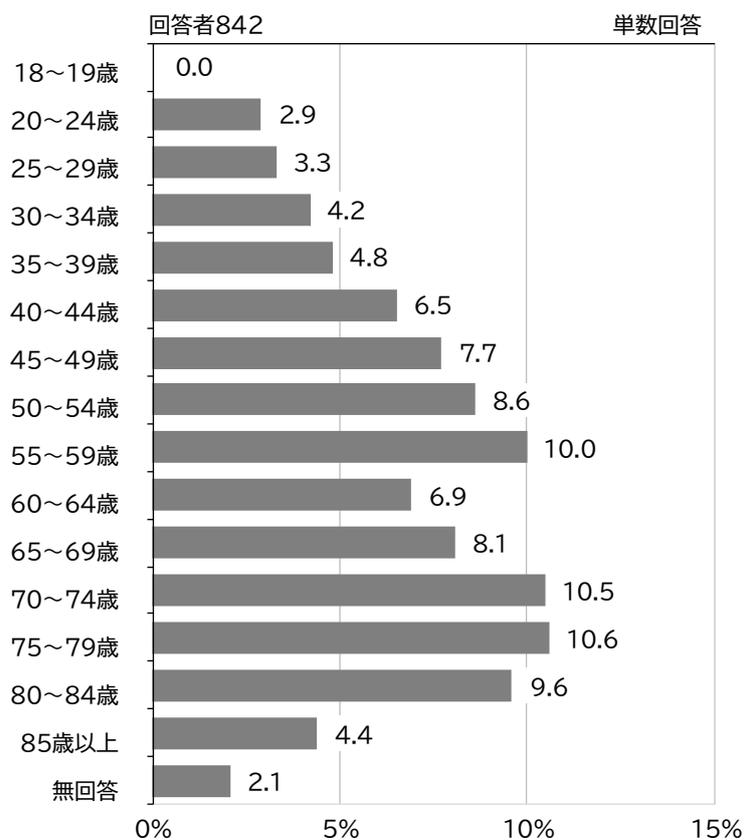
#### ①性別

性別について、「男性」（41.9%）、「女性」（54.9%）、「その他」（0.6%）となっています。



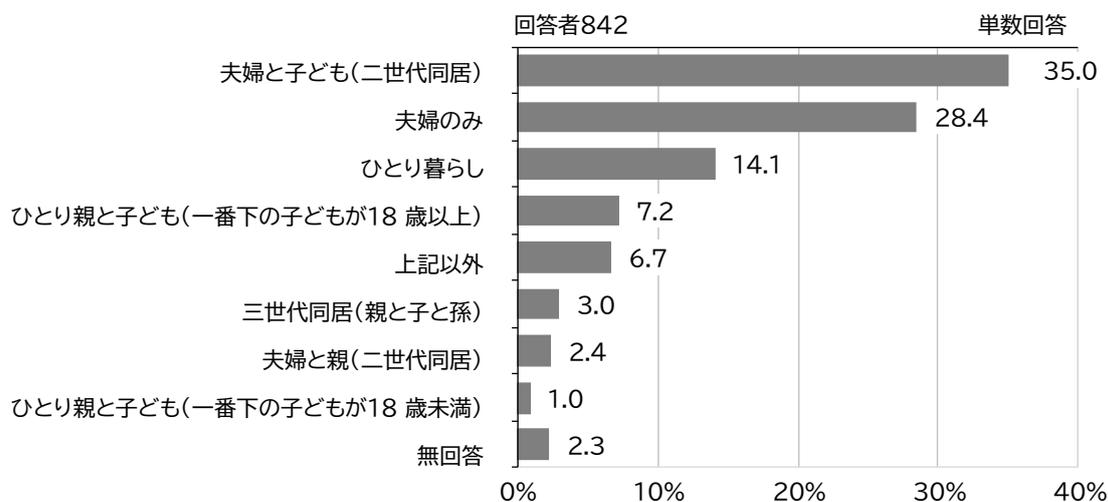
#### ②年齢

年齢について、「75～79歳」（10.6%）が最も多く、次いで「70～74歳」（10.5%）、「55～59歳」（10.0%）となっています。



**問2 現在、あなたの世帯の構成は、次のどれにあたりますか。(1つに○)**

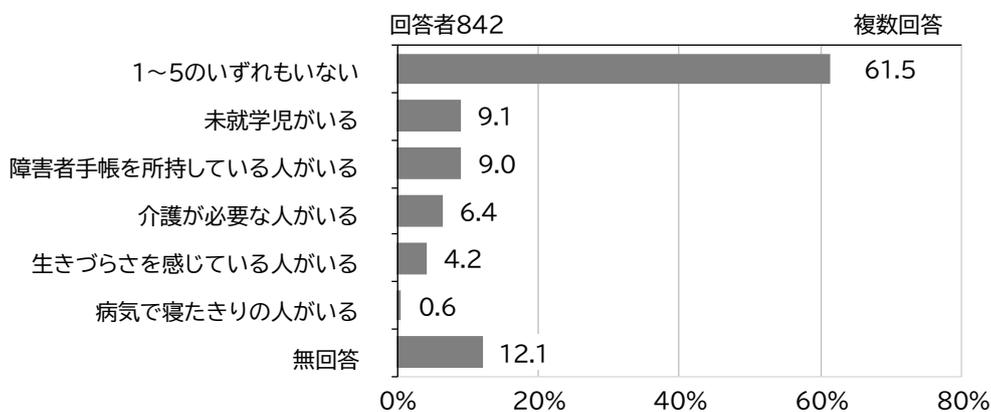
世帯構成について、「夫婦と子ども(二世帯同居)」(35.0%)が最も多く、次いで「夫婦のみ」(28.4%)、「ひとり暮らし」(14.1%)となっています。



**問3 同居している世帯の状況について、あなたご自身を含めてお答えください。**

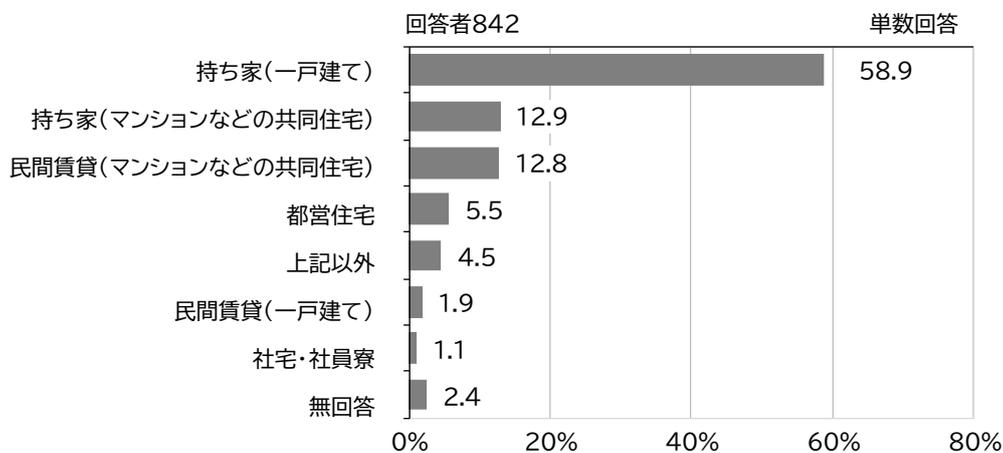
(○はいくつでも)

同居している人(本人を含む)について、「1~5のいずれもない」(61.5%)が最も多く、次いで「未就学児がいる」(9.1%)、「障害者手帳を所持している人がいる」(9.0%)となっています。



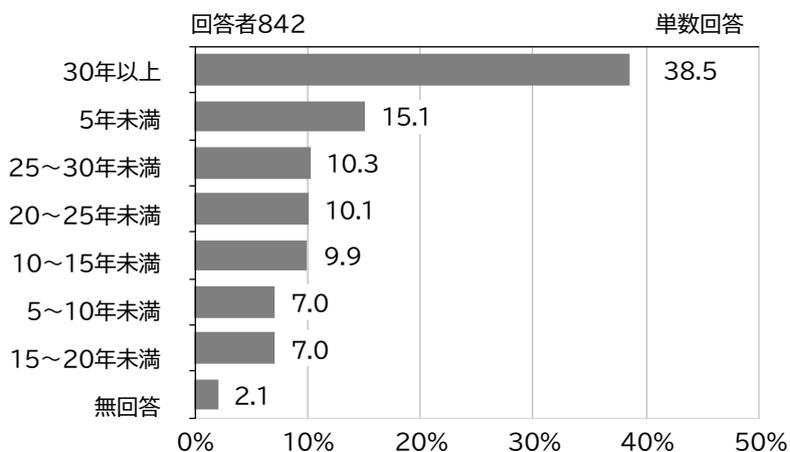
#### 問4 あなたのお住まいの住居形態は、次のどれにあたりますか。(1つに○)

住居形態について、「持ち家(一戸建て)」(58.9%)が最も多く、次いで「持ち家(マンションなどの共同住宅)」(12.9%)、「民間賃貸(マンションなどの共同住宅)」(12.8%)となっています。



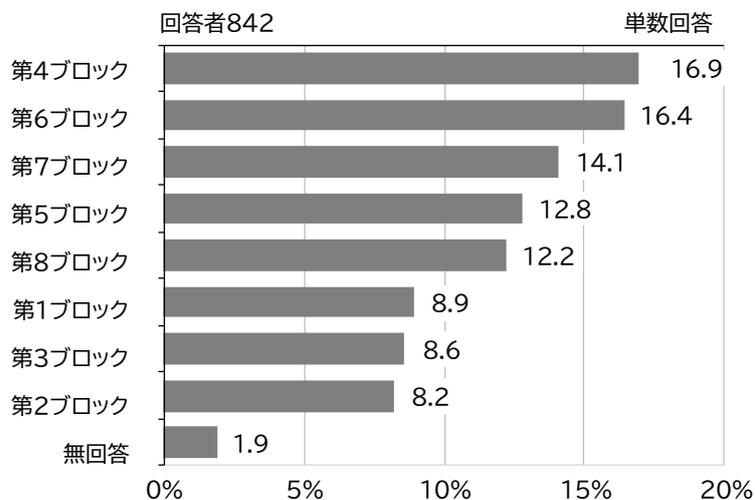
#### 問5 あなたの市内の居住年数(市内での転居を含めた通算)をお答えください。(1つに○)

市内の居住年数(市内での転居を含めた通算)について、「30年以上」(38.5%)が最も多く、次いで「5年未満」(15.1%)、「25~30年未満」(10.3%)となっています。



問6 現在のお住まいの地域は、次のどちらですか。(1つに○)

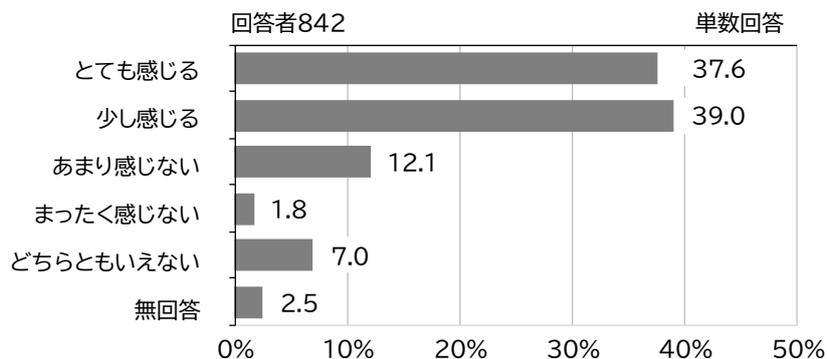
暮らしている地域について、「第4ブロック」(16.9%)が最も多く、次いで「第6ブロック」(16.4%)、「第7ブロック」(14.1%)となっています。



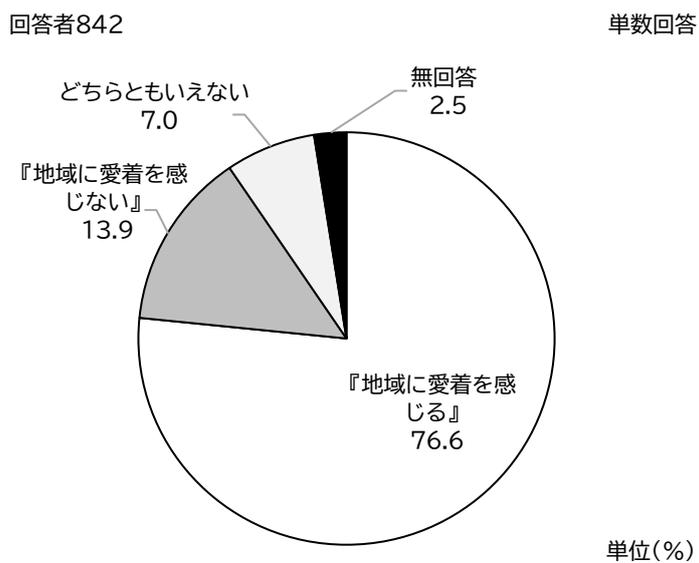
ブロック	含まれる町
1 第1ブロック	上の原、神宝町、金山町、氷川台
2 第2ブロック	大門町、新川町2丁目、浅間町
3 第3ブロック	東本町、新川町1丁目、本町
4 第4ブロック	小山、幸町、下里1・7丁目、野火止、八幡町1丁目
5 第5ブロック	中央町、前沢1・2丁目、八幡町2・3丁目
6 第6ブロック	学園町、ひばりが丘団地、南沢、南町
7 第7ブロック	前沢3～5丁目、滝山、弥生
8 第8ブロック	下里2～6丁目、柳窪

問7 あなたは、お住まいの地域に愛着を感じていますか。(1つに○)

住まいの地域への愛着について、「少し感じる」(39.0%)が最も多く、次いで「とても感じる」(37.6%)、「あまり感じない」(12.1%)となっています。

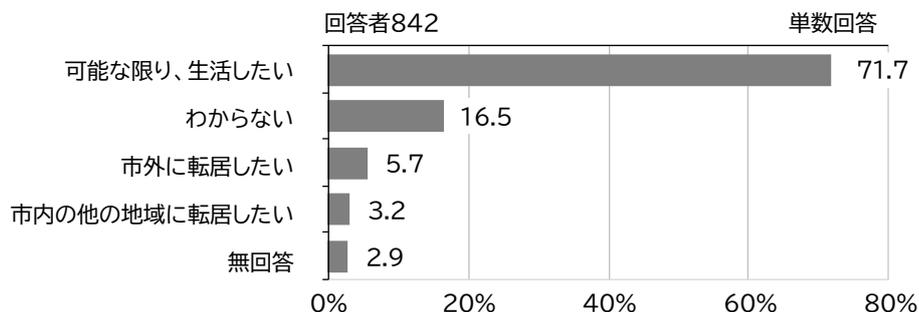


『地域に愛着を感じる』(「とても感じる」+「少し感じる」の合計)(76.6%)が『地域に愛着を感じない』(「あまり感じない」+「まったく感じない」の合計)(13.9%)を大きく上回ります。



問8 あなたは、お住まいの地域で今後も生活していきたいと思えますか。(1つに○)

現在の地域の居留意向について、「可能な限り、生活したい」(71.7%)が最も多く、次いで「わからない」(16.5%)、「市外に転居したい」(5.7%)となっています。



▼問35 自由記述からの意見(抜粋)

◎「市外に転居したい」と回答した人

特定の年齢、地域に偏らず、意見が挙げられています。

ア 子育て支援	ウ 生活環境
子育て支援が充実していない。	保育園、小学校、中学校の学区が遠い。
子育て支援施設が少ない。	公園や道にゴミのポイ捨てが多い。
学童保育の利用が難しい。	車、自転車、歩行者のマナーが悪い。
長期休暇中の子供の居場所がない。	公園の草や枝が伸び放題。
子供が遊べる場所が少ない。	落合川や黒目川沿いゴミだらけ。
子育て世代向けのイベントが少ない。	エ 行政
イ 高齢者への支援	市民の意見を反映してほしい。
高齢者へのサービスが少ない。	行政手続きが煩雑。
高齢者向けの住宅が少ない。	外国人への優遇措置が多い。
高齢者向けのイベントが少ない。	中心から離れた地区は市のサービスを受けづらい。
シルバーパスが都心まで使えない。	村社会感が強い。

◎「市内の他の地域に転居したい」と回答した人

特定の年齢、地域に偏らず、意見が挙げられています。

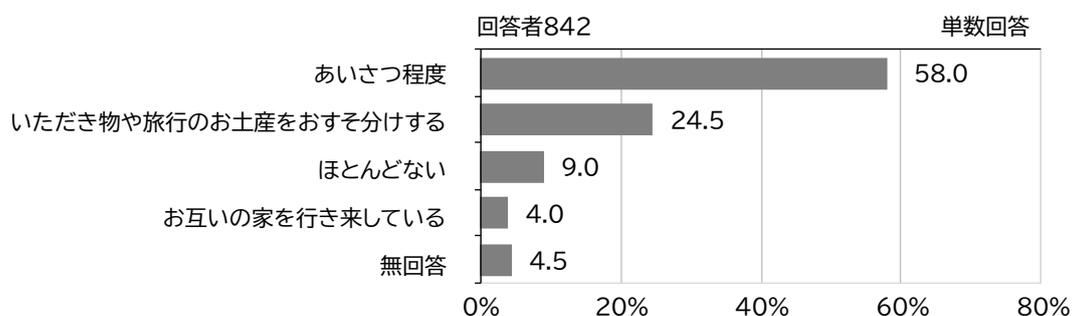
ア 医療施設	ウ 行政、その他
医療施設が遠い。	市民の意見を聞く機会が少ない。
医療施設の充実。	市民の意見を出し合う場が欲しい。
駅・バス停近くに医療施設が欲しい。	世代間の交流が少ない。
イ 生活環境	余っている施設を有効活用してほしい。
都営住宅への入居が難しい。	高齢者ばかりで不安。
移動に時間がかかる場所が多い。	子育てに関する情報が少ない。
高齢者向けの住居が少ない。	移動手段の改善。
浅間町の道路環境が悪い。	高齢者や障害者への支援。
近所の人からの偏見や差別がある。	

## 2 近所付き合い、地域の暮らしについて

問9 ふだん、となり近所とは、どのようなお付き合いをされていますか。

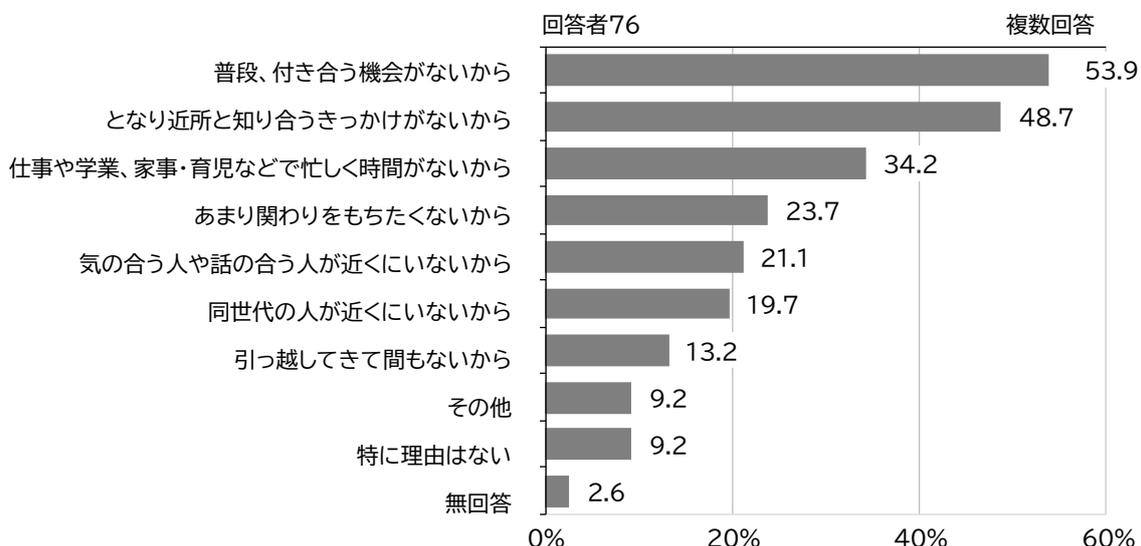
(主なものを1つに○)

となり近所との付き合いの程度について、「あいさつ程度」(58.0%)が最も多く、次いで「いただき物や旅行のお土産をおすそ分けする」(24.5%)、「ほとんどない」(9.0%)となっています。



付問 前問で「4 ほとんどない」と答えた方におたずねします。近所付き合いをしていない主な理由は何ですか。(○はいくつでも)

近所付き合いをしていない人のその主な理由について、「普段、付き合う機会がないから」(53.9%)が最も多く、次いで「となり近所と知り合うきっかけがないから」(48.7%)、「仕事や学業、家事・育児などで忙しく時間がないから」(34.2%)となっています。



### ▼自由記述の意見 (抜粋)

- 過干渉してくる。
- トラブルになりたくない。
- 最近越して来た方達は挨拶もない。
- こちらから挨拶をしても返ってこない。

問10 (同居をしていない家族や友人のうち、一番親しい方を思い浮かべて回答してください) あなたとその方とのコミュニケーションの頻度について、ア～ウごとにそれぞれお答えください。(それぞれ〇は1つ)

最も親しい方とのコミュニケーションの方法と頻度は次の通りです。

ア 直接会って話すについて、「月1回未満」(21.3%)が最も多く、次いで「月1回程度」(19.4%)、「週1回程度」(12.9%)となっています。

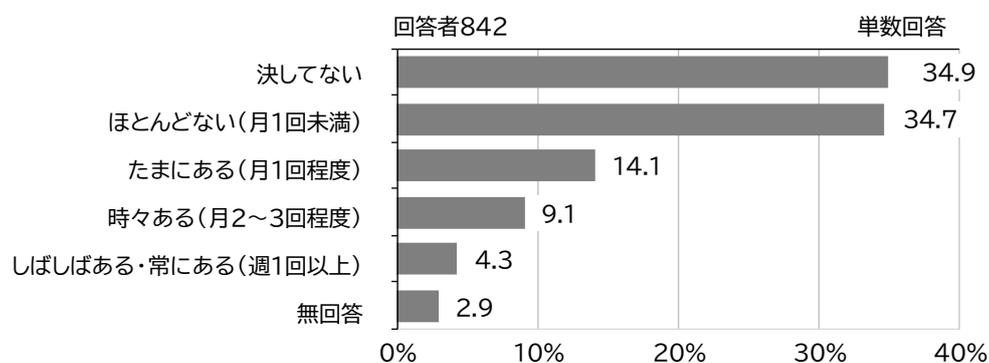
イ 電話(ビデオ通話含む)について、「月1回未満」(17.7%)が最も多く、次いで「月1回程度」(14.1%)、「全くない」(12.1%)となっています。

ウ SNS(LINEなど)、電子メール、ショートメールについて、「週4～5回以上」(14.1%)が最も多く、次いで「週2～3回程度」(13.2%)、「週1回程度」(12.4%)となっています。

網掛は各項目の第1位 項目毎の単数回答(%)	回答者数 (人)	週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない	無回答
ア 直接会って話す	842	6.8	9.7	12.9	8.2	19.4	21.3	5.8	15.9
イ 電話(ビデオ通話含む)	842	4.6	9.5	8.9	10.2	14.1	17.7	12.1	22.8
ウ SNS(LINEなど)、電子メール、ショートメール	842	14.1	13.2	12.4	9.4	10.6	7.2	9.6	23.5

問11 あなたは、日頃の生活の中で、孤独であると感じることがありますか。(1つに〇)

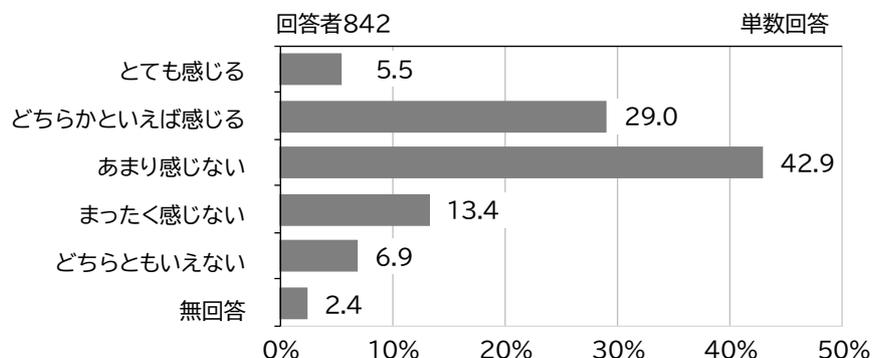
日頃の生活で孤独を感じるかについて、「決してない」(34.9%)が最も多く、次いで「ほとんどない(月1回未満)」(34.7%)、「たまにある(月1回程度)」(14.1%)となっています。



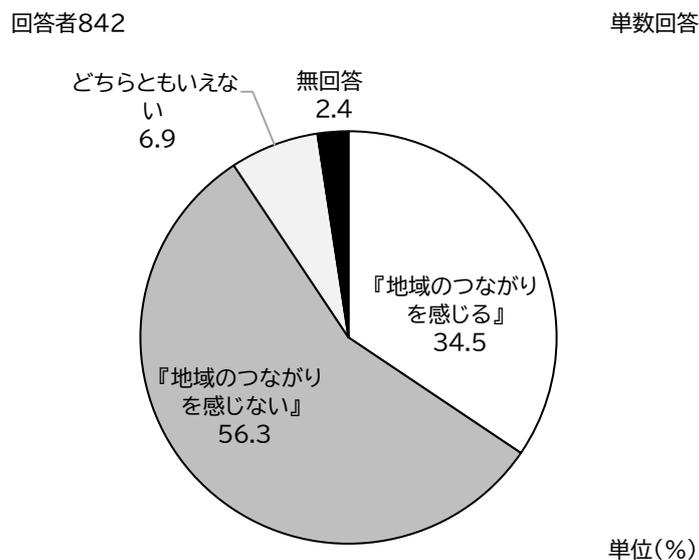
問12 あなたのお住まいの地域では、お互いに助け合う「地域のつながり」を感じますか。

(1つに○)

現在の居住地域におけるお互いに助け合う「地域のつながり」の実感について、「あまり感じない」(42.9%)が最も多く、次いで「どちらかといえば感じる」(29.0%)、「まったく感じない」(13.4%)となっています。



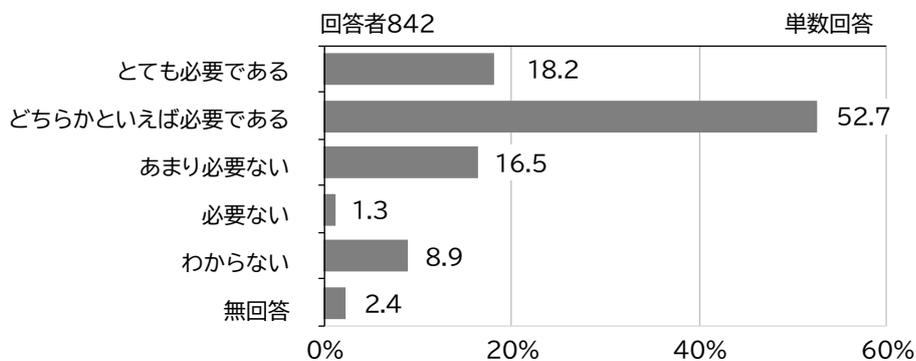
『地域のつながりを感じる』(「とても感じる」 + 「どちらかといえば感じる」の合計)は34.5%、『地域のつながりを感じない』(「あまり感じない」 + 「まったく感じない」の合計)は56.3%となっています。



問13 あなたは、現在の地域での暮らしに「地域のつながり」は必要だと思いますか。

(1つに○)

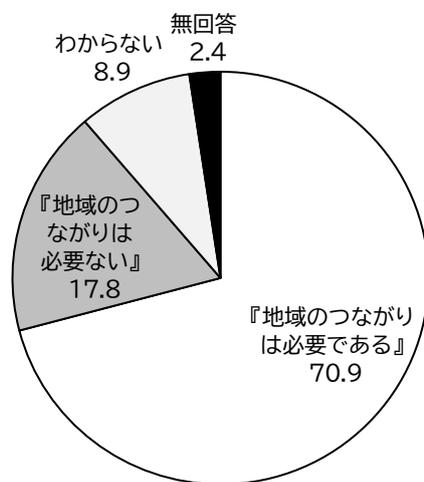
現在の暮らしにおける「地域のつながり」の必要度について、「どちらかといえば必要である」(52.7%)が最も多く、次いで「とても必要である」(18.2%)、「あまり必要ない」(16.5%)となっています。



『地域のつながりは必要である』(「とても必要である」+「どちらかといえば必要である」の合計)は70.9%、『地域のつながりは必要ない』(「あまり必要ない」+「必要ない」の合計)は17.8%となっています。

回答者842

単数回答

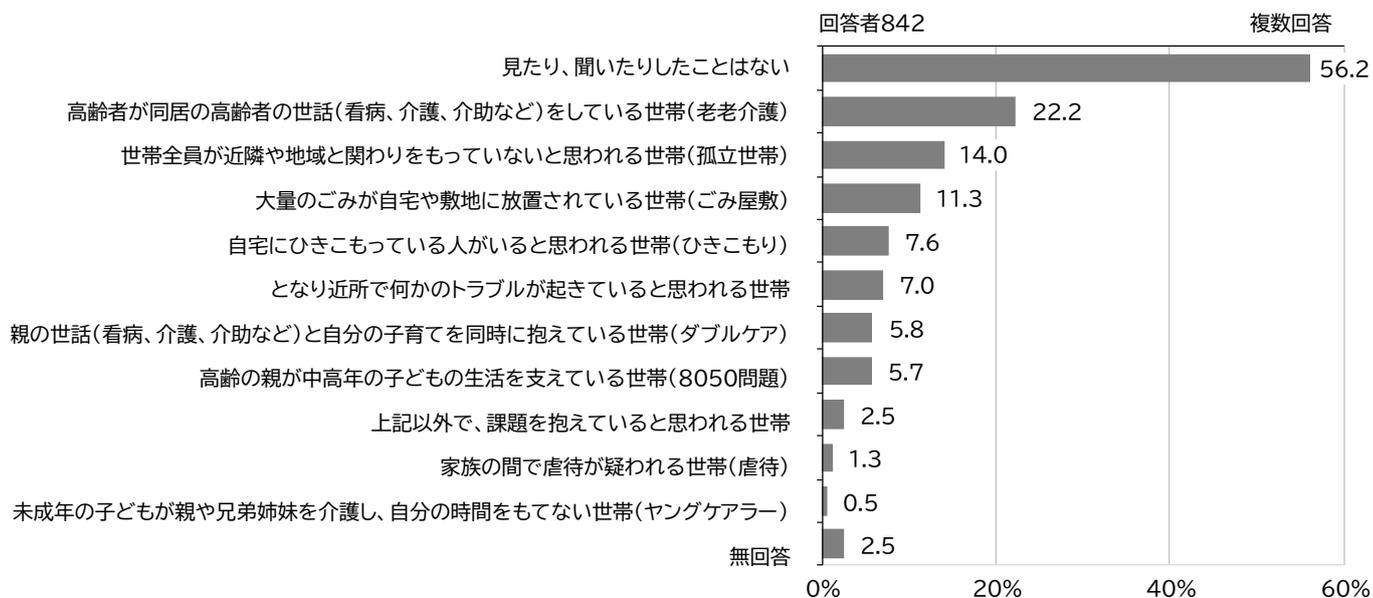


単位(%)

問14 あなたの地域で次のような世帯を見たり、聞いたりしたことがありますか。

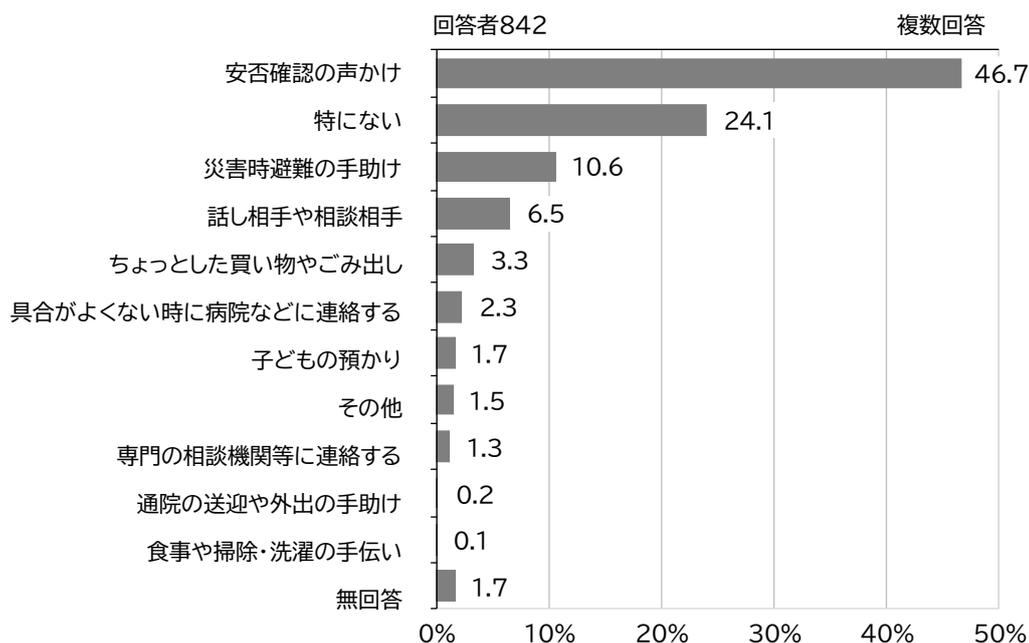
(〇はいくつでも)

支援が必要と思われる世帯の状況について、「見たり、聞いたりしたことはない」(56.2%)が最も多く、次いで「高齢者が同居の高齢者の世話(看病、介護、介助など)をしている世帯(老老介護)」(22.2%)、「世帯全員が近隣や地域と関わりをもっていないと思われる世帯(孤立世帯)」(14.0%)となっています。



問15 あなたは、まわりの人(家族以外)に手助けできること(してもいいこと)はありますか。(〇はいくつでも)

まわりの人(家族以外)に手助けできること(してもいいこと)について、「安否確認の声かけ」(46.7%)が最も多く、次いで「特にない」(24.1%)、「災害時避難の手助け」(10.6%)となっています。



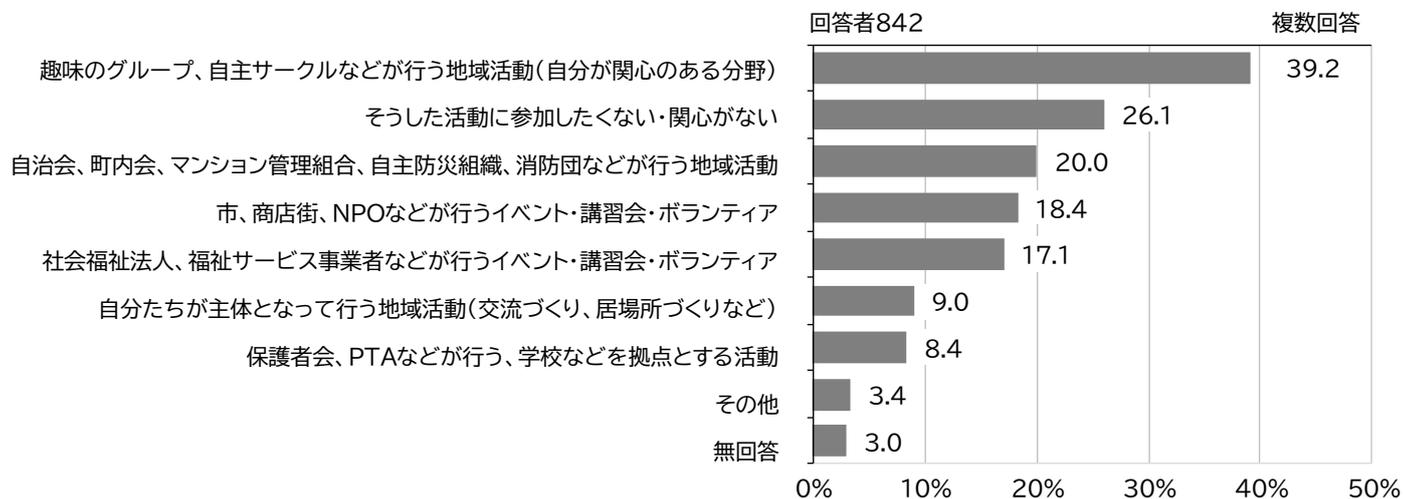
▼自由記述の意見（抜粋）

- 保育園の送り迎え。
- 生垣の剪定。
- 料理のおすそわけ。
- 隣の空家の周囲の掃除。
- お隣さんに何かあったら声かけて下さいと伝えている。
- 時々、話を聞いてあげる。
- 高齢一人暮らしの方の親族連絡先を預かる。
- 高齢者のスマホで、分からない所を教えてあげる。
- 犬の散歩代行。
- 意外と迷惑がられる。
- やりたいけど、やり方が分からない。

### 3 地域の活動について

問16 あなたが地域に参加するとしたら、どのような活動に参加したい（しやすい）ですか。  
現在の活動の有無に関係なく、お答えください。（〇はいくつでも）

参加したい（しやすい）地域活動について、「趣味のグループ、自主サークルなどが行う地域活動（自分が関心のある分野）」(39.2%) が最も多く、次いで「そうした活動に参加したくない・関心がない」(26.1%)、「自治会、町内会、マンション管理組合、自主防災組織、消防団などが行う地域活動」(20.0%) となっています。

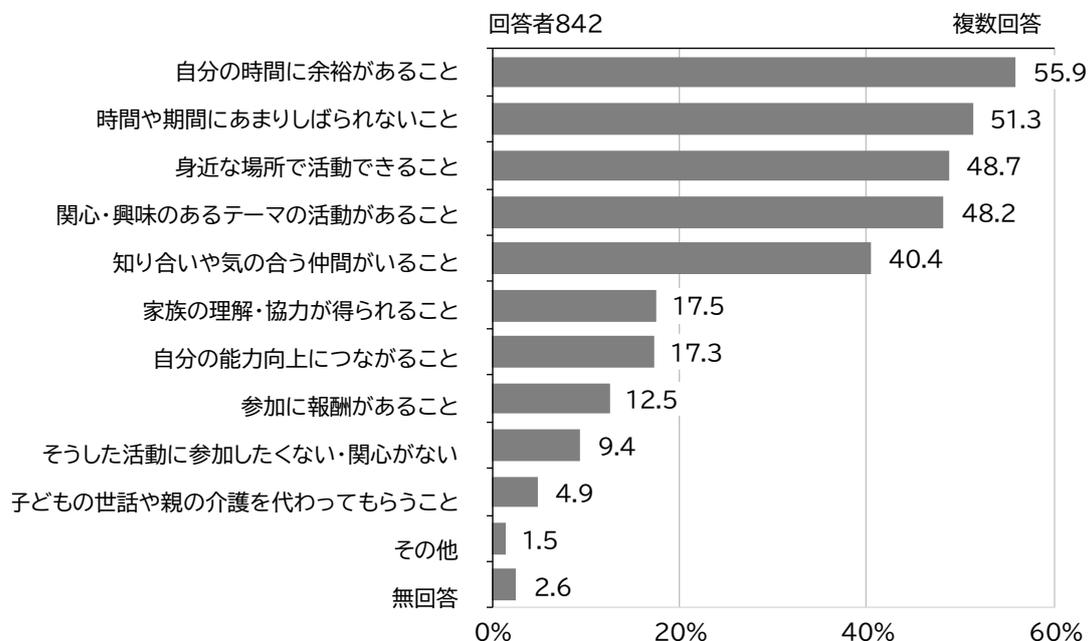


▼自由記述の意見（抜粋）

- 小さな子がいる共働き世帯のサポート。
- 毎朝近くの広場でラジオ体操ができればよい。
- 犯罪被害者のケアが期待できる活動。
- 市民農園。
- やりたいけど、やり方が分からない。
- 仕事が忙しいので、参加したいけど参加できない。

問17 あなたは、どのような環境があると地域活動に参加しやすいと思いますか。現在の活動の有無に関係なく、お答えください。（〇はいくつでも）

地域活動に参加しやすい条件について、「自分の時間に余裕があること」（55.9%）が最も多く、次いで「時間や期間にあまりしぼられないこと」（51.3%）、「身近な場所で活動できること」（48.7%）となっています。

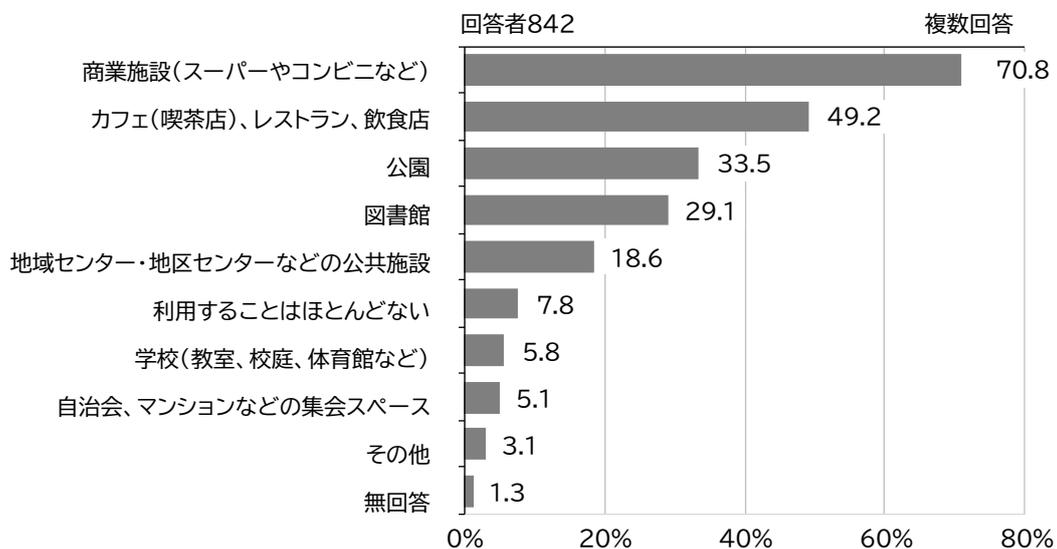


▼自由記述の意見（抜粋）

- 活動を気軽に休める事。
- 参加するための費用の自己負担がない。
- 必要経費（消耗品、機材）、活動場所使用料の負担。
- 金銭的余裕があるとき。

問18 あなたが身近な地域（自宅以外）で利用する場所がありますか。（〇はいくつでも）

地域（自宅以外）で利用する身近な場所について、「商業施設（スーパーやコンビニなど）」（70.8%）が最も多く、次いで「カフェ（喫茶店）、レストラン、飲食店」（49.2%）、「公園」（33.5%）となっています。

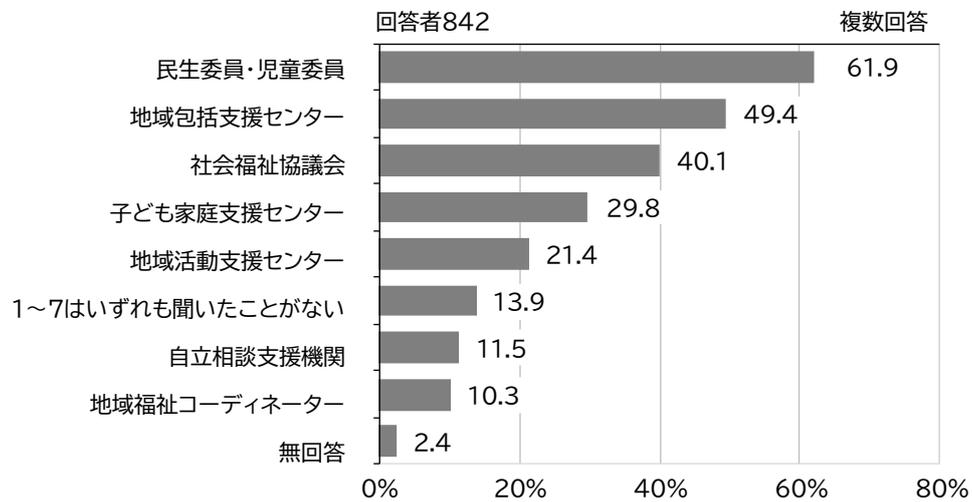


▼自由記述の意見（抜粋）

- 川沿いの遊歩道。
- 市内のスポーツセンター。
- ジム。
- 保育園、児童館。
- ひばりが丘まちにわ。
- 地域の集会所。
- 診療所・クリニック等の医療施設。
- 市民農園。

問19 下記の地域福祉に関する活動や組織について、聞いたことがあるものをお答えください。(〇はいくつでも)

地域福祉に関する活動や組織を知っている割合(認知度)について、「民生委員・児童委員」(61.9%)が最も多く、次いで「地域包括支援センター」(49.4%)、「社会福祉協議会」(40.1%)となっています。

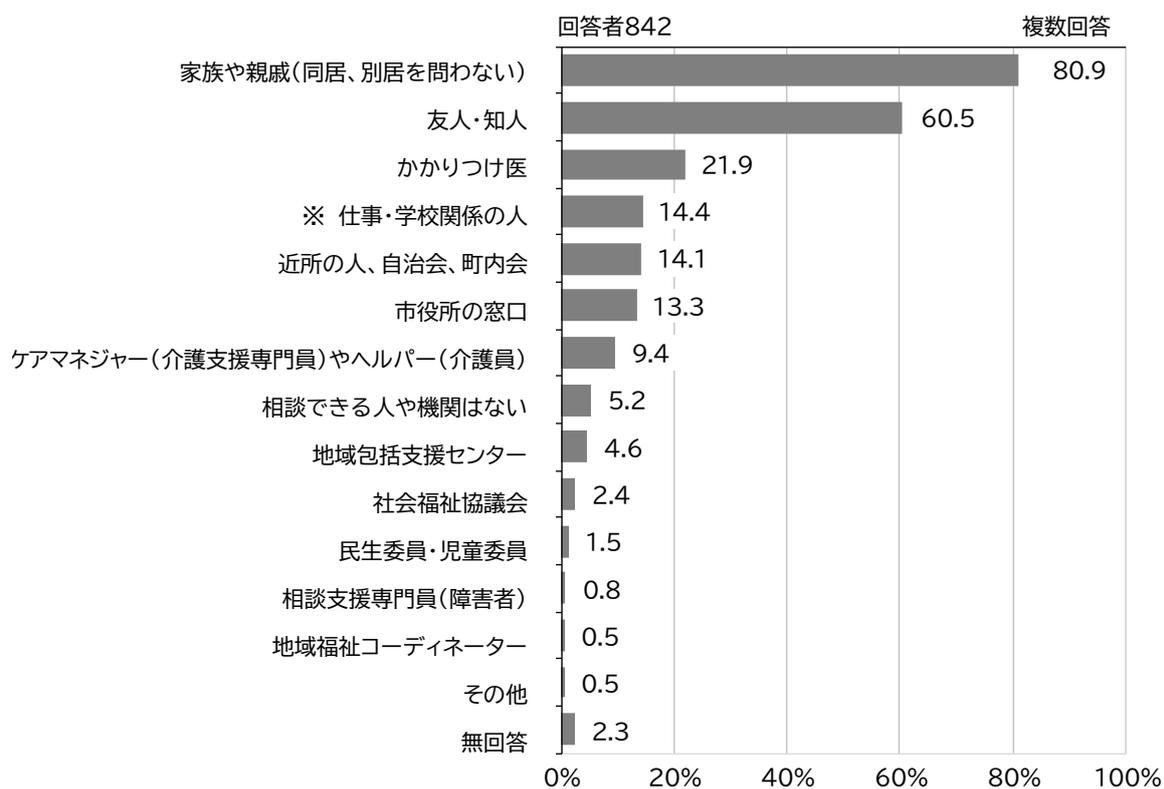


## 4 相談や情報について

問20 あなたやご家族が日常生活での困りごとを相談できる人や機関はありますか。

(〇はいくつでも)

回答者本人や家族の日常生活の困りごとの相談相手について、「家族や親戚（同居、別居を問わない）」(80.9%)が最も多く、次いで「友人・知人」(60.5%)、「かかりつけ医」(21.9%)となっています。



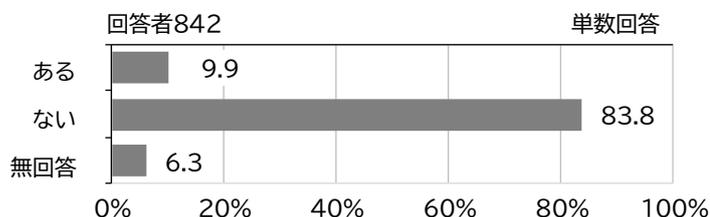
※調査票の選択肢は「仕事・学校関係の人（職場の同僚、保育所・幼稚園・学校の先生やカウンセラー）」

### ▼自由記述の意見（抜粋）

- 福祉事務所、婦人相談員。
- 主治医の先生。
- 作業所スタッフ。

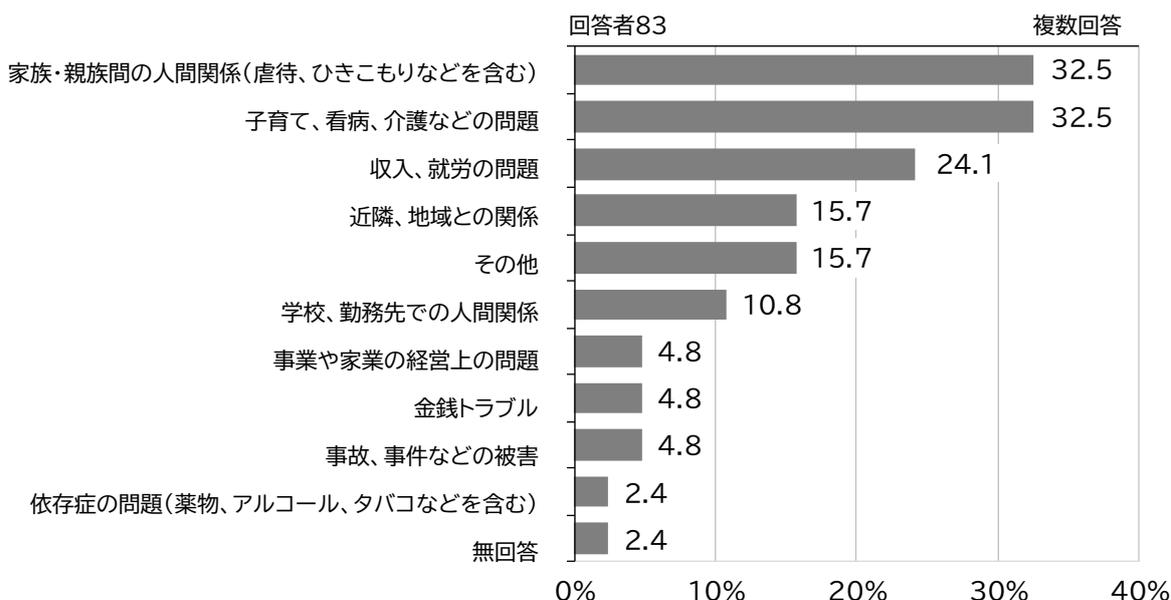
問21 現在、あなた自身やご家族は、どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えていますか。(1つに○)

回答者本人や家族がどこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えているかについて、「ある」(9.9%)、「ない」(83.8%)となっています。



付問 前問で「1 ある」と答えた方におたずねします。お困りの内容は何ですか。(○はいくつでも)

困りごとがある人の困りごとの内容について、「家族・親族間の人間関係(虐待、ひきこもりなどを含む)」(32.5%)と「子育て、看病、介護などの問題」(32.5%)が最も多く、次いで「収入、就労の問題」(24.1%)となっています。



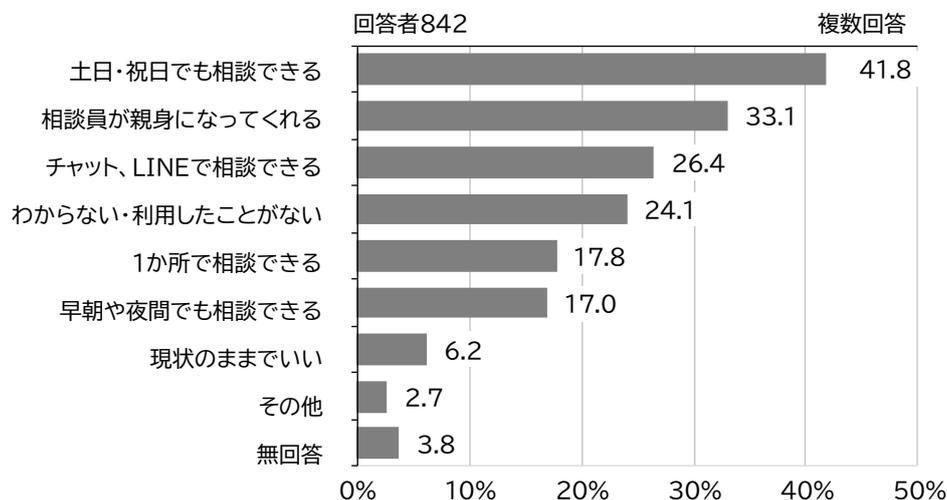
▼自由記述の意見(抜粋)

- 親の認知症。
- お墓のこと。
- 隣の木の枝が伸びている。
- 田舎の留守宅、屋敷。
- 老後の介護施設。老人ホームの選択など。
- 商品契約の揉め事。
- 市役所とのトラブル。
- 市に相談するところが無さそう。相手にされなさそう。

問22 あなたにとって、市役所、社会福祉協議会がより相談しやすくなる方法は何ですか。

(〇はいくつでも)

市役所、社会福祉協議会がより相談しやすくなる方法について、「土日・祝日でも相談できる」(41.8%)が最も多く、次いで「相談員が親身になってくれる」(33.1%)、「チャット、LINEで相談できる」(26.4%)となっています。



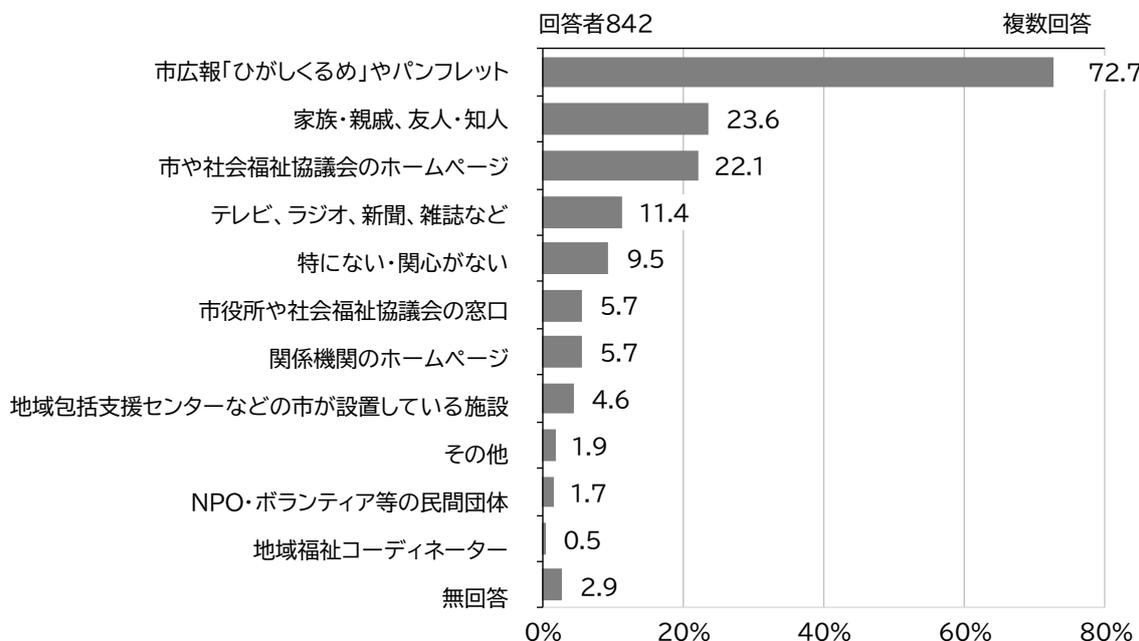
▼自由記述の意見（抜粋）

- メールで相談できる。
- アウトリーチを積極的にやる。
- 市役所以外の所で相談うける。スーパー、学校、まろにえホール等。
- 自宅の近くに出張所などがある。
- どんなことを相談してよいか発信する。
- 何をどこに相談すれば良いかのサポート。
- 相談当初は匿名で相談できる。
- 相談員が知識豊富であること。
- アドバイスで終わらず、具体的な解決策までを指示できる人材育成に力を入れてほしい。
- 相談しても解決できない。

問23 あなたは、市の福祉（サービス）に関する知識や情報をどこから得ていますか。

（〇はいくつでも）

市の福祉（サービス）に関する知識や情報の入手先について、「市広報「ひがしくるめ」やパンフレット」（72.7%）が最も多く、次いで「家族・親戚、友人・知人」（23.6%）、「市や社会福祉協議会のホームページ」（22.1%）となっています。



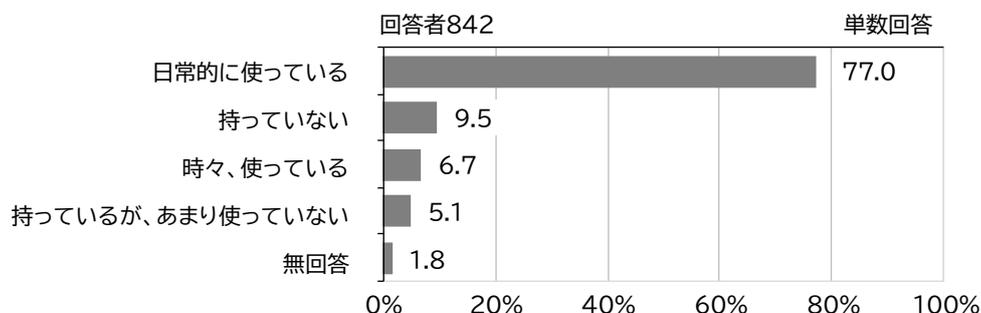
▼自由記述の意見（抜粋）

- ご近所。
- かかりつけ医。
- ケアマネジャー。
- 老人会。
- 入所している施設。
- 得られる場所がわからない。

問24 あなたは、スマートフォン、タブレット、パソコンのいずれかを使っていますか。

最も使うものの頻度でお答えください。(1つに○)

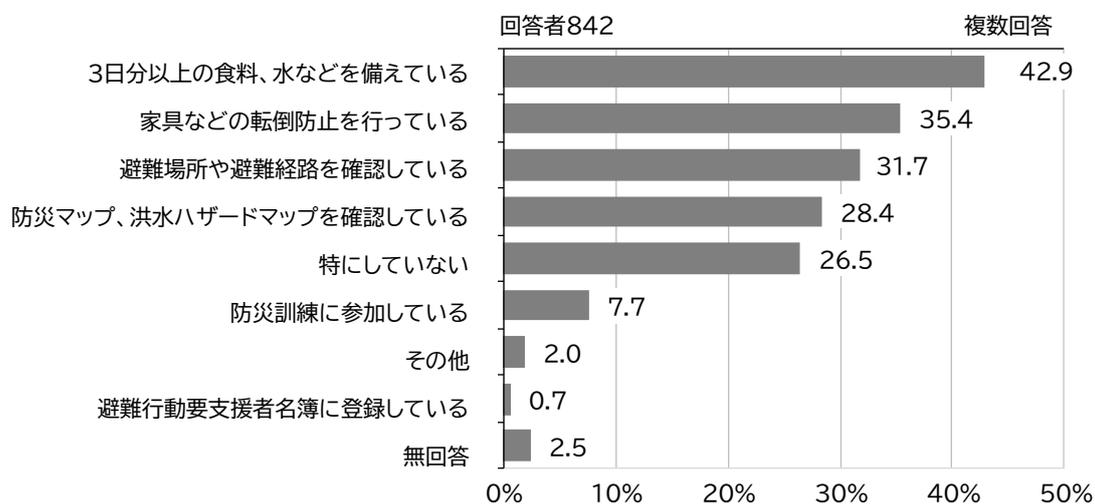
スマートフォン、タブレット、パソコンで最も使うものの利用頻度について、「日常的に使っている」(77.0%)が最も多く、次いで「持っていない」(9.5%)、「時々、使っている」(6.7%)、「持っているが、あまり使っていない」(5.1%)となっています。



## 5 災害への備えについて

問25 あなたは、日頃から、災害発生時に備えていますか。(○はいくつでも)

日頃からの災害発生時の備えについて、「3日以上の食料、水などを備えている」(42.9%)が最も多く、次いで「家具などの転倒防止を行っている」(35.4%)、「避難場所や避難経路を確認している」(31.7%)となっています。



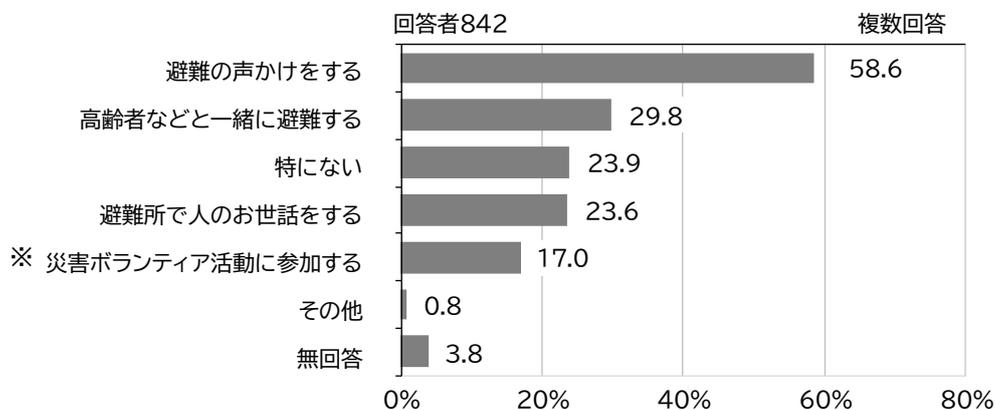
### ▼自由記述の意見 (抜粋)

- 防災バックを常備。
- 1~2日程度の水、食料。
- 子供達と待ち合わせ場所を決めている。
- 防災士の資格取得。
- 自治会の防災説明会。

問26 あなたは、災害発生時に地域の防災活動に協力できることはありますか。

(〇はいくつでも)

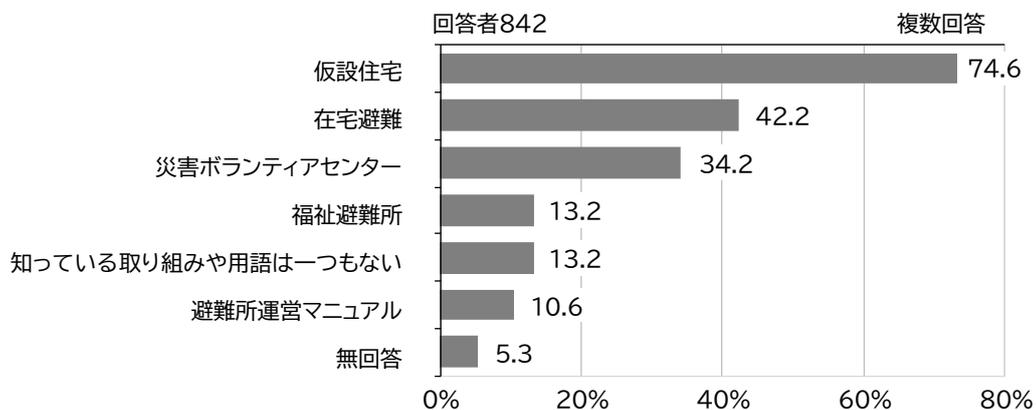
災害発生時に地域の防災活動に協力できることについて、「避難の声かけをする」(58.6%)が最も多く、次いで「高齢者などと一緒に避難する」(29.8%)、「特にない」(23.9%)となっています。



※調査票の選択肢は「(自身や家族の状況が許されれば) 災害ボランティア活動に参加する」

問27 あなたは以下の防災の取り組みや用語について知っていますか。(〇はいくつでも)

防災の取り組みや用語を知っている割合(認知度)について、「仮設住宅」(74.6%)が最も多く、次いで「在宅避難」(42.2%)、「災害ボランティアセンター」(34.2%)となっています。



## 6 権利擁護支援について

### 問28 あなたは、権利擁護に関することについて知っていますか。（それぞれ○は1つ）

権利擁護制度に関する認知度は次の通りです。

ア 成年後見制度について、「聞いたことはある（内容は知らない）」(37.3%) が最も多く、次いで「内容を知っている」(33.3%)、「知らない」(22.6%) となっています。

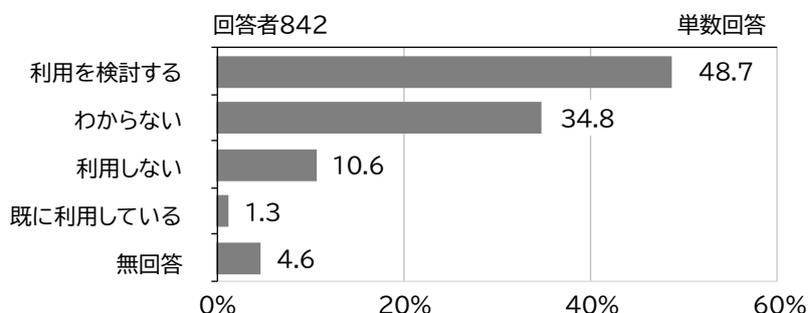
イ 任意後見制度について、「知らない」(45.6%) が最も多く、次いで「聞いたことはある（内容は知らない）」(29.3%)、「内容を知っている」(15.6%) となっています。

ウ 社会貢献型後見人（市民後見人）について、「知らない」(67.9%) が最も多く、次いで「聞いたことはある（内容は知らない）」(16.9%)、「内容を知っている」(4.3%) となっています。

網掛は各項目の第1位 項目毎の単数回答 (%)	回答者数 (人)	内容を知って いる	聞いたことは ある（内容は 知らない）	知らない	無回答
ア 成年後見制度	842	33.3	37.3	22.6	6.9
イ 任意後見制度	842	15.6	29.3	45.6	9.5
ウ 社会貢献型後見人 (市民後見人)	842	4.3	16.9	67.9	10.9

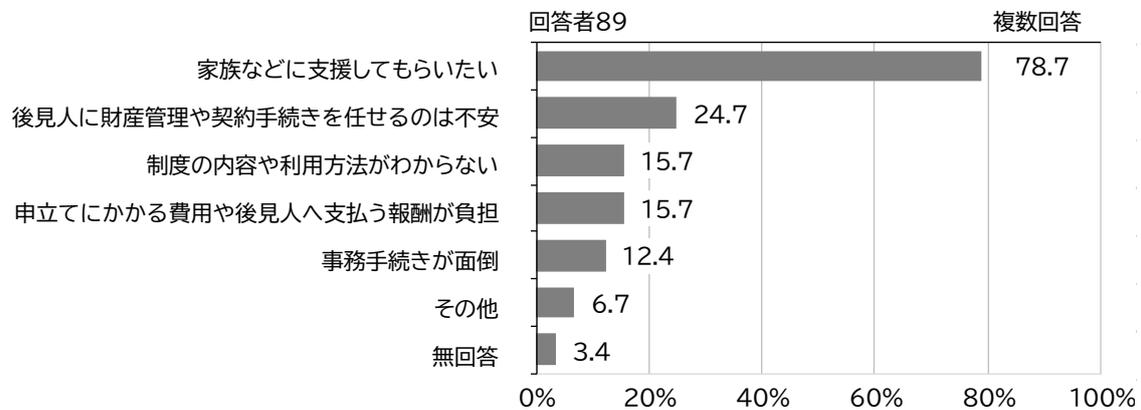
### 問29 あなたやご家族のどなたかが認知症などによって判断が十分にできなくなる場合に備えて、あるいは、できなくなった場合、上記（問28）ア～ウのうち、いずれかの制度を利用したいと思いますか。（1つに○）

回答者本人や家族が認知症などによって判断が十分にできなくなる（できなくなった）場合に備えた将来の権利擁護制度の利用意向について、「利用を検討する」(48.7%) が最も多く、次いで「わからない」(34.8%)、「利用しない」(10.6%) となっています。



付問 前問で「3 利用しない」と答えた方におたずねします。制度を利用しない主な理由は何ですか。（〇はいくつでも）

権利擁護制度を利用しないと回答した人の利用しない主な理由について、「家族などに支援してもらいたい」（78.7%）が最も多く、次いで「後見人に財産管理や契約手続きを任せるのは不安」（24.7%）、「制度の内容や利用方法がわからない」（15.7%）となっています。

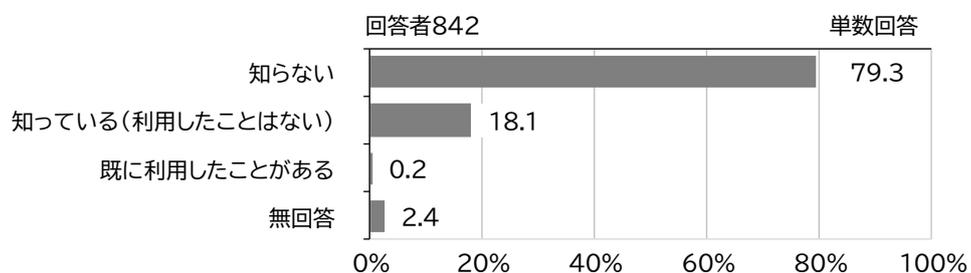


▼自由記述の意見（抜粋）

- ひとり身である。
- 身寄りがいる。
- 実際の問題として直面してみないとわからない。
- ものすごく時間と手間がかかると聞いた。
- 自分が後見人になったが、あまりにも裁判所が厳し過ぎる。

問30 あなたは、東久留米市社会福祉協議会で遺言相続・成年後見制度相談ができることを知っていますか。（1つに〇）

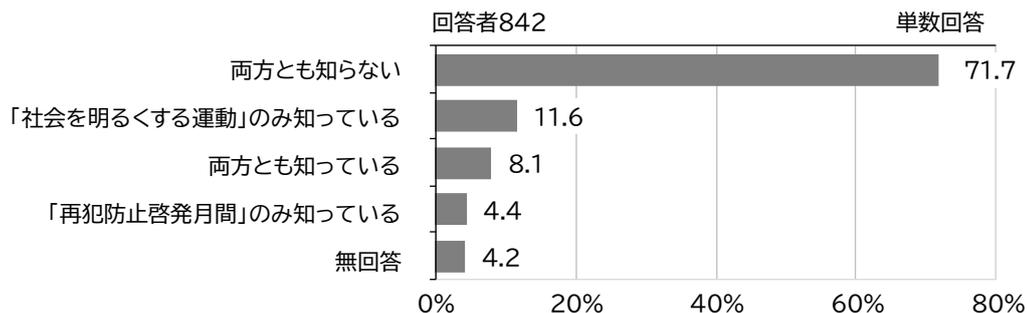
東久留米市社会福祉協議会の遺言相続・成年後見制度相談の認知度について、「知らない」（79.3%）が最も多く、次いで「知っている（利用したことはない）」（18.1%）、「既に利用したことがある」（0.2%）となっています。



## 7 立ち直りを支援するまちづくり（再犯防止）について

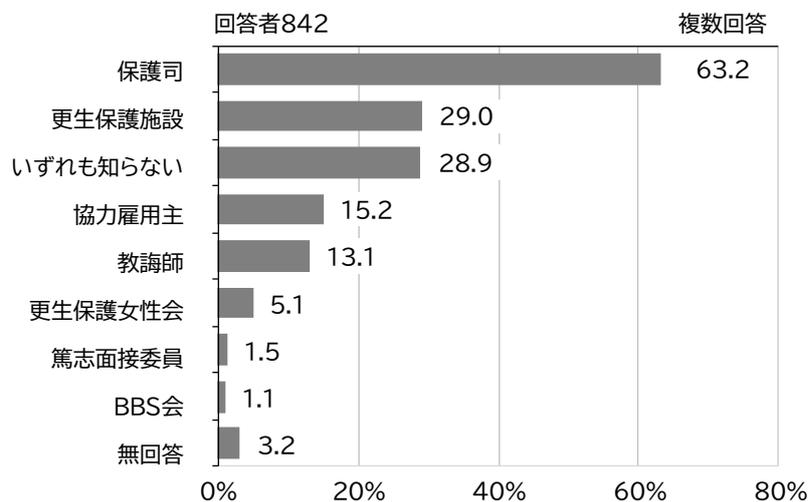
問31 犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動である「社会を明るくする運動」や「再犯防止啓発月間」を知っていますか。（1つに○）

犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動である「社会を明るくする運動」や「再犯防止啓発月間」の認知度について、「両方とも知らない」（71.7%）が最も多く、次いで「社会を明るくする運動」のみ知っている（11.6%）、「両方とも知っている」（8.1%）、「再犯防止啓発月間」のみ知っている（4.4%）、「無回答」（4.2%）となっています。



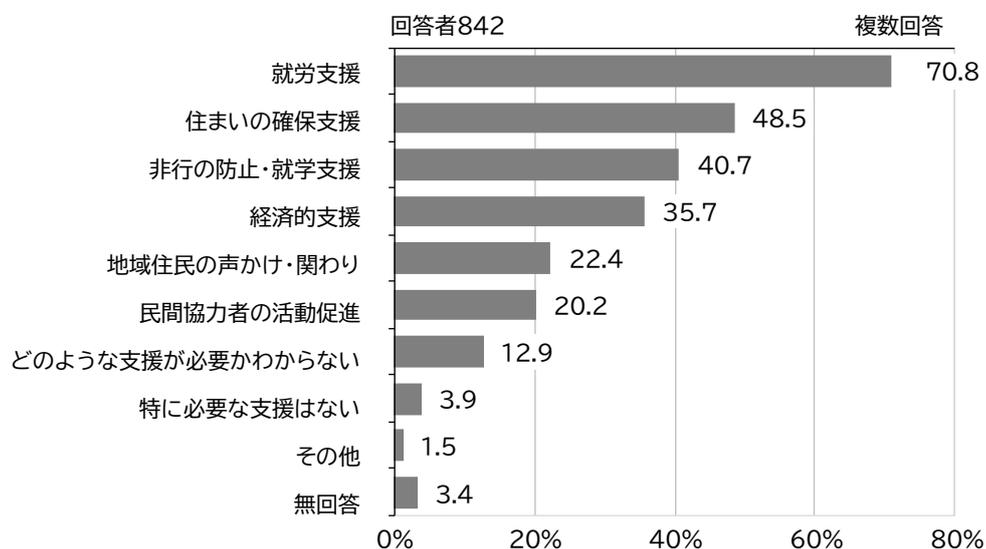
問32 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生に協力する下記の民間協力者がいることを知っていますか。（○はいくつでも）

犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生に協力する民間協力者を知っている割合（認知度）について、「保護司」（63.2%）が最も多く、次いで「更生保護施設」（29.0%）、「いずれも知らない」（28.9%）となっています。



**問33 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを応援し、社会復帰を果たすために、市が行う支援として何が重要だと考えますか。（〇はいくつでも）**

犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを応援し、社会復帰を果たすために、市が行う支援として重要なことについて、「就労支援」(70.8%)が最も多く、次いで「住まいの確保支援」(48.5%)、「非行の防止・就学支援」(40.7%)となっています。



▼自由記述の意見（抜粋）

- 市が責任を持って担当部署を作り、見回り・立ち直り支援を職員で行って欲しい。住民任せではダメ。
- 相談員。
- 心のケア。
- 非行を行う若い子はストレスの発散場所（なるべくお金のかからない場所）が必要。
- 背景や事情があるにしろ、罪を犯した人に支援もどうなのと思ってしまう。

## 8 市の地域福祉について

問34 あなたご自身、お住まいの地域を暮らしやすくするためにしたいこと、できることがありましたら、ご自由にご記入ください。（自由記述）

---

210人からご意見をいただきました。

①したいこと、できることの主な意見は次のとおりです。

- 自治会活動への参加。
- 近所づきあいを良好にする。
- あいさつ、隣近所への声掛け。
- 体操や散歩を通じて知り合いを増やす。
- ボランティア活動（ごみ拾い、清掃、声掛け、話し相手等）。
- 勉強や読書等で長居できる居場所（駅前以外）。
- 子どもの安全を守る見回り。
- 地域の人たちをつなげる交流の場づくり。

②地域を暮らしやすくするための要望をみると次のとおりです。

- 環境対策（家の周囲や道路のごみ対策、空き家やごみ屋敷対策）。
- 安全対策（街灯や防犯カメラの増設、歩道のバリアフリー化、安全施設整備）。
- 防犯対策（不審者から子どもの安全を守る環境づくり）。
- 市内の交通環境（くるぶー）の利便性向上。

問35 最後に、市の地域福祉を進める取組について、ご意見・ご提案がありましたら、ご自由にご記入ください。また、問33以前の回答の具体的な理由があればご記入ください。（自由記述）

---

196人からご意見をいただきました。

①地域福祉を進める視点から整理した主な意見は次のとおりです。

- 地域コミュニティの活性化（活動停滞、人材不足等を含む）。
- 交流機会や地域の居場所の拡充。
- 情報発信の充実（周知不足、デジタルデバイド対策等を含む）。
- ボランティア活動（意欲あり、踏み出せないを含む）。
- 市民の声を聴くこと、若者の意見の反映。

②分野別で見ると次のとおりです。

- 子育て（保育園、サービス、遊びの場等）。
- 高齢者（サービス、経済支援等）。
- 生活環境（市内の交通（バス）、道路整備、ごみ問題等）。

## 第4章 調査結果からの考察

(注) 割合を文章にする場合の表記ルールは次の通りです。

% (例 50.0%)	48.0~49.9%	50.0%	50.1~53.0%	53.1~57.9%
表記	5割近く	5割	5割強	5割半ば

(注) 全体結果と概ね同様の傾向である属性分析結果を省略している場合があります。

### 回答者属性

#### 【性別】

- 回答者の性別（問1①）は、「男性」（41.9%）、「女性」（54.9%）、「その他」（0.6%）となり、女性が多く回答しています。
- 回答者の男女割合は、母集団（18歳以上市民の男女割合）に比べて「女性」の割合がやや多いものの、母集団の割合に近いことから、調査結果は母集団の意見を概ね反映していると考えられます。

(%)	男性	女性	その他	無回答
回答者	41.9	54.9	0.6	2.6
母集団	48.4	51.6		

#### 【年齢】

- 回答者の年齢（問1②）は、大きく分けると「65歳以上」（43.2%）が最も多く、次いで「40~64歳」（39.7%）、「18~39歳」（15.2%）となり、65歳以上が多く回答しています。
- 回答者の年齢割合は、母集団（18歳以上市民の年齢割合）に比べて「18~39歳」は約10ポイント少ない、「40~64歳」は約3ポイント少ない、「65歳以上」は約11ポイント多いことから、調査結果は65歳以上の意見がやや強く反映されていると考えられます。

(%)	18~39歳	40~64歳	65歳以上	無回答
回答者	15.2	39.7	43.2	2.1
母集団	25.5	42.5	32.0	

### 【世帯構成】

- 回答者の世帯構成（問2）は、全体では「夫婦と子ども（二世帯同居）」（35.0%）が最も多く、次いで「夫婦のみ」（28.4%）となっています。
- 「ひとり暮らし」は65歳以上が6割半ばを占めています。

(%)	20～39歳	40～64歳	65歳以上	無回答
ひとり暮らし	8.4	26.0	65.5	0.0

- 回答者の世帯構成は、地域別でも全体結果と概ね同様の傾向です。

地域ブロック (%)	ひとり暮らし	夫婦のみ	夫婦と親 (二世帯同居)	夫婦と子ども (二世帯同居)	ひとり親と子ども (一番下の子どもが18歳以上)	ひとり親と子ども (一番下の子どもが18歳未満)	三世帯同居 (親と子と孫)	上記以外	無回答
全体	14.1	28.4	2.4	35.0	7.2	1.0	3.0	6.7	2.3
第1	10.7	26.7	2.7	38.7	6.7	0.0	4.0	9.3	1.3
第2	17.4	34.8	2.9	31.9	4.3	1.4	1.4	5.8	0.0
第3	18.1	31.9	0.0	30.6	6.9	0.0	4.2	8.3	0.0
第4	16.9	25.4	2.8	34.5	7.0	2.1	4.9	6.3	0.0
第5	14.8	23.1	2.8	40.7	9.3	1.9	2.8	3.7	0.9
第6	10.1	30.4	1.4	42.8	8.0	0.0	2.2	5.1	0.0
第7	12.6	29.4	5.0	31.9	7.6	0.0	2.5	10.1	0.8
第8	16.5	33.0	1.0	31.1	7.8	1.9	1.9	6.8	0.0

### 【同居状況】

- 回答者の同居状況（問3）は、全体では「1～5のいずれもない」（61.5%）が最も多くなっています。
- 回答者の同居状況は、地域別でも全体結果と概ね同様の傾向です。

地域ブロック (%)	未就学児がいる	介護が必要な人がいる	障害者手帳を所持している人がいる	病気で寝たきりの人がいる	生きづらさを感じている人がいる	1～5のいずれもない	無回答
全体	9.1	6.4	9.0	0.6	4.2	61.5	12.1
第1	8.0	5.3	8.0	1.3	4.0	69.3	8.0
第2	4.3	5.8	8.7	1.4	2.9	63.8	13.0
第3	6.9	8.3	6.9	1.4	5.6	65.3	11.1
第4	9.9	2.8	9.2	0.0	3.5	64.8	11.3
第5	8.3	5.6	13.0	0.0	1.9	63.0	11.1
第6	11.6	10.1	8.0	0.7	2.9	61.6	7.2
第7	10.1	8.4	8.4	0.8	5.9	58.0	12.6
第8	11.7	5.8	10.7	0.0	7.8	59.2	9.7

### 【住居形態】

- 回答者の住居形態（問4）は、全体では「持ち家（一戸建て）」（58.9%）が最も多くなっています。
- 回答者の住居形態を地域別で見ると、第3ブロックはマンションなどの共同住宅が持ち家と賃貸を合わせて7割強を占めています。
- その他の地域は「持ち家（一戸建て）」が5割台～7割台と多く、戸建中心の地域です。

地域ブロック (%)	持ち家 (一戸建て)	持ち家 (マンションなどの共同住宅)	民間賃貸 (一戸建て)	民間賃貸 (マンションなどの共同住宅)	都営住宅	社宅・社員寮	上記以外	無回答
全体	58.9	12.9	1.9	12.8	5.5	1.1	4.5	2.4
第1	68.0	1.3	5.3	16.0	1.3	0.0	8.0	0.0
第2	62.3	4.3	1.4	8.7	13.0	5.8	2.9	1.4
第3	29.2	36.1	0.0	34.7	0.0	0.0	0.0	0.0
第4	57.0	9.2	4.2	14.1	7.7	0.0	7.0	0.7
第5	72.2	4.6	0.9	13.9	7.4	0.0	0.9	0.0
第6	65.9	17.4	2.2	6.5	2.9	0.7	4.3	0.0
第7	58.8	22.7	0.8	6.7	0.8	2.5	6.7	0.8
第8	59.2	9.7	0.0	12.6	11.7	1.0	4.9	1.0

(参考)

ブロック	含まれる町
第1ブロック	上の原、神宝町、金山町、氷川台
第2ブロック	大門町、新川町2丁目、浅間町
第3ブロック	東本町、新川町1丁目、本町
第4ブロック	小山、幸町、下里1・7丁目、野火止、八幡町1丁目
第5ブロック	中央町、前沢1・2丁目、八幡町2・3丁目
第6ブロック	学園町、ひばりが丘団地、南沢、南町
第7ブロック	前沢3～5丁目、滝山、弥生
第8ブロック	下里2～6丁目、柳窪

### 【居住年数】

- 回答者の市内居住年数（問5）は、全体では「30年以上」（38.5%）が最も多く、次いで「5年未満」（15.1%）となっています。
- 回答者の市内居住年数は、地域別でも全体結果と概ね同様の傾向であり、全ての地域で「30年以上」が3割台～5割台と最も多くなっています。

地域ブロック (%)	5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20～25年未満	25～30年未満	30年以上	無回答
全体	15.1	7.0	9.9	7.0	10.1	10.3	38.5	2.1
第1	17.3	6.7	14.7	6.7	9.3	14.7	30.7	0.0
第2	20.3	5.8	11.6	5.8	13.0	5.8	37.7	0.0
第3	13.9	6.9	8.3	8.3	13.9	8.3	38.9	1.4
第4	14.1	7.7	8.5	9.9	8.5	14.1	37.3	0.0
第5	12.0	8.3	4.6	7.4	8.3	16.7	42.6	0.0
第6	15.2	13.8	12.3	5.1	13.8	8.0	31.9	0.0
第7	14.3	2.5	12.6	6.7	8.4	4.2	50.4	0.8
第8	18.4	2.9	8.7	6.8	8.7	11.7	42.7	0.0

**【居住地域】**

- 回答者の住まいの地域（問6）は、全体では「第4ブロック」（16.9%）、「第6ブロック」（16.4%）、「第7ブロック」（14.1%）等となっています。
- 各地域の年齢割合では、全ての地域で18～39歳が1割台、40～64歳が3割台～4割台、65歳以上が3割台～5割台です。また、「第2ブロック」、「第5ブロック」、「第7ブロック」では75歳以上の回答者が3割前後とやや多くなっています。

地域ブロック （%）	18～39歳	40～64歳	65歳以上	無回答	（参考 65歳以上の内訳）	
					65～74歳	75歳以上
全体	15.2	39.7	43.2	2.1	18.6	24.6
第1	16.0	44.0	38.7	1.3	17.3	21.4
第2	18.8	37.6	43.3	0.0	11.5	31.8
第3	12.6	48.5	37.3	1.4	13.8	23.5
第4	15.4	40.8	43.7	0.0	19.7	24.0
第5	13.0	37.9	49.1	0.0	19.5	29.6
第6	15.2	40.5	44.1	0.0	21.7	22.4
第7	18.4	30.3	51.2	0.0	21.8	29.4
第8	13.6	47.6	39.0	0.0	19.5	19.5

## 考察Ⅰ 地域への愛着、居住意向

### ▼調査結果からの考察

- 地域に愛着を感じる人が全ての地域で6割を超えていること、また、居住年数の長短に関わらず地域に愛着を感じる人が6割を超えていることは本市の長所といえます。他方、将来の居住意向は地域への愛着度に左右されることがうかがえます。
- 市民が長く住み続けたいと思えるよう、この地域への愛着を実際の市民同士のつながりに結び付け、そこから、支え合う地域づくりを市民と一緒に進めていくことが、地域福祉の重要な役割となります。

### ■主な属性分析（考察の根拠）

- 住まいの地域への愛着度（問7）は、全体では『地域に愛着を感じる』（「とても感じる」＋「少し感じる」の合計）（76.6%）が多くなっています。
- 居住年数別では、『地域に愛着を感じる』は30年以上が8割半ばと最も多く、一方、5年未満でも6割半ばに上ります。

居住年数 （%）	とても 感じる	少し 感じる	あまり 感じない	まったく 感じない	どちらと もいえな い	無回答	地域に愛 着を感じ る	地域に愛 着を感じ ない
全体	37.6	39.0	12.1	1.8	7.0	2.5	76.6	13.9
5年未満	17.3	47.2	21.3	2.4	11.0	0.8	64.5	23.7
5～10年未満	33.9	44.1	16.9	3.4	1.7	0.0	78.0	20.3
10～15年未満	26.5	43.4	14.5	1.2	9.6	4.8	69.9	15.7
15～20年未満	33.9	42.4	10.2	1.7	5.1	6.8	76.3	11.9
20～25年未満	29.4	45.9	12.9	2.4	7.1	2.4	75.3	15.3
25～30年未満	36.8	37.9	10.3	1.1	11.5	2.3	74.7	11.4
30年以上	51.5	32.1	7.7	1.5	5.2	1.9	83.6	9.2

- 地域別では、全ての地域で『地域に愛着を感じる』が6割台～8割台と多くなっています。

地域ブ ロック （%）	とても 感じる	少し 感じる	あまり 感じない	まったく 感じない	どちらと もいえな い	無回答	地域に愛 着を感じ る	地域に愛 着を感じ ない
全体	37.6	39.0	12.1	1.8	7.0	2.5	76.6	13.9
第1	34.7	38.7	9.3	2.7	9.3	5.3	73.4	12.0
第2	31.9	43.5	11.6	4.3	7.2	1.4	75.4	15.9
第3	54.2	30.6	9.7	2.8	1.4	1.4	84.8	12.5
第4	37.3	39.4	10.6	0.7	7.7	4.2	76.7	11.3
第5	41.7	39.8	8.3	0.9	8.3	0.9	81.5	9.2
第6	42.0	42.8	9.4	0.0	5.1	0.7	84.8	9.4
第7	31.1	40.3	19.3	1.7	5.9	1.7	71.4	21.0
第8	28.2	35.9	17.5	3.9	11.7	2.9	64.1	21.4

- 住まいの地域の居住意向（問8）は、全体では「可能な限り、生活したい」（71.7%）が最も多くなっています。
- 地域への愛着度別では、地域に愛着を感じない人（あまり感じない、まったく感じない）の「市外に転居したい」や「わからない」が、地域に愛着を感じる人（とても感じる、少し感じる）より多くなっています。

地域への愛着 (%)	可能な限り、生活したい	市内の他の地域に転居したい	市外に転居したい	わからない	無回答
全体	71.7	3.2	5.7	16.5	2.9
とても感じる	96.2	0.6	0.9	1.9	0.3
少し感じる	73.5	4.0	4.6	16.8	1.2
あまり感じない	28.4	10.8	20.6	40.2	0.0
まったく感じない	20.0	6.7	26.7	46.7	0.0
どちらともいえない	40.7	0.0	8.5	50.8	0.0

- 地域別では、全ての地域で「可能な限り、生活したい」が6割台～8割台と多くなっています。

地域ブロック (%)	可能な限り、生活したい	市内の他の地域に転居したい	市外に転居したい	わからない	無回答
全体	71.7	3.2	5.7	16.5	2.9
第1	70.7	1.3	8.0	14.7	5.3
第2	72.5	2.9	7.2	14.5	2.9
第3	73.6	4.2	5.6	13.9	2.8
第4	73.2	4.2	5.6	13.4	3.5
第5	81.5	3.7	3.7	9.3	1.9
第6	76.1	2.2	3.6	17.4	0.7
第7	65.5	1.7	6.7	24.4	1.7
第8	60.2	4.9	7.8	23.3	3.9

- 前回調査（平成25年度）と比べると、「わからない」の項目を加えたため一概には言えないものの、「市外に転居したい」は前回12.3%から減少（-6.6ポイント）となっています。

区分 (%)	可能な限り、生活したい	市内の他の地域に転居したい	市外に転居したい	わからない	無回答
今回	71.7	3.2	5.7	16.5	2.9
前回	75.1	10.5	12.3	選択肢なし	2.2
今回-前回の差 (ポイント)	-3.4	-7.3	-6.6		0.7

## 考察2 近所付き合い、地域の暮らしについて

### ▼調査結果からの考察 ①地域のつながり

- 市内のどの地域でも、となり近所とは「あいさつ程度」の付き合いが多く、また、地域のつながりを感じていない傾向がみられます。さらに、全体として、地域のつながりは必要であるという考えが希薄化しつつあることもうかがえます。その一方、依然として7割を超える市民が“地域のつながりの必要性”を感じており、地域のつながりを望む潜在的な意識があると考えられます。この結果から、地域のつながりづくりが今後の重要なテーマになると考えられ、そのために「つながりを強くしたい」という互助意識を顕在化する機会を創出することが期待されます。
- 地域のつながりづくりの機会は、例えば、コロナ禍で中止していた学校行事や地域行事を再開する際に多世代が参加する工夫をしたり、また、防災訓練で避難所を使って交流したり、普段は付き合いのない世帯を訪問したり、障害者と交流したりするなど、「安否確認の声かけ」や「災害時避難の手助け」といった福祉や防災への関心を生かして、防災活動を顔が見える関係性の構築に生かす工夫も考えられます。

### ▼調査結果からの考察 ②支援が必要と思われる世帯

- 全ての地域に支援が必要と思われる世帯がみられます。また、孤独感を感じている人（しばしばある・常にある）は4%台で全国と同程度でしたが、その中でも、性別その他、25～29歳、ひとり親と子ども（一番下の子どもが18歳未満）、生きづらさを感じている人がいる世帯、地域への愛着を持たない人は、孤独を感じやすい結果となっています。さらには、高齢化の進行や不透明な経済情勢等を背景に、これからは孤独を感じる人や何らかの支援の必要な世帯が増えることも十分に考えられます。
- そのため、本人の自覚の有無に関わらず、複合的な課題を抱える支援が必要な人や世帯をいち早く発見し、支援につなぐ取組の充実が必要です。特に、従来の保健・医療・福祉分野に加え、住居、就労、教育等の関係機関や専門家、生活インフラ事業者（水道、電気、ガス、宅配・郵便等）等との幅広い連携を強め、本人や世帯に伴走して課題解決の支援をしていく仕組みが必要です。

### ■主な属性分析（考察の根拠）

- とおり近所との付き合い（問9）は、全体では「あいさつ程度」（58.0%）が最も多く、次いで「いただき物や旅行のお土産をおすそ分けする」（24.5%）、「ほとんどない」（9.0%）となっています。
- 「ほとんどない」の割合が多い属性は、20～29歳と40～49歳、ひとり暮らし、ひとり親と子ども（一番下の子どもが18歳未満）、病気で寝たきりの人がいる世帯、生きづらさを感じている人がいる世帯、地域への愛着をあまり感じない人、まったく感じない人、第3ブロック（東本町、新川町1丁目、本町）となっています。

属性	「ほとんどない」の割合が多い属性	
年齢	20～24歳	25.0%
	25～29歳	28.6%
	40～44歳	18.2%
世帯構成	ひとり暮らし	17.6%
	ひとり親と子ども（一番下の子どもが18歳未満）	25.0%
同居状況	病気で寝たきりの人がいる世帯	20.0%
	生きづらさを感じている人がいる世帯	17.1%
地域への愛着	あまり感じない人	20.6%
	まったく感じない人	26.7%
地域ブロック	第3ブロック（東本町、新川町1丁目、本町） 25.0%	

- 近所付き合いをしていない人のその主な理由（問9付問）は、全体では「普段、付き合う機会がないから」（53.9%）、「となり近所と知り合うきっかけがないから」（48.7%）、「仕事や学業、家事・育児などで忙しく時間がないから」（34.2%）を上位に挙げています。（※属性分析は、限定設問で回答者数が少ないため、掲載していない）
- 親しい方とのコミュニケーションの状況（問10）は、全体ではSNS（LINEなど）、電子メール、ショートメールの頻度が最も多くなっています。
- 年齢別に『週1回以上』（「週4～5回以上」＋「週2～3回程度」＋「週1回程度」の合計）の割合をみると、20～74歳ではSNS（LINEなど）、電子メール、ショートメールの利用が最も多く、広く普及していることがわかります。75歳以上では直接会って話すこと、電話（ビデオ通話含む）を利用したコミュニケーションが多くなっています。

年齢 (%)	年齢別『週1回以上』※		
	ア 直接会って話す	イ 電話（ビデオ通話含む）	ウ SNS（LINEなど）、電子メール、ショートメール
全体	29.4	23.0	39.7
18～19歳	0.0	0.0	0.0
20～24歳	54.1	20.8	70.8
25～29歳	35.7	28.5	64.3
30～34歳	22.9	28.6	54.2
35～39歳	27.5	22.5	57.5
40～44歳	30.9	21.8	52.7
45～49歳	24.6	26.2	44.6
50～54歳	19.5	16.7	40.3
55～59歳	32.1	21.3	47.7
60～64歳	27.5	17.2	41.4
65～69歳	27.9	17.6	50.0
70～74歳	23.9	21.6	28.4
75～79歳	36.0	31.5	27.0
80～84歳	35.7	29.6	16.0
85歳以上	35.1	24.3	16.2

※「週4～5回以上」＋「週2～3回程度」＋「週1回程度」の合計割合

- 現在の孤独感の自覚（問11）は、全体では「しばしばある・常にある（週1回以上）」（4.3%）となっています。孤独感が「しばしばある・常にある（週1回以上）」が多い属性は、性別その他、25～29歳、ひとり親と子ども（一番下の子どもが18歳未満）、生きづらさを感じている人がいる世帯、地域に愛着をまったく感じない人で1割半ば～2割となっています。

属性	孤独感が「しばしばある・常にある（週1回以上）」の割合が多い属性
性別	性別その他 20.0%
年齢	25～29歳 14.3%
世帯構成	ひとり親と子ども（一番下の子どもが18歳未満） 12.5%
同居状況	生きづらさを感じている人がいる世帯 17.1%
地域への愛着	まったく感じない人 13.3%

- 本市と国の調査を比べると、孤独感が「しばしばある・常にある（週1回以上）」の割合はほぼ同じ、「時々ある（月2～3回程度）」、「たまにある（月1回程度）」、「ほとんどない（月1回未満）」は本市が少なく、「決してない」は本市が大きく上回るという結果です。

	決してない	ほとんどない (月1回未満)	たまにある (月1回程度)	時々ある (月2～3回程度)	しばしばある・常にある (週1回以上)	無回答
東久留米市 (%)	34.9	34.7	14.1	9.1	4.3	2.9
国 (令和4年) (%)	18.4	40.6	19.6	15.8	4.9	0.6
本市-国の差 (ポイント)	16.5	-5.9	-5.5	-6.7	-0.6	2.3

出典：国は内閣官房「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査（人々のつながりに関する基礎調査）」

- 居住地域の「地域のつながり」の実感度（問12）は、全体では『地域のつながりを感じる』（「とても感じる」＋「どちらかといえば感じる」の合計）（34.5%）は『地域のつながりを感じない』（「あまり感じない」＋「まったく感じない」の合計）（56.3%）を21.8ポイント下回ります。
- 年齢別に『地域のつながりを感じる』割合をみると、20～69歳で1割台～3割台、70～84歳で4割台、85歳以上で5割半ばとなり、ほとんどの年齢で5割に達しません。また、「まったく感じない」は25～29歳で3割半ばと他に比べて多くなっています。

年齢 (%)	とても感じる	どちらか といえば 感じる	あまり感 じない	まったく 感じない	どちらと もいえな い	無回答	地域のつ ながりを 感じる	地域のつ ながりを 感じない
全体	5.5	29.0	42.9	13.4	6.9	2.4	34.5	56.3
18～19歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～24歳	4.2	8.3	54.2	12.5	20.8	0.0	12.5	66.7
25～29歳	0.0	32.1	28.6	35.7	3.6	0.0	32.1	64.3
30～34歳	2.9	31.4	42.9	17.1	2.9	2.9	34.3	60.0
35～39歳	2.5	25.0	50.0	12.5	10.0	0.0	27.5	62.5
40～44歳	1.8	30.9	40.0	16.4	9.1	1.8	32.7	56.4
45～49歳	3.1	21.5	44.6	16.9	12.3	1.5	24.6	61.5
50～54歳	2.8	26.4	48.6	13.9	5.6	2.8	29.2	62.5
55～59歳	1.2	23.8	47.6	17.9	9.5	0.0	25.0	65.5
60～64歳	1.7	24.1	56.9	10.3	3.4	3.4	25.8	67.2
65～69歳	4.4	26.5	48.5	14.7	4.4	1.5	30.9	63.2
70～74歳	11.4	30.7	38.6	10.2	6.8	2.3	42.1	48.8
75～79歳	10.1	39.3	36.0	4.5	7.9	2.2	49.4	40.5
80～84歳	8.6	32.1	39.5	14.8	2.5	2.5	40.7	54.3
85歳以上	18.9	35.1	29.7	2.7	5.4	8.1	54.0	32.4

- 地域別でも全ての地域で『地域のつながりを感じない』が『地域のつながりを感じる』を上回ります。

地域ブ ロック (%)	とても感 じる	どちらか といえば 感じる	あまり感 じない	まったく 感じない	どちらと もいえな い	無回答	地域のつ ながりを 感じる	地域のつ ながりを 感じない
全体	5.5	29.0	42.9	13.4	6.9	2.4	34.5	56.3
第1	9.3	25.3	30.7	21.3	9.3	4.0	34.6	52.0
第2	8.7	30.4	33.3	11.6	14.5	1.4	39.1	44.9
第3	5.6	22.2	50.0	18.1	1.4	2.8	27.8	68.1
第4	3.5	26.1	45.8	14.8	6.3	3.5	29.6	60.6
第5	6.5	33.3	38.9	16.7	3.7	0.9	39.8	55.6
第6	7.2	31.9	48.6	7.2	5.1	0.0	39.1	55.8
第7	1.7	30.3	44.5	10.1	10.9	2.5	32.0	54.6
第8	4.9	25.2	47.6	12.6	6.8	2.9	30.1	60.2

- 現在の暮らしにおける「地域のつながり」の必要度（問13）は、全体では『地域のつながりは必要である』（「とても必要である」＋「どちらかといえば必要である」の合計）（70.9%）が『地域のつながりは必要ない』（「あまり必要ない」＋「必要ない」の合計）（17.8%）を53.1ポイントと大きく上回ります。
- 年齢別では、全ての年齢で『地域のつながりは必要である』が5割台～8割台となっています。

年齢 (%)	とても必要である	どちらかといえば必要である	あまり必要ない	必要ない	わからない	無回答	地域のつながりは必要である	地域のつながりは必要ない
全体	18.2	52.7	16.5	1.3	8.9	2.4	70.9	17.8
18～19歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～24歳	8.3	50.0	25.0	0.0	16.7	0.0	58.3	25.0
25～29歳	14.3	46.4	21.4	0.0	17.9	0.0	60.7	21.4
30～34歳	22.9	28.6	28.6	5.7	11.4	2.9	51.5	34.3
35～39歳	20.0	50.0	15.0	0.0	15.0	0.0	70.0	15.0
40～44歳	14.5	52.7	16.4	3.6	10.9	1.8	67.2	20.0
45～49歳	12.3	44.6	21.5	1.5	18.5	1.5	56.9	23.0
50～54歳	13.9	63.9	8.3	1.4	9.7	2.8	77.8	9.7
55～59歳	15.5	57.1	14.3	3.6	9.5	0.0	72.6	17.9
60～64歳	12.1	50.0	17.2	0.0	17.2	3.4	62.1	17.2
65～69歳	19.1	57.4	19.1	0.0	1.5	2.9	76.5	19.1
70～74歳	26.1	44.3	18.2	0.0	8.0	3.4	70.4	18.2
75～79歳	15.7	68.5	10.1	1.1	2.2	2.2	84.2	11.2
80～84歳	23.5	51.9	19.8	1.2	2.5	1.2	75.4	21.0
85歳以上	40.5	43.2	8.1	0.0	2.7	5.4	83.7	8.1

- 地域別では、全ての地域で『地域のつながりは必要である』が6割台～7割台となっています。

地域ブロック (%)	とても必要である	どちらかといえば必要である	あまり必要ない	必要ない	わからない	無回答	地域のつながりは必要である	地域のつながりは必要ない
全体	18.2	52.7	16.5	1.3	8.9	2.4	70.9	17.8
第1	17.3	50.7	10.7	5.3	12.0	4.0	68.0	16.0
第2	17.4	52.2	18.8	0.0	8.7	2.9	69.6	18.8
第3	13.9	52.8	18.1	1.4	11.1	2.8	66.7	19.5
第4	14.8	52.8	19.0	0.0	9.9	3.5	67.6	19.0
第5	20.4	51.9	15.7	0.9	10.2	0.9	72.3	16.6
第6	23.9	50.7	18.1	1.4	5.8	0.0	74.6	19.5
第7	18.5	54.6	15.1	0.8	9.2	1.7	73.1	15.9
第8	18.4	53.4	15.5	1.9	7.8	2.9	71.8	17.4

- 前回調査（平成25年度）と比べると、『地域のつながりは必要である』が前回87.6%から減少（-16.7ポイント）しています。

区分 (%)	とても必要である	どちらかといえば必要である	あまり必要ない	必要ない	わからない	無回答	地域のつながりは必要である	地域のつながりは必要ない
今回	18.2	52.7	16.5	1.3	8.9	2.4	70.9	17.8
前回	33.6	54.0	3.2	1.3	6.9	1.1	87.6	4.5
今回－前回の差 (ポイント)	-15.4	-1.3	13.3	0.0	2.0	1.3	-16.7	13.3

- 支援が必要と思われる世帯の状況（問 14）について、全体では「見たり、聞いたりしたことはない」（56.2%）が最も多く、次いで「高齢者が同居の高齢者の世話（看病、介護、介助など）をしている世帯（老老介護）」（22.2%）、「世帯全員が近隣や地域と関わりをもっていないと思われる世帯（孤立世帯）」（14.0%）となっています。
- 地域別では、全ての地域で支援が必要と思われる世帯がみられます。

地域ブロック (%)	大量のごみが自宅や敷地に放置されている世帯(ごみ屋敷)	高齢者が同居の高齢者の世話(看病、介護、介助など)をしている世帯(老老介護)	世帯全員が近隣や地域と関わりをもっていないと思われる世帯(孤立世帯)	自宅にひきこもっている人がいると思われる世帯(ひきこもり)	高齢の親が中高年の子どもを支えている世帯(8050問題)	親の世話(看病、介護、介助など)と自分の子育てを同時に抱えている世帯(ダブルケア)
全体	11.3	22.2	14.0	7.6	5.7	5.8
第1	8.0	20.0	13.3	8.0	4.0	10.7
第2	17.4	20.3	20.3	11.6	5.8	7.2
第3	13.9	25.0	11.1	9.7	9.7	2.8
第4	6.3	25.4	14.8	7.0	4.2	4.9
第5	13.0	23.1	21.3	5.6	4.6	4.6
第6	14.5	20.3	6.5	4.3	4.3	5.8
第7	6.7	22.7	11.8	9.2	6.7	5.0
第8	12.6	20.4	16.5	8.7	6.8	5.8
地域ブロック (%)	未成年の子どもが親や兄弟姉妹を介護し、自分の時間をもてない世帯(ヤングケアラー)	家族の間で虐待が疑われる世帯(虐待)	となり近所で何かのトラブルが起きていると思われる世帯	上記以外で、課題を抱えていると思われる世帯	見たり、聞いたりしたことはない	無回答
全体	0.5	1.3	7.0	2.5	56.2	2.5
第1	0.0	1.3	6.7	6.7	60.0	0.0
第2	1.4	1.4	5.8	0.0	49.3	2.9
第3	0.0	0.0	2.8	2.8	55.6	2.8
第4	0.7	0.7	6.3	2.8	57.7	3.5
第5	0.0	1.9	9.3	1.9	52.8	2.8
第6	0.0	1.4	5.8	2.9	59.4	2.2
第7	0.8	2.5	10.1	0.0	58.0	1.7
第8	1.0	1.0	6.8	3.9	56.3	1.9

- まわりの人(家族以外)に手助けできること(してもいいこと)(問 15)は、全体では「安否確認の声かけ」(46.7%)が最も多く、次いで「特にない」(24.1%)、「災害時避難の手助け」(10.6%)となっています。
- 年齢別、地域別でも、全体結果と概ね同じ傾向です。

## 考察3 地域の活動について

### ▼調査結果からの考察 ①地域活動への関心

- 市民が参加したい（しやすい）地域活動の条件は、同じ関心や志向を持つ人同士の活動、時間や期間にしばられない活動であることがわかります。また、地域愛着度がある方が地域活動への参加意欲もあることから、地域活動の活性化が地域への愛着を高め、地域づくりへの関心につながるものと考えられます。
- この結果を踏まえ、地域活動を活性化するために、従来の自治会、町内会、マンション管理組合、自主防災組織、消防団等を中心とする地域活動に加えて、より多くの主体が地域に関わり、活動同士をつなげて、多くの市民参加を促し、誰もが安心して暮らすことのできる地域づくりを進めるという考え方もできます。
- そのためには、地域に必要な活動を生みだし（あるいは呼び込み）、活動同士を連携するような、地域と活動をコーディネートする機能・役割が重要です。また、実際に活動する以外にも、役立つノウハウを提供したり、情報をSNSで広げたり、多くの世代が多様な方法で参加できる工夫も必要です。
- 地域福祉に関する活動や組織は、一定程度、認知されています。今後は、それぞれの活動や組織の充実とともに、他の活動や組織との連携を進めることが必要であり、また、市が積極的に活動や組織の取組・連携を支援・促進する役割・機能を果たすことも求められます。

### ▼調査結果からの考察 ②地域の居場所・交流

- 市民がよく利用する「商業施設（スーパーやコンビニなど）」、「カフェ（喫茶店）、レストラン、飲食店」、「公園」等を含めた地域の多種多様な資源や自然環境を生かしながら、高齢者や障害者等にも居心地の良い地域の居場所（サードプレイス）が増え、そこで世代間の交流や市民同士のつながりが生まれるよう、市民、地域、団体、事業者等の意欲とアイデアを支援・促進する取組が求められています。
- 今後、地域の居場所（サードプレイス）には、リアルな交流のほかに、コロナ禍で普及したオンラインによる交流、年齢や心身の状況に影響されずに参加できる仮想空間（バーチャル空間）を介した交流等、新しいコミュニケーションの場の創出も考えられます。

■主な属性分析（考察の根拠）

- 参加したい（しやすい）地域活動（問16）は、全体では「趣味のグループ、自主サークルなどが行う地域活動（自分が関心のある分野）」（39.2%）が最も多く、次いで「そうした活動に参加したくない・関心がない」（26.1%）となっています。
- 性別では、全体結果と概ね同様の傾向です。
- 年齢別では、20～34歳で「そうした活動に参加したくない・関心がない」が4割台～5割と最も多く、35歳以上では「趣味のグループ、自主サークルなどが行う地域活動（自分が関心のある分野）」等、何らかの活動を挙げる割合が最も多くなっています。

年齢 (%)	自治会、町内会、マンション管理組合、自主防災組織、消防団などが行う地域活動	保護者会、PTAなどが行う、学校などを拠点とする活動	社会福祉法人、福祉サービス事業者などが行うイベント・講習会・ボランティア	趣味のグループ、自主サークルなどが行う地域活動（自分が関心のある分野）	市、商店街、NPOなどが行うイベント・講習会・ボランティア	自分たちが主体となって行う地域活動（交流づくり、居場所づくりなど）	その他	そうした活動に参加したくない・関心がない	無回答
全体	20.0	8.4	17.1	39.2	18.4	9.0	3.4	26.1	3.0
18～19歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～24歳	8.3	8.3	8.3	20.8	8.3	16.7	0.0	50.0	0.0
25～29歳	3.6	3.6	14.3	35.7	14.3	14.3	0.0	46.4	3.6
30～34歳	11.4	31.4	11.4	17.1	17.1	5.7	0.0	42.9	0.0
35～39歳	17.5	27.5	7.5	40.0	22.5	20.0	0.0	25.0	0.0
40～44歳	16.4	23.6	16.4	29.1	30.9	10.9	1.8	30.9	0.0
45～49歳	10.8	18.5	16.9	43.1	26.2	7.7	1.5	36.9	1.5
50～54歳	9.7	11.1	20.8	43.1	23.6	9.7	4.2	25.0	1.4
55～59歳	25.0	3.6	19.0	50.0	21.4	6.0	2.4	23.8	1.2
60～64歳	20.7	5.2	27.6	44.8	25.9	5.2	1.7	20.7	1.7
65～69歳	25.0	4.4	19.1	45.6	22.1	7.4	4.4	22.1	0.0
70～74歳	23.9	0.0	17.0	35.2	15.9	10.2	1.1	27.3	2.3
75～79歳	29.2	2.2	16.9	44.9	6.7	11.2	7.9	13.5	4.5
80～84歳	18.5	2.5	16.0	43.2	9.9	6.2	4.9	24.7	7.4
85歳以上	35.1	0.0	18.9	27.0	5.4	2.7	16.2	16.2	13.5

- 地域愛着度別では、「そうした活動に参加したくない・関心がない」の割合が、とても感じる人と少し感じる人は1割台～2割台、あまり感じない人は3割半ば、まったく感じない人は5割半ばとなっています。

地域愛着度 (%)	自治会、町内会、マンション管理組合、自主防災組織、消防団などが行う地域活動	保護者会、PTAなどが行う、学校などを拠点とする活動	社会福祉法人、福祉サービス事業者などが行うイベント・講習会・ボランティア	趣味のグループ、自主サークルなどが行う地域活動（自分が関心のある分野）	市、商店街、NPOなどが行うイベント・講習会・ボランティア	自分たちが主体となって行う地域活動（交流づくり、居場所づくりなど）	その他	そうした活動に参加したくない・関心がない	無回答
全体	20.0	8.4	17.1	39.2	18.4	9.0	3.4	26.1	3.0
とても感じる	26.5	10.4	20.8	42.3	21.8	11.7	3.5	16.4	3.5
少し感じる	18.9	7.9	15.9	39.3	17.4	6.4	4.0	28.4	2.4
あまり感じない	12.7	5.9	17.6	31.4	14.7	10.8	2.9	35.3	2.9
まったく感じない	13.3	6.7	6.7	26.7	6.7	6.7	0.0	53.3	0.0
どちらともいえない	10.2	5.1	8.5	39.0	18.6	3.4	3.4	44.1	1.7

- 地域活動に参加しやすい条件（問 17）は、全体では「自分の時間に余裕があること」（55.9%）、「時間や期間にあまりしばられないこと」（51.3%）、「身近な場所で活動できること」（48.7%）を上位に挙げています。
- 性別、年齢別でも、地域愛着度別でも全体結果と概ね同様の傾向です。
- 地域（自宅以外）で利用する身近な場所（問 18）は、全体では「商業施設（スーパーやコンビニなど）」（70.8%）が最も多く、次いで「カフェ（喫茶店）、レストラン、飲食店」（49.2%）、「公園」（33.5%）となっています。
- 性別、年齢別、地域愛着度別では、場所の順番は変わるものの、全体結果と概ね同様の傾向です。
- 地域福祉に関する活動や組織の認知度（問 19）は、全体では「民生委員・児童委員」（61.9%）、「地域包括支援センター」（49.4%）、「社会福祉協議会」（40.1%）となっています。
- 同居状況別でも全体結果と概ね同様の傾向ですが、その中で、未就学児がいる世帯で「子ども家庭支援センター」が7割半ば、障害者手帳を所持している人がある世帯で「社会福祉協議会」が5割半ばと多くなっています。

同居状況 (%)	地域福祉 コーディネーター	民生委員・児童委員	地域活動支援センター	地域包括支援センター	自立相談支援機関	子ども家庭支援センター	社会福祉協議会	1～7は いずれも 聞いた ことが ない	無回答
全体	10.3	61.9	21.4	49.4	11.5	29.8	40.1	13.9	2.4
未就学児がいる	7.8	50.6	13.0	23.4	9.1	76.6	29.9	6.5	3.9
介護が必要な人がいる	7.4	63.0	24.1	72.2	7.4	13.0	37.0	11.1	0.0
障害者手帳を所持している人がいる	11.8	68.4	31.6	53.9	18.4	25.0	53.9	10.5	2.6
病気で寝たきりの人がいる	20.0	80.0	0.0	100.0	20.0	20.0	40.0	0.0	0.0
生きづらさを感じている人がいる	8.6	60.0	25.7	42.9	22.9	31.4	42.9	22.9	2.9
1～5のいずれもない	10.0	64.7	20.1	50.4	10.8	27.8	41.1	15.4	1.2

## 考察4 相談や情報について

### ▼調査結果からの考察 ①相談支援

- 日常生活の困りごとは気心の知れた人に相談する傾向がうかがえます。この結果から、日頃からの市民同士の交流が増えることにより、困りごとの話ができたり、経験者から話を聞いたりして、不安や困りごとが解決し、暮らしの安心感につながることを考えられます。市民同士が交流するそうした場所や機会が身近な地域で数多く増えるよう、市民、地域活動、各種団体、医療機関、福祉サービス事業者等と協力する取組が必要です。
- 相談先に市役所や社会福祉協議会を挙げる人は多くありませんが、市役所、社会福祉協議会がより相談しやすくなる方法として「土日・祝日でも相談できる」や「チャット、LINEで相談できる」を期待していることを踏まえ、平日の日中以外の相談時間帯や、インターネットを利用した相談体制の充実が求められています。
- 市民アンケートでは、自分や家族がどこに相談すればいいかわからない困りごとが「ある」が1割近くに上ります。属性で見ると、30～34歳、ひとり親と子ども（一番下の子どもが18歳未満）、病気で寝たきりの人がいる世帯、生きづらさを感じている人がいる世帯、地域に愛着をまったく感じない人で「ある」割合が多くなっています。困りごとの内容は、「家族・親族間の人間関係（虐待、ひきこもりなどを含む）」、「子育て、看病、介護などの問題」等が多く、特に「収入、就労の問題」は多くの属性で見られます。
- 近年の新型コロナウイルス感染症拡大の影響で「収入、就労の問題」が多くなった可能性は考えられます。また、経済基盤、介護、病気、子育て等で困りごとが複合的になっている世帯の様子もうかがえる結果となっています。
- どこに相談していいかわからない複合的な問題を抱える人や世帯が市役所や社会福祉協議会といった公的機関等に相談し、一緒に解決策を見出すような相談支援体制が必要です。そのため、相談窓口の一層の周知のほか、「相談員が親身になってくれる」ことへの要望を踏まえ、相談対応スキルや豊富な知識を持つ相談員の配置や技能向上等、“頼りになる相談窓口”に向けた取組が重要となります。また、地域や関係機関とも協力して困りごとを早期に把握するアウトリーチ活動の体制、相談支援に関わる機関が情報共有や連携を図るネットワークの強化が必要です。

### ▼調査結果からの考察 ②情報提供

- 「市広報「ひがしくるめ」やパンフレット」が市の福祉（サービス）に関する知識や情報の入手方法として重要であること、また、多くの市民がスマートフォン、タブレット、パソコンを使用していることがわかりました。
- この結果を踏まえ、市広報「ひがしくるめ」や市が発行するパンフレットの情報の定期的な更新、病気で寝たきりの人を介助する家族（ケアラー）への情報提供、高齢者、障害者、外国人等に配慮したアクセシビリティ（利用しやすさ）の向上が必要です。
- 今後のデジタル技術の発達も踏まえ、情報の即時性・個別性・双方向性などを可能にするデジタルツールを活用していくことも必要です。その一環として、例えば、ライフステージ（就職、育児、介護等、年齢に応じた生活段階）に沿って“先回り（事前）して福祉サービスや支援の情報を届ける仕組み”の検討も考えられます。
- 情報提供の際は、年齢や障害等に伴い、スマートフォン、タブレット、パソコンを利用しない人にも配慮し、デジタル・デバイド（\*）を解消する取組も必要です。

\*デジタル・デバイドは、インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差。（出典：総務省「平成23年版情報通信白書」）

■主な属性分析（考察の根拠）

- 日常生活の困りごとの相談相手（問 20）は、全体では「家族や親戚（同居、別居を問わない）」（80.9%）、「友人・知人」（60.5%）が多いことから、気心の知れた人に相談する傾向がみられます。
- 同居状況別でみると、介護が必要な人がいる世帯、病気で寝たきりの人がいる世帯では「家族や親戚（同居、別居を問わない）」のほか、「ケアマネジャー（介護支援専門員）やヘルパー（介護員）」も多くなっています。

同居状況 (%)	家族や親戚(同居、別居を問わない)	友人・知人	近所の人、自治会、町内会	民生委員・児童委員	かかりつけ医	ケアマネジャー（介護支援専門員）やヘルパー（介護員）	地域福祉コーディネーター	仕事・学校関係の人（職場の同僚、保育所・幼稚園・学校の先生やカウンセラー）
全体	80.9	60.5	14.1	1.5	21.9	9.4	0.5	14.4
未就学児がいる	94.8	80.5	18.2	0.0	18.2	1.3	0.0	27.3
介護が必要な人がいる	72.2	50.0	9.3	1.9	27.8	68.5	1.9	1.9
障害者手帳を所持している人がいる	69.7	48.7	10.5	1.3	35.5	26.3	3.9	11.8
病気で寝たきりの人がいる	100.0	40.0	20.0	0.0	20.0	40.0	0.0	20.0
生きづらさを感じている人がいる	54.3	45.7	5.7	0.0	17.1	11.4	0.0	2.9
1～5のいずれもない	84.0	62.0	13.9	1.5	21.8	3.7	0.0	15.6
同居状況 (%)	相談支援専門員（障害者）	地域包括支援センター	市役所の窓口	社会福祉協議会	その他	相談できる人や機関はない	無回答	
全体	0.8	4.6	13.3	2.4	0.5	5.2	2.3	
未就学児がいる	1.3	0.0	9.1	1.3	0.0	2.6	1.3	
介護が必要な人がいる	3.7	14.8	24.1	1.9	0.0	0.0	1.9	
障害者手帳を所持している人がいる	3.9	10.5	23.7	5.3	0.0	5.3	3.9	
病気で寝たきりの人がいる	20.0	20.0	20	0.0	0.0	0.0	0.0	
生きづらさを感じている人がいる	5.7	2.9	20.0	5.7	0.0	20.0	2.9	
1～5のいずれもない	0.2	3.3	10.8	2.3	0.4	5.2	1.9	

- 回答者本人や家族がどこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとの有無(問 21)は、全体では「ある」と回答した人が1割近くいます。
- 「ある」の割合が多い属性をみると、30～34歳、ひとり親と子ども（一番下の子どもが18歳未満）、病気で寝たきりの人がいる世帯、生きづらさを感じている人がいる世帯、地域に愛着をまったく感じない人です。

属性	「ある」の割合が多い属性
年齢	30～34歳 20.0%
世帯構成	ひとり親と子ども（一番下の子どもが18歳未満） 25.0%
同居状況	病気で寝たきりの人がいる世帯 40.0% 生きづらさを感じている人がいる世帯 48.6%
地域への愛着	地域に愛着をまったく感じない人 33.3%

- 困りごとがある人の困りごとの内容（問 21 付問）は、全体では「家族・親族間の人間関係（虐待、ひきこもりなどを含む）」(32.5%)と「子育て、看病、介護などの問題」(32.5%)が最も多くなっています。
- 困りごとが「ある」割合の多い属性において、最も多い困りごとは次の通りです。

属性	最も多い困りごと
30～34 歳	「家族・親族間の人間関係（虐待、ひきこもりなどを含む）」 57.1%
ひとり親と子ども（一番下の子どもが18 歳未満）	「収入、就労の問題」100.0%
病気で寝たきりの人がいる世帯	「子育て、看病、介護などの問題」50.0% 「収入、就労の問題」50.0%、「その他」50.0%
生きづらさを感じている人がいる世帯	「家族・親族間の人間関係（虐待、ひきこもりなどを含む）」 58.8%
地域に愛着をまったく感じない人	「収入、就労の問題」80.0%

（注）回答者を限定した設問である上記の割合は、設問の対象者自体が少ないことに留意が必要である。

- 市役所、社会福祉協議会がより相談しやすくなる方法（問 22）は、全体では「土日・祝日でも相談できる」(41.8%)、「相談員が親身になってくれる」(33.1%)、「チャット、LINE で相談できる」(26.4%) を上位に挙げています。
- 同居状況別、世帯構成別でも全体結果と概ね同様の傾向です。
- 市の福祉（サービス）に関する知識や情報の入手先（問 23）は、全体では「市広報「ひがしくるめ」やパンフレット」(72.7%) が最も多くなっています。
- 同居状況別では、病気で寝たきりの人がいる世帯で「家族・親戚、友人・知人」が8割であり、他に比べて多くなっています。

同居状況 (%)	市や社会福祉協議会のホームページ	市 広 報「ひがしくるめ」やパンフレット	市役所や社会福祉協議会の窓口	地域包括支援センターなどの市が設置している施設	NPO・ボランティア等の民間団体	地域福祉コーディネーター
全体	22.1	72.7	5.7	4.6	1.7	0.5
未就学児がいる	29.9	79.2	5.2	3.9	1.3	0.0
介護が必要な人がいる	22.2	66.7	5.6	14.8	3.7	3.7
障害者手帳を所持している人がいる	25.0	78.9	6.6	7.9	3.9	1.3
病気で寝たきりの人がいる	0.0	60.0	0.0	40.0	0.0	0.0
生きづらさを感じている人がいる	28.6	68.6	8.6	2.9	2.9	0.0
1～5のいずれもない	22.6	71.2	5.6	3.1	1.4	0.4
同居状況 (%)	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌など	関係機関のホームページ	家族・親戚、友人・知人	その他	特にない・関心がない	無回答
全体	11.4	5.7	23.6	1.9	9.5	2.9
未就学児がいる	1.3	3.9	24.7	1.3	6.5	0.0
介護が必要な人がいる	13.0	5.6	35.2	5.6	1.9	7.4
障害者手帳を所持している人がいる	15.8	10.5	25.0	3.9	3.9	3.9
病気で寝たきりの人がいる	20.0	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0
生きづらさを感じている人がいる	17.1	14.3	22.9	0.0	14.3	5.7
1～5のいずれもない	11.8	5.6	24.1	1.5	11.6	2.1

- スマートフォン、タブレット、パソコンで最も使うものの利用頻度（問24）は、全体では「日常的に使っている」（77.0%）が最も多くなっています。
- 「持っていない」割合が多い属性は、年齢別では80歳以上で3割台、同居状況別では病気で寝たきりの人がいる世帯で4割となっています。

年齢 (%)	日常的に使っている	時々、使っている	持っているが、あまり使っていない	持っていない	無回答
全体	77.0	6.7	5.1	9.5	1.8
18～19歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～24歳	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
25～29歳	96.4	0.0	0.0	3.6	0.0
30～34歳	97.1	0.0	0.0	2.9	0.0
35～39歳	97.5	2.5	0.0	0.0	0.0
40～44歳	96.4	0.0	1.8	0.0	1.8
45～49歳	98.5	1.5	0.0	0.0	0.0
50～54歳	90.3	1.4	1.4	5.6	1.4
55～59歳	92.9	4.8	1.2	0.0	1.2
60～64歳	89.7	6.9	1.7	1.7	0.0
65～69歳	85.3	8.8	2.9	2.9	0.0
70～74歳	70.5	9.1	10.2	8.0	2.3
75～79歳	49.4	15.7	7.9	20.2	6.7
80～84歳	32.1	12.3	19.8	35.8	0.0
85歳以上	29.7	16.2	13.5	35.1	5.4

同居状況 (%)	日常的に使っている	時々、使っている	持っているが、あまり使っていない	持っていない	無回答
全体	77.0	6.7	5.1	9.5	1.8
未就学児がいる	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護が必要な人がいる	59.3	9.3	7.4	22.2	1.9
障害者手帳を所持している人がいる	68.4	10.5	7.9	9.2	3.9
病気で寝たきりの人がいる	60.0	0.0	0.0	40.0	0.0
生きづらさを感じている人がいる	71.4	5.7	8.6	11.4	2.9
1～5のいずれもない	80.5	6.0	5.2	6.6	1.7

## 考察5 災害への備えについて

### ▼調査結果からの考察

- 近年、地震や風水害等による甚大な被害が全国各地で発生しています。自然災害による被害を最小限にとどめるための防災対策は、日頃からの備えが大事になります。調査結果から、市民の7割強は災害への何らかの備えをしており、また、地域防災活動に協力する意識を持っていることがわかります。
- 日頃から防災に取り組むまちづくりを進めるための地域福祉の役割は、市民同士で実際の避難支援活動ができるよう、日頃から顔が見える関係性をつくる機会を増やすことです。
- 一方、災害への備えを「特にしていない」人もいることから、防災施策において特に配慮を要する高齢者、障害者、乳幼児等（要配慮者）に接する機会の多い行政機関、関係機関、事業者等を通じて、日頃からの備えの普及・啓発に継続的に取り組むことが必要です。

### ■主な属性分析（考察の根拠）

- 災害発生時の備え（問25）は、全体では「3日以上以上の食料、水などを備えている」（42.9%）、「家具などの転倒防止を行っている」（35.4%）、「避難場所や避難経路を確認している」（31.7%）を上位に挙げており、「特にしていない」と「無回答」を除いた7割強の市民は何らかの備えをしています。
- 世帯構成別でも全体結果と概ね同様の傾向ですが、その中で、ひとり親と子ども（一番下の子どもが18歳未満）は「特にしていない」（75.0%）が多くなっています。

世帯構成 (%)	防災訓練に参加している	避難場所や避難経路を確認している	家具などの転倒防止を行っている	避難行動要支援者名簿に登録している	3日以上以上の食料、水などを備えている	防災マップ、洪水ハザードマップを確認している	その他	特にしていない	無回答
全体	7.7	31.7	35.4	0.7	42.9	28.4	2.0	26.5	2.5
ひとり暮らし	10.1	25.2	21.8	1.7	36.1	20.2	2.5	35.3	2.5
夫婦のみ	10.9	36.8	42.7	0.8	44.4	30.1	2.1	23.4	2.1
夫婦と親（二世帯同居）	5.0	50.0	45.0	0.0	50.0	55.0	0.0	10.0	0.0
夫婦と子ども（二世帯同居）	7.1	31.2	35.6	0.0	45.1	32.2	2.4	22.7	2.0
ひとり親と子ども（一番下の子どもが18歳以上）	3.3	29.5	36.1	0.0	41.0	21.3	1.6	32.8	4.9
ひとり親と子ども（一番下の子どもが18歳未満）	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	75.0	0.0
三世帯同居（親と子と孫）	8.0	28.0	44.0	0.0	44.0	32.0	4.0	20.0	0.0
上記以外	0.0	32.1	28.6	1.8	39.3	26.8	0.0	35.7	1.8

- 災害発生時に地域の防災活動に協力できること（問 26）は、全体では「避難の声かけをする」（58.6%）が最も多くなっており、「特にない」と「無回答」を除いた7割強の市民は協力する意識を持っています。
- 年齢別では、「避難の声かけをする」は20～79歳で4割以上、「高齢者などと一緒に避難する」は50～59歳で4割以上、「避難所で人のお世話をする」は20～29歳で4割前後、「特にない」は85歳以上で4割半ばと、それぞれ多くなっています。

年齢 (%)	避難の声かけをする	高齢者などと一緒に避難する	避難所で人のお世話をする	(自身や家族の状況が許されれば)災害ボランティア活動に参加する	その他	特にない	無回答
全体	58.6	29.8	23.6	17.0	0.8	23.9	3.8
18～19歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～24歳	41.7	16.7	41.7	20.8	0.0	25.0	0.0
25～29歳	53.6	25.0	39.3	28.6	0.0	25.0	0.0
30～34歳	54.3	17.1	20.0	11.4	0.0	34.3	0.0
35～39歳	65.0	25.0	25.0	17.5	0.0	20.0	2.5
40～44歳	67.3	21.8	29.1	23.6	1.8	18.2	1.8
45～49歳	56.9	36.9	26.2	23.1	1.5	30.8	0.0
50～54歳	68.1	45.8	38.9	26.4	1.4	19.4	2.8
55～59歳	73.8	40.5	27.4	16.7	0.0	11.9	2.4
60～64歳	56.9	27.6	20.7	15.5	0.0	27.6	0.0
65～69歳	67.6	33.8	26.5	27.9	0.0	17.6	0.0
70～74歳	68.2	34.1	14.8	11.4	0.0	20.5	5.7
75～79歳	58.4	24.7	22.5	12.4	0.0	21.3	6.7
80～84歳	38.3	25.9	8.6	3.7	2.5	35.8	8.6
85歳以上	24.3	16.2	10.8	5.4	2.7	43.2	13.5

- 地域別でも全体結果と概ね同様の傾向です。

地域ブロック (%)	避難の声かけをする	高齢者などと一緒に避難する	避難所で人のお世話をする	(自身や家族の状況が許されれば)災害ボランティア活動に参加する	その他	特にない	無回答
全体	58.6	29.8	23.6	17.0	0.8	23.9	3.8
第1	61.3	26.7	30.7	17.3	1.3	24.0	1.3
第2	58.0	21.7	18.8	11.6	1.4	27.5	8.7
第3	52.8	30.6	26.4	22.2	0.0	31.9	4.2
第4	59.9	31.7	22.5	19.0	1.4	19.7	2.1
第5	66.7	31.5	24.1	12.0	0.9	20.4	4.6
第6	60.9	29.0	24.6	21.7	0.7	23.9	3.6
第7	52.1	34.5	22.7	14.3	0.0	21.0	3.4
第8	57.3	30.1	21.4	15.5	0.0	29.1	1.9

- 防災の取り組みや用語を知っている割合（認知度）（問 27）は、全体では「仮設住宅」（74.6%）、「在宅避難」（42.2%）、「災害ボランティアセンター」（34.2%）を上位に挙げています。
- 年齢別でも全体結果と概ね同様の傾向です。

## 考察6 権利擁護支援について

### ▼調査結果からの考察

- 権利擁護制度のうち、成年後見制度については、一定程度、認知されています。また、将来の権利擁護制度の利用意向が、全体で5割、病気で寝たきりの人がいる世帯では8割と多くなっています。
- この調査結果から、権利擁護制度へのニーズは、今後の高齢者の増加や介護者・障害者の高齢化等に伴い、今以上に高まることが予想されます。そのため、権利擁護制度の理解促進、将来に備える任意後見制度や、身寄りのないケースの社会貢献型後見人（市民後見人）の一層の周知を図ることが必要です。
- また、相談したい時に気軽に相談できる東久留米市社会福祉協議会の遺言相続・成年後見制度相談の周知を図ることや、専門職（士業等）の団体や福祉サービス事業者等とも協力し、身近な地域で権利擁護や相続等も含めた生活相談ができる機会を増やすことも必要です。
- 身近な家族等による後見を希望するケースが増えることも予想されることから、親族後見人の周知や親族後見人のことを学ぶ講座の開催等、関係機関と協力して権利擁護のための人材育成を図ることも必要です。

### ■主な属性分析（考察の根拠）

- 権利擁護制度の認知度（問28）について、全体では「内容を知っている」割合は、成年後見制度（33.3%）が最も多く、任意後見制度（15.6%）や社会貢献型後見人（市民後見人）（4.3%）は1割台以下にとどまります。
- 認知度の高い成年後見制度（下表）をみると、年齢別では、成年後見制度の「内容を知っている」と「聞いたことはある（内容は知らない）」の合計割合は40～79歳で7割台～8割台と多くなっています。

年齢 (%)	内容を知っている	聞いたことはある (内容は知らない)	知らない	無回答	「内容を知っている」と「聞いたことはある」合計
全体	33.3	37.3	22.6	6.9	70.6
18～19歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～24歳	16.7	29.2	50.0	4.2	45.9
25～29歳	14.3	21.4	64.3	0.0	35.7
30～34歳	25.7	22.9	51.4	0.0	48.6
35～39歳	30.0	30.0	37.5	2.5	60.0
40～44歳	23.6	47.3	27.3	1.8	70.9
45～49歳	46.2	29.2	24.6	0.0	75.4
50～54歳	44.4	33.3	19.4	2.8	77.7
55～59歳	41.7	31.0	26.2	1.2	72.7
60～64歳	31.0	46.6	22.4	0.0	77.6
65～69歳	48.5	41.2	7.4	2.9	89.7
70～74歳	36.4	37.5	14.8	11.4	73.9
75～79歳	33.7	47.2	13.5	5.6	80.9
80～84歳	24.7	44.4	9.9	21.0	69.1
85歳以上	18.9	37.8	10.8	32.4	56.7

- 同居状況別では、成年後見制度の「内容を知っている」と「聞いたことはある（内容は知らない）」の合計割合は、多くの同居世帯は7割以上、病気で寝たきりの人がいる世帯は10割です。一方、未就学児がいる世帯は5割台、生きづらさを感じている人がいる世帯は6割台であり、他の同居世帯よりやや少なくなっています。

同居状況 (%)	内容を知っている	聞いたことはある (内容は知らない)	知らない	無回答	「内容を知っている」と「聞いたことはある」合計
全体	33.3	37.3	22.6	6.9	70.6
未就学児がいる	24.7	33.8	40.3	1.3	58.5
介護が必要な人がいる	25.9	53.7	13.0	7.4	79.6
障害者手帳を所持している人がいる	42.1	35.5	14.5	7.9	77.6
病気で寝たきりの人がいる	60.0	40.0	0.0	0.0	100.0
生きづらさを感じている人がいる	25.7	37.1	28.6	8.6	62.8
1～5のいずれもない	37.3	35.9	22.0	4.8	73.2

- 権利擁護制度の将来的な利用意向（問 29）は、全体では「利用を検討する」（48.7%）が最も多く、「既に利用している」（1.3%）を合わせると5割となっています。
- 同居状況別では、「既に利用している」と「利用を検討する」の合計割合は、病気で寝たきりの人がいる世帯は8割であり、他の同居世帯より多くなっています。

同居状況 (%)	既に利用している	利用を検討する	利用しない	わからない	無回答	「既に利用」と「利用を検討する」合計
全体	1.3	48.7	10.6	34.8	4.6	50.0
未就学児がいる	1.3	57.1	7.8	32.5	1.3	58.4
介護が必要な人がいる	1.9	53.7	20.4	22.2	1.9	55.6
障害者手帳を所持している人がいる	1.3	43.4	11.8	36.8	6.6	44.7
病気で寝たきりの人がいる	0.0	80.0	0.0	20.0	0.0	80.0
生きづらさを感じている人がいる	2.9	45.7	2.9	48.6	0.0	48.6
1～5のいずれもない	1.0	49.4	10.4	35.5	3.7	50.4

- 権利擁護制度を利用しないと回答した人の利用しない主な理由（問 29 付問）は、全体では「家族などに支援してもらいたい」（78.7%）が最も多くなっています。  
（※属性分析は、限定設問で回答者数が少ないため、掲載していない）

- 東久留米市社会福祉協議会の遺言相続・成年後見制度相談の認知度（問 30）は、全体では「既に利用したことがある」（0.2%）と「知っている（利用したことはない）」（18.1%）を合わせても2割近くにとどまります。
- 同居状況別では、介護が必要な人がいる世帯、障害者手帳を所持している人がいる世帯では「既に利用したことがある」と「知っている（利用したことはない）」の合計割合がそれぞれ2割半ばであり、他の同居世帯より多くなっています。

同居状況 (%)	既に利用したことがある	知っている（利用したことはない）	知らない	無回答	「既に利用した」と「知っている」合計
全体	0.2	18.1	79.3	2.4	18.3
未就学児がいる	0.0	7.8	90.9	1.3	7.8
介護が必要な人がいる	0.0	27.8	72.2	0.0	27.8
障害者手帳を所持している人がいる	0.0	23.7	73.7	2.6	23.7
病気で寝たきりの人がいる	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
生きづらさを感じている人がいる	0.0	5.7	94.3	0.0	5.7
1～5のいずれもない	0.2	17.4	80.5	1.9	17.6

## 考察7 立ち直りを支援するまちづくり（再犯防止）について

### ▼調査結果からの考察

- 現状は、市民に犯罪や非行をした人たちの立ち直りを支援する活動や民間協力者の認知度は高くなく、こうした取組は浸透していないと考えられます。そのため、若い世代を含めた幅広い世代に対し、まずは犯罪や非行をした人たちの立ち直りを支援する活動や民間協力者の認知度を高めることが必要です。
- 立ち直り支援に重要な市の取組である「就労支援」、「住まいの確保支援」、「非行の防止・就学支援」等の取組は地域の協力が欠かせません。そのため、より多くの市民に対し、「自分たちも再犯防止や明るい地域社会を築く活動の一翼を担う」という意識を啓発すること、企業、不動産の貸主、関係団体、教育機関等に協力に向けた働きかけを行うことが必要です。

### ■主な属性分析（考察の根拠）

- 犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築く活動の認知度（問31）は、全体では「社会を明るくする運動」と「再犯防止啓発月間」を「両方とも知らない」（71.7%）と回答しています。
- 年齢別では、20～64歳で「両方とも知らない」が7割台～9割台であり、65歳以上の5割台～6割台に比べて多くなっています。

年齢 (%)	両方とも知っている	「社会を明るくする運動」のみ知っている	「再犯防止啓発月間」のみ知っている	両方とも知らない	無回答
全体	8.1	11.6	4.4	71.7	4.2
18～19歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～24歳	4.2	8.3	8.3	75.0	4.2
25～29歳	3.6	3.6	0.0	92.9	0.0
30～34歳	8.6	5.7	2.9	82.9	0.0
35～39歳	0.0	15.0	7.5	75.0	2.5
40～44歳	7.3	3.6	5.5	81.8	1.8
45～49歳	4.6	10.8	3.1	80.0	1.5
50～54歳	9.7	12.5	2.8	73.6	1.4
55～59歳	6.0	6.0	2.4	85.7	0.0
60～64歳	8.6	10.3	1.7	79.3	0.0
65～69歳	7.4	22.1	2.9	64.7	2.9
70～74歳	14.8	13.6	6.8	60.2	4.5
75～79歳	10.1	14.6	7.9	62.9	4.5
80～84歳	8.6	17.3	3.7	59.3	11.1
85歳以上	10.8	10.8	2.7	56.8	18.9

- 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生に協力する民間協力者の認知度（問32）は、全体では「保護司」（63.2%）を知っている割合（認知度）が多くなっています。
- 年齢別では、「保護司」の認知度は34歳以下が1割台～3割台、35歳以上が5割以上となっています。その一方、他の民間協力者の認知度は全ての年齢で5割未満です。

年齢 (%)	保護司	更生保護女性会	協力雇用主	BBS会	更生保護施設	教諭師	篤志面接委員	いずれも知らない	無回答
全体	63.2	5.1	15.2	1.1	29.0	13.1	1.5	28.9	3.2
18～19歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～24歳	16.7	0.0	8.3	0.0	12.5	4.2	0.0	66.7	0.0
25～29歳	35.7	0.0	0.0	0.0	17.9	7.1	3.6	57.1	0.0
30～34歳	34.3	8.6	11.4	5.7	17.1	0.0	0.0	57.1	0.0
35～39歳	50.0	2.5	10.0	0.0	35.0	7.5	0.0	37.5	2.5
40～44歳	60.0	9.1	12.7	5.5	30.9	7.3	1.8	30.9	1.8
45～49歳	52.3	4.6	9.2	0.0	29.2	10.8	3.1	43.1	0.0
50～54歳	56.9	5.6	12.5	0.0	36.1	11.1	0.0	34.7	0.0
55～59歳	61.9	3.6	10.7	0.0	25.0	10.7	0.0	32.1	3.6
60～64歳	70.7	5.2	15.5	0.0	31.0	15.5	0.0	25.9	0.0
65～69歳	89.7	4.4	27.9	1.5	44.1	20.6	0.0	7.4	1.5
70～74歳	77.3	8.0	27.3	1.1	27.3	13.6	2.3	20.5	2.3
75～79歳	74.2	3.4	25.8	0.0	32.6	24.7	4.5	19.1	2.2
80～84歳	70.4	4.9	4.9	2.5	22.2	14.8	3.7	19.8	7.4
85歳以上	73.0	8.1	16.2	0.0	27.0	13.5	0.0	5.4	21.6

- 立ち直り支援に重要な市の取組（問33）は、全体では「就労支援」（70.8%）が最も多くなっています。
- 年齢別では、全ての年齢で「就労支援」が最も多いほか、「非行の防止・就学支援」は、小・中学生の親世代も多い25～39歳で多くなっています。

年齢 (%)	就労支援	住まいの確保支援	経済的支援	地域住民の声かけ・関わり	非行の防止・就学支援	民間協力者の活動促進	どのような支援が必要かわからない	特に必要な支援はない	その他	無回答
全体	70.8	48.5	35.7	22.4	40.7	20.2	12.9	3.9	1.5	3.4
18～19歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～24歳	58.3	33.3	37.5	20.8	37.5	12.5	20.8	20.8	4.2	0.0
25～29歳	60.7	32.1	32.1	17.9	53.6	10.7	14.3	7.1	0.0	0.0
30～34歳	65.7	40.0	31.4	17.1	54.3	11.4	2.9	8.6	0.0	0.0
35～39歳	67.5	52.5	17.5	30.0	55.0	25.0	5.0	0.0	0.0	2.5
40～44歳	54.5	29.1	10.9	14.5	38.2	9.1	12.7	16.4	1.8	1.8
45～49歳	78.5	47.7	24.6	24.6	43.1	15.4	13.8	0.0	6.2	0.0
50～54歳	80.6	52.8	34.7	30.6	45.8	25.0	8.3	2.8	0.0	1.4
55～59歳	71.4	45.2	36.9	25.0	47.6	17.9	11.9	2.4	0.0	1.2
60～64歳	63.8	51.7	39.7	10.3	41.4	22.4	12.1	3.4	1.7	1.7
65～69歳	86.8	61.8	35.3	27.9	51.5	27.9	7.4	1.5	2.9	1.5
70～74歳	81.8	60.2	44.3	26.1	38.6	22.7	13.6	1.1	1.1	4.5
75～79歳	73.0	52.8	43.8	18.0	29.2	21.3	20.2	1.1	0.0	3.4
80～84歳	64.2	45.7	46.9	22.2	28.4	21.0	19.8	3.7	3.7	6.2
85歳以上	56.8	43.2	54.1	29.7	24.3	29.7	10.8	5.4	0.0	16.2

## 資料Ⅰ 自由記述

(注) 可能な限り原文のまま掲載していますが、個人や企業が特定される記述は、一般的な用語で示しています。また、表現として不適切と思われるものは掲載していません。

### 2 近所付き合い、地域の暮らしについて

問9付問 ふだん、となり近所とは、どのようなお付き合いをされていますか、**「4 ほとんどない」と答えた方。近所付き合いをしていない主な理由は何ですか。における選択肢8「その他」の自由記述**

母が精神障害者。ちょっとした事でヒステリーを起こしクレームをいれたり、母のみ●●の信者で勧誘活動も行なってるようで、よそよそしくならざるを得ない。
過干渉してくる近所の人がいる。
両隣がマンション、建売(建築中)に建て変わっているから。
村八分にされていたからです。陰湿な人ばかり。
引越しの挨拶に行っても上下・隣とも全て居留守を使われたので、普段から外部の人と関わらないのだと思っている。周辺に住む方の話によると、トラブルメーカーな家族があるらしいので。
トラブルになりたくないから。
多数の方から嫌われている人が居るから。(私も大嫌いです。)
最近越して来た方達は挨拶もなく、近所付き合い等なくなりました。
こちらから挨拶をしても返ってこない事多い
近隣の人も似た様で、開放的ではない。世代は関係ない。

問14 あなたの地域で次のような世帯を見たり、聞いたりしたことがありますか。における**選択肢10「上記以外で、課題を抱えていると思われる世帯」の自由記述**

動物禁止のマンションで小型犬を飼っていると思われる。
单身男性外国人が地域や棟のルールを守らず、丁寧に幾度となく注意喚起しているが、一向に改善されず。近隣の住人は10年弱困ったままている。
自分の面倒(一般的なごく普通の生活等)も難しいのに、ペットを飼っている高齢者の一人暮らし
孤独死リスク高い
犬のフンを庭にさせてそのまま片付けない者がいる。
空室が多く、火事など心配している。
虐待と呼ぶものか分かりませんが、心配になってしまう親子がたまにいる。
老人の一人暮らし。
息子さん重度障害。
ペット(犬)を飼っているが、散歩をさせている様子が見られない事。
扶養家族(父1人)がいる。
隣の家のご主人が数年前に亡くなり現在空家になっている。数ヶ月に1回程度家族が見回りに来るが、空家状態が続いてるので何かと心配です。
世代間のギャップ。
子どもがいない。親族も疎遠な人の相続、当人が亡くなった後の後始末。
高齢な一人住まいの方が、病院に週3回で行っている。

外国人が住みついてトラブルが多くなった。音がうるさい。
家にいたり、いなかったりと情報を見せない。
①～⑩の問いは●●（町名）でいると思います。自分は朝から夜まで仕事をしているので近所付き合いがあまりない。

**問15 あなたは、まわりの人（家族以外）に手助けできること（してもいいこと）はありますか。における選択肢10「その他」の自由記述**

保育園の送り迎え、など
生垣の剪定など。
料理のおすそわけ。
料理が沢山になった時のおすそ分け。
マンションの防火管理者としての活動で声かけや指導の実施。
隣の空家の周囲の掃除は毎月しています。
手助けの範囲は、人による。
そんなに大きな事はできませんが、お子さんの介護が大変そうなお隣さんに何かあったら声かけて下さいとは伝えています。
精神面で不安定な方がいるので、時々、話を聞いてあげる。
ごみ置き場の簡単な整備
高齢一人暮らしの方の親族連絡先を預かる。
高齢者のスマホで、分からない所を教えてあげる。
命に関わる事なら。
犬の散歩代行。
意外と迷惑がられる。
やりたいけど、やり方が分からない。
入院中の為、出来ない。
私自身が入院中なので。
めまい、ふらつきがあるので出来ないと思う。
引越してから、まだ分からない。
なにかすべきと思うものの、正社員として平日は夜まで働いているため、現実的に厳しい
自分の事でいっぱい。
自分が高齢者である為、手助けは出来ない。
高齢になり無理だと思います。

### 3 地域の活動について

**問16 あなたが地域に参加するとしたら、どういう活動に参加したい（しやすい）ですか。現在の活動の有無に関係なく、お答えください。における選択肢7「その他」の自由記述**

防災訓練や祭り。
変性側弯症と脊柱管狭窄症を治してから、ボランティアでヘルパーをしたいと思っています。
共働き夫婦、とりわけ、小さな子がいる世帯をサポートする活動

町の清掃（この町はポイ捨てが多すぎるから）
毎朝近くの広場でラジオ体操ができればよい。個人の努力や意思では長続きしない。
犯罪被害者のケアが期待できる活動。
電波適正利用推進員
市民農園
健康維持管理ウォーキングなど。
代わりに主人に託している。
カラオケ教室を24年間続けています。
犬仲間との交流。
NPO●●の会員である。
不要品の交換、即売時、ゴミにたくないもの。
まだ、地域に馴染んでいないので、これから関心を持っていこうと思います。
やりたいけど、やり方が分からない。
めまい、ふらつきがあるので出来ないと思うので。
年齢と身体が悪いので出来ない。
いくつか考えるが、夫婦とも高齢の為実行できないと思う。
自治会は入会する人がいなくなり今年解散しました。
仕事をし、病人もいるためなかなか関わる時間がない。
仕事が忙しいので、参加したいけど参加できない。
健康であれば活動したいと思いますが、今は無理なので。
デイサービスを利用。
長期で入院中なので。
病弱の体のため思うように動けないため。
仕事が忙しい。
今だにフルタイム就労のため、体力的、時間的余裕が持てず、参加は難しい。

**問17 あなたは、どのような環境があると地域活動に参加しやすいと思いますか。における選択肢10「その他」の自由記述**

活動を気軽に休める事。
健康であれば。
9項の「参加に報酬があること」にも含まれるかも知れませんが、半日から1日等の長い時間ならば休憩の飲み物とか昼を挟むなら弁当とか、可能なら交通費等の参加するための自己負担無く貢献できると気兼ねなく参加し易いので有難い。
自分の健康、体力で可能な事。
体調が良い時。
体調が良い時（自分の足で歩ける）
必要経費（消耗品、機材）、活動場所使用料の負担
ご近所に高齢者が多くこの方の支援プラン・片親子育て家庭・子供達や若者支援、社会的弱者の支援の急務、新型コロナウイルスはワクチンではなく薬開発を急いで欲しい。

金銭的余裕があるとき
健康ではないから、通院が多く、人とかかわりたくない。
病気療養中。
問16で記した通り高齢の為回答出来ません。

**問18 あなたが身近な地域（自宅以外）で利用する場所がありますか。における選択肢8「その他」の自由記述**

落合川
川沿の遊歩道。
川沿いの遊歩道。
市内のスポーツセンター。
スポーツセンター
スポーツセンター
柳泉園テニスコート
市営テニスコート
テニススクール
プール
スイミングスクール
ジム
公園
温泉施設
保育園、児童館。
ひばりが丘まちにわ
地域の集会所。
診療所・クリニック等の医療施設。
市民農園、シルバーセンター。
市民農園
仕事場
私学での協力活動。
7年程前（入院前）私はよく利用していました。
入院中の為、なし。

**4 相談や情報について**

**問20 あなたやご家族が日常生活での困りごとを相談できる人や機関はありますか。における選択肢13「その他」の自由記述**

福祉事務所、●●相談員。
市議会議員、2名。
月に一度通っているメンタルクリニックの主治医の先生。
これまでに具体的な相談をしたことはないが、何か困りごとが生じた場合は窓口で相談しようとは思っています。

作業所のスタッフさん。

**問21付問** 現在、あなた自身やご家族は、どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えていますか。に、「1 ある」と答えた方。お困りの内容は何ですか。における選択肢10「その他」の自由記述

親が認知症になったような(軽度)気がする。
お墓がないこと。
税金関係。
隣の木の枝が伸びてしまい、2階のベランダに届きそうです。(一人暮らしの老人がいる)
年金120万代で90歳まで家賃5万円は不可能と考え検討中です。
カーブミラーの新設について。
田舎の留守宅、屋敷。
老後の介護施設。老人ホームの選択など。
●●のモバイル契約でもめています。
地域と密接に関係したPTAの活動(校外役員)の負担が別の学校の2倍の量(2地域に所属しなくてはならない学校)で、その活動を担うPTA組織化が進まず、一部の保護者に負担が過度にかかり、解決が進まない。
道端の犬糞やゴミのポイ捨て
実家の件とか
市役所とのトラブル。
市や区によって、子育てのし易さが変わるようだが、どのように比較・検討したら良いのか分からない。アドバイスをもらえる所が分からない。市に相談するところが無さそう。相手にされなさそう。

**問22** あなたにとって、市役所、社会福祉協議会がより相談しやすくなる方法は何か。における選択肢6「その他」の自由記述

何かについて、どこに相談すれば良いかのサポート。
秘密が守られる。
少なくとも相談当初は匿名で相談できる
相談を受ける人は資格とかではなく、人生経験の豊富な人の方が良い。
相談員が知識豊富であること
市報以外にも、ちらし等で広告して欲しい。
市役所以外の所で相談うける。スーパー、学校、まろにえホール等。
民生委員等
出張所
自宅の近くに出張所などがある
メールで相談できる
アウトリーチを積極的にやる。
ただ聞いてアドバイスで終わらず、具体的な解決策までを指示できる人材育成に力を入れてほしい。
身近で使いやすいものになれば利用しやすい。
どんなことを相談してよいか発信する。
活発な活動をしている。
本気で相談できるのですか？
どの様な事をどの窓口相談すれば良いのか分からない。
職員によって対応がちがう。かわる。
市役所の中の一つの課では、対応が充分出来ない事がいくつもあります。
相談しても解決できない。

問23 あなたは、市の福祉（サービス）に関する知識や情報をどこから得ていますか。における選択肢10「その他」の自由記述

ご近所の方。
かかりつけ医
ケアマネジャー
老人会で知る。
仕事上
入所している施設。
マニュアル化していて頼れない。
得られる場所がわからない。
自分自身も自治体に勤務しており、福祉部局での勤務経験があるため。
作業所
駅に掲示されているポスター。
保健所
職場
どこにどんな情報あるか意識していなかった
親を介護した経験から
市のホームページ

## 5 災害への備えについて

問25 あなたは、日頃から、災害発生時に備えていますか。における選択肢7「その他」の自由記述

市販の防災バックを常備。
避難用のカバンを用意している
食料以外の防災グッズを年に1回確認しています。
水のストック。
1~2日程度の水、食料。
防災用リュック
水、カロリーメイト保存交換。
防災グッズ、日々の食料の予備を備えているがまだ足りない
食料・水はある
子供達と待ち合わせ場所を決めている。
部屋の温度管理。
防災士の資格取得に取り組んでいる
上記の1. 2. 5. 6. の一部を自分のみ確認(家族と共有出来ていない)
ヤフー防災速報
10/15に、自治会で防災説明会を実施しました。
転倒する家具がない。

問26 あなたは、災害発生時に地域の防災活動に協力できることはありますか。における選択肢5「その他」の自由記述

災害時の盗難等の犯罪抑止
持病がある為、出来ない。
高齢者の為できません。
左半分に障害が有るから。
本人が高齢者。

## 6 権利擁護支援について

問29付問 あなたやご家族のどなたかが認知症などによって判断が十分にできなくなる場合に備えて、あるいは、できなくなった場合に権利擁護支援を「3 利用しない」と答えられた方。権利擁護支援の制度を利用しない主な理由は何ですか。における選択肢6「その他」の自由記述

ひとり身であるから。
身寄りがいる。
全て法に基づく手続きを完了している。
実際の問題として直面してみないとわからない。
ものすごく時間と手間がかかると聞きました。
前に自分が母親の後見人になったが、あまりにも裁判所が厳し過ぎる。
③の不安ではなく、犯罪をする方が多すぎるし、捕まっても氷山の一角ではと思う。この制度は穴だらけ。

## 7 立ち直りを支援するまちづくり（再犯防止）について

問33 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを応援し、社会復帰を果たすために、市が行う支援として何が重要だと考えますか。における選択肢9「その他」の自由記述

市が責任を持って担当部署を作り、見回り・立ち直り支援を職員で行って欲しい。住民任せではダメ。
高齢（84才）により、わからない。
心のケア。
本人に必要な支援を正しく見極める力。愛があるんですか?形だけではダメ!
非行を行う若い子らはストレスの発散場所(なるべくお金のかからない場所)が必要だと感じます。学生や働いていない(収入のない人)の為に体を動かせる場所があると良いと思います。屋内バスケットコート 卓球 バドミントン スケボー (滑る場所込み)、ロッククライミング等が出来る施設が格安で利用 または一部無料で利用出来たりすると犯罪や非行が少しでも減ると考えます。
相談員
親の愛情
この問題は難しい。簡単に何がとは言えない。
犯罪や非行の程度にもよるけど、正直、一緒にとか同じ生活を送るには怖いと思ってしまう。自力で更生するのが償いの内じゃないですかね。罪を犯した人に支援っていうのもどうなのって思ってしまう。背景や事情があるにしろ。
社会復帰させる理由が分からない。

## 8 市の地域福祉について

問34 あなたご自身、お住まいの地域を暮らしやすくするためにしたいこと、できることがありましたら、ご自由にご記入ください。（自由記述）

地域活性化のためのボランティア。
ゴミ袋高すぎ。もっと安くしましょう！市長へ伝えてください。
市役所の運営時間を長くして欲しい。踏切渋滞の解消。駅に喫煙所を作って欲しい。24時間営業の飲食店増設。同じ建物に住んでいる人が減ってきてしまっているの、自治会や月当番などの負担が一世帯あたり大きいと感じています。自分1人でできることではないですが、近くに住む人との関係をよりよいものにするための努力は続けていきたいと思っています。
子育てがもっとしやすい環境になれば良いと思います。例えば、子育てしているママさんをサポートする施設を増やす、給付金の支給、経済的支援が難しいのであれば、商品券の配布や、未就学の子供がいる世帯に無料でおむつやミルクの配布等、もっとサービスがあっても良いと思います。
信号無視多いところをあぶり出して、信号を無くすなりなんなりしたほうが良い。逆に危ない。例えば、前沢十字路に向かっていくときの信号は無視ばかり。あぶり出すときは、行動範囲の多い学生などの住民に聞くと良いのでは。また、学生の勉強する場が少ない。確かに図書館はある、しかし、小さすぎるし、冬に咳をしていてもなにも言わない図書館員しかおらず、酷いと言わざるを得ない。お金がなくて塾に行けない学生は恐らく図書館で勉強する。そういう子達を大人が支援出来ず、理解もないことは非常に心許ない。くわえて、市役所で勉強する学生もいる。しかし、市役所では老人たちの演奏やら歌やらが行われ勉強環境として最悪である。老人たちは勉強する学生を除け者扱いするし。若者のためにできること、言ってもしょうがないだろうが、なにかないのだろうか。
あればしたいとは思っていますが、近所付き合いはないし、お声がけもないのでくすぶっている感じです。昔はよくゴミ拾いをしていましたが…ボランティア用の袋を頂きに行く足がないです。上の原は不便ですね…。
放置されてる緑や用水路など適宜メンテナンスをすること 道路が全体的に狭いので、広くしてほしい。歩道の確保もしてほしい。自転車マナーが悪すぎるので、自転車利用者に対する交通ルールの指導。
ゴミ屋敷、空き家をどうにかして欲しい
朝、地域のラジオ体操に参加しています。近隣の知り合いが増えました。挨拶できる人が身近に多くいるので、嬉しいです。
勉強や読書などができる長居のできる場所（カフェや自習スペース等）が駅前に集中している印象があるので、駅から少し離れた場所にも欲しい。●●や●●（上の原地区の大型商業施設）ができたところにそういうスペースがあったら良いのになといつも思う。本屋+カフェでも嬉しい。
自立を考えているが土地が高い。コロナ以降子どもが熱を出しても見てくれない病院があり、とても困った。何の為の医師会なのか。
納税する。
地域にいる子育て世帯と連携したいです。
歩行者専用道路に、自転車猛スピードで走ることがあります。せっかく自転車専用道路がすぐ横にあるのに…。危ないので、自転車専用道路を使う様に促進していただきたいです。あと東久留米市の選挙活動では、朝から競い合って大声で声かけしてるので、少し迷惑です。
近隣住民や有志の市民が集って、公園のゴミ拾い。
ごみ袋がもう少し安くなると嬉しい。公園の整備、遊具の充実。
街灯を増やして欲しいです。
1. もっと子供たちがのびのびと遊べる公園が欲しい。2. 歩道のない道路は、子供が歩くのは危ない。歩道を作り、安全の確保して欲しい。
夜になると住宅地という事もあって暗い。子供や女性は安心して通るのは難しいのかなと思います。
子育てへの取り組みをもっとして欲しい。市でのイベントを増やしてほしい。夏祭り、商工祭以外にも。
地域の魅力を全面アピールする。公園の拡充。保育園の拡充（子育て世帯を増やす）。
道路がとても狭い。特に南沢通りは駅までのメイン道路の一つで、子供達も通学路で多く利用しており、我が家も保育園児を自転車に乗せて毎日利用しているが、歩道が狭くて歩行者とのすれ違いが危険なので、車道を走るが車道も非常に狭く、車との距離が近いので怖い。子供を乗せて大事故になる危険があるので整備してもらいたい。
歩道がでこぼこなのでちょっと歩きにくいです。
中学校の給食を温かいものにしてほしい。子どもがかわいそうで不安で安心して暮らせない。ぜひ検討してほしい。
今何もできない。
小学校のPTAの委託化。こちらはみなさん負担になっているので、保護者と学校の連携としましては、行事イベント時やクラスのお手伝いのボランティア程度の仕事で良いと思います。子育てが落ち着いたら私もファミリーサポートなどし、若い子育て世代の支えになればと思います。

<p>キッチンカー（移動販売）などで地域貢献を考えています。地域の人たちをつなげる交流の場作り、健康促進に貢献できるようなビジネスを検討中です。公園にもキッチンカーを誘致すればベビーカーや子連れの方がより公園を居心地良く感じてくれるし、交流も生まれるのではないかと考えています。今現在、東久留米市ではベビーカーや子連れで気軽に訪れることが出来る施設やカフェが少なく、鬱屈としているパパママが多くいるので何か力になればと思います、副業でできることを検討しているところです。</p>
<p>現在子供が小さすぎて、あまり周辺との接点がないため思い浮かびません。成長し就学すると学校関連でなにかあるかもしれません。</p>
<p>中央町に10年住んでいてやっと仲良くなれたご近所さん、引っ越してわかったことは地域の人とのつながりがほとんどなくあいさつ程度であること。あいさつすらしてくれない人もいるくらいなのでこのご時世でも自治会（昔からあるような）など地域ごとで集まれる機会があるといいなと思う。</p>
<p>子供が1人で歩いていたら出来る範囲で見守る。</p>
<p>自治会をつくりたい（新しい地域なので無い）がつくるメリットなど周知してほしい（つくるキッカケがほしい）。</p>
<p>普段あまり考えたことはありませんでしたが、このアンケートをきっかけに、市がおこなっている活動を調べてみて、私にできる何かへのきっかけを見つけてみようと思います。</p>
<p>地域の活動に参加して知り合いを増やしていきたいです。</p>
<p>子供がいますので幼稚園、今後は小学校などを通じてできることがあれば参加してみたいと思います。</p>
<p>電車の駅へのアクセスが不便。</p>
<p>高齢者世帯への声掛け、事情のある子供の支援、外国人に日本語を教える</p>
<p>防犯カメラをもっと設置して欲しい。プライバシーが～等あるとは思いますが、犯罪の抑止力、何かあった時の証拠に出来るから良いと思います。あと街灯が少ない所への設置。周囲への関心を持つ。人の動きやよく顔を見る人を認識する。</p>
<p>高齢者が地域に多いため、シニアネイルなどのサービスで生活に彩りを与える事ができる。</p>
<p>里親に情報が少なく、説明も少ないため、利用も検討もしづらいです。近く（小山付近）に児童館がなく、放課後の子供の過ごす場所がありません。</p>
<p>市内の信号のない横断歩道に信号をつけて欲しいです。</p>
<p>1.街灯をもっと明るくした方がいい。2.幸町4-2-28付近から幸第3緑地までの歩道を広くして欲しい。自転車と歩行者がぶつかり、とても危険。3.野良猫にエサをあげてる近隣の方が多々いて、毎年子猫が産まれて、フン害の被害あり。</p>
<p>駅前のブラックジャックの像は邪魔だからベンチや木を植えたほうがよい。ブラックジャックは像にしてもらって喜ぶキャラクターではないので、あの像は見ているのも不快である。</p>
<p>福祉を充実させるために財政を豊かにしなくてはいけない。若い世代が離れていかない、また移住したくなるような温かいかつ活気のある街となって欲しい。日々の暮らしの潤いがなければ助ける余裕は生まれづらい。</p>
<p>不審者などから子供を守る為の見回り</p>
<p>くるぶーを土日でもやってもらいたいです。</p>
<p>相談窓口をオンラインにして欲しいです。銀行やケータイショップみたいに時間予約にして欲しいです！再犯防止について、そもそも、犯罪や非行に走らせない環境作りが大切だと考えます。再犯防止に犯罪が起こる前提で考えてますよね。犯罪が無くせるとも考えてはいないですが、まずは犯罪が起きない様に、どうしてその状況になったのかとか背景を見直して改善に勤める方が先だと思うのですが。犯罪や非行という内容も対象が曖昧で意見を出しにくいのですが、未来の事を考えるのであれば、高齢者ばかりではなく子供を地域で健全に育てる事に注力してもらいたいです。家庭内だけではなく、周りの環境で育つものだと考えているので、地域によって子育てに対する関わり方の差があるなど実感しています。共働きの家庭も多いので平日だけではなく、土日や休みの日にも集まれる様に地域の関わりが持てる様なイベントを増やすとかですかね。主に母子が集うイベントはよくありますが、（父が参加する家庭は少ないですよね）父母子で参加出来て、子供いない人も一緒に遊んだり知り合えるようなものがあるといいです。スポーツでも物づくりでも、定期的に。</p>
<p>子ども医療証の所得制限をなくしてほしい</p>
<p>ご近所に高齢者世帯、障害世帯がいる。新聞が溜まっていたりいつもおいてあるカートがないと、家の中で倒れてないか孤独死してないか心配になる。赤の他人が突然訪問したりはできない。ただ出かけていたり閉まっていたりするだけの可能性もある。そういう場合に警察ではない行政の24時間365日連絡出来る窓口があれば連絡したい。</p>
<p>自治会加入、未加入に関係なく、自宅周辺の清掃等を近所の方と一緒にやる。場所などがあれば、植物を植えたりするなどの活動もできると思います。</p>
<p>夫婦二人暮らして仕事をしている間は職場でのつながりはできますが、子供がいないこともあってか、地域のつながりが全くありません。今後老後を考えると、地域のつながりを増やしていく事が必要だと思います。</p>
<p>地域のごみ拾いによる協力、交流。お茶飲み場、居場所をつくる機会となる小規模なカフェが作れると良い。</p>
<p>こうしたアンケートで様々なテーマで課題の収集、開示、データ化、それに基づいて行政、学校等の取り組みへ反映させること。</p>
<p>近所付き合いが災害、防犯上、一番身近におこることだと思うので、関係性を良好なものにしておきたいと思っています。</p>

やれることがあれば、何でもやりたいと思っています 東久留米市は、とても住みやすい街ですし、何より子供たちが、育った、かけがえのないコミュニティです
歩きタバコがなくなって欲しい。
富士見テラスにカフェが欲しいです。折角、きれいに富士山が見える所にくつろげるスペースやカフェが欲しいと思います。
子そだて世代がやすく食材を買ったりできる様な工夫をしないと、他にお金を使わず生活をあっぱくしてしまう（例えば食品だけに使える金券や割引券など）。塾費補助や市でやる塾（無料か格安）とかがあったら良いと思う。発達の障害（グレーゾーン）の子供への支援を今より 100 割増やす。
子育て世代や高齢世帯に特にクローズアップした施策と同様に、単身世帯や低所得世帯が日常生活を送りやすい施策やサービスに力を入れて欲しいです。
地域の環境美化活動等（ゴミ拾い等）、市も人手不足であれば、こういう住民活動を促進する方向に舵を切った方がいいのではないかな？
自宅周辺は掃除するなど、環境美化し、防犯に繋がる。小学生の通学路をパトロールし、子どもへ挨拶など声かけをする。
自助会等、班毎の活動があると、誰が住んでいるか分かり易い。
仕事や育児が落ち着いた時に自身が健康であれば地域のボランティア活動に参加してみたい。
必要があれば助けてあげられるような気持ちの余裕を持てるようにしたいです。
道がでこぼこで、整備されていないところが多すぎる。自転車が走りづらい。スーパーが少ない。安いところが少ない。
自治体や祭り等、地域の繋がりが薄くなってきた近年、煩わしさや労力は減ったが、その分、防犯や助け合わなければならない場面での力も薄くなってきた。カフェや飲食店、学校等利用し易い方法で何かしらの「繋がり」、自然な形で「繋がり」を地域に活かしていけたら良い。
とても些細な事ですが、雨が降ってきた時に近所で洗濯物が干してある家があったら声をかけてあげる。本当に大した事ではないのですが意外とすごく助かることだし、こういう小さなコミュニケーションが大切だと思います。
大きな公園、水辺遊び（伴い、トイレ、駐車場、マルシェ）働く場所、集える場所、学べる場所（学校以外）。大雨時道路冠水、未完成道路多い。
犬を飼っています。当然の事ですが、おしっこうんちは取って持ち帰り水で流して帰る事をします。以前より放置する人も少なくなりましたがまだいらしゃいます。洗い流してないおしっこは流して歩いています。
子育てに忙しく、地域に関われる時間が取れるか分からないが何かあれば積極的に関わりたい。
周りに迷惑かけない
商店街の閉店で、何だか寂しく感じる。市を活性化して欲しい。一部では過疎化を感じる。
市役所の HP を分かりやすくしてほしい。利用できる補助金や受けられるサービスの周知。調べなければ分からないので、HP で見つけやすい工夫など。
ニュースで見たゴミ拾い大会があれば参加したいです。チームまたは個人で参加出来て ゴミの種類でポイント化して競う大会があったのをテレビで観ました。
近年、柳窪地区は●●●（店舗）の人気で週末や連休は大賑わいで柳窪地域が活性化されるという面では良いと思う反面、●●●（店舗）の混雑と比例した周辺道路の大渋滞や危険な運転のドライバーや 1 日を通して鳴り響くクラクション等、何とかならないのかと思うことが増えました。また近年の柳窪地区は戸建住宅も増え、人口が増えていると思いますが、通勤通学時の小平駅に向かう歩道の狭さ（柳窪 3 丁目）が危険過ぎますまた夜は小平霊園側に立つ電柱の街灯が暗過ぎて自転車とのすれ違い等、これも危険過ぎます。特に雨の日は傘を差していると人と人がすれ違うことも困難で、駅に向かいたい人と市内に勤務している駅から来た人とのすれ違いに苦労しています。
あいさつ
物価、水道、ガス、電気代を安くして欲しいです。昭和の時代に戻りたいです。
挨拶をしたり、コミュニケーションをとる事が大切だと思います。後、話し合う場を設けて意見を交換できれば、改善できることもあると思います。
未就学児がいる為、やれる事は少ないのですが、子供たちが安全に暮らせる様、気にかける様にして行こうと思います。
浅間町に児童館、図書館、市民センターなど利用しやすい施設があると良い。
将来の年金額では暮らせない為、夫婦、正社員で働いています。年収に応じての国からの補助など不公平な事が多く地域の支援も子育てしやすい地域とそうでないところがあるので、東久留米が、住みやすい支援のある地域にしてほしい。
フルタイム勤務で小学校低学年の子供がいるため、時間がなく、また子供を放置してまで他の人を助ける余裕と勇気がありません。

まわりの畑が、次々と住宅が狭々と建ち、子供が少なくなってるのに必要なだろうか？と思う。いずれ空家問題にもつながるし、畑は畑で”自給自足ができる市”として残し若者を育てるべきである。”若い人と老人の住宅が循環する市”子供が巣立れば広い部屋はいらないので駅チカのマンションや、スーパーや病院が近くにある賃貸に移る代わりに若い世代に住んで一軒家を貸せる、又は、学生に部屋を貸すシェアハウスにするなど住み方も循環するとよいと思う。
1.黒目川のゴミが昔より増えたことが悲しいです。防犯カメラなどで対策したらどうでしょうか。カメラがあることで防げることもあると思います。2.洪水が気になります。温暖化で雨量が大幅に増えて、娘の家の前も急にひざくらいまで増水してます。排水を今一度、確認して頂きたいです。安心して暮らせるように。せっかく買った家も、これでは台無しになりかねません。
公園や道路等のゴミ捨てが多く見られ、治安が悪くならない様に気軽にゴミのポイ捨てがこれ以上増えない為、散歩しながらついでにゴミ集めが出来ればと思う。
近所の人々との交流。
声がけは大切。今はフルで働いていて日中ほとんど自宅にいないが老後のことを考えるとできるだけ外へ出て交流は持っていきたいと感じる。
13年前に新座市から転入しました。新座市に居住していた際は近所に民生委員の方がおり、声がけなどをしてくれていましたが、現在居住の中央町では民生委員がいるかさえ不明です。
子ども食堂。里親。
市内でお知らせいただく様々なイベント、勉強、趣味、訓練等々参加したいと思うが現状はまだ仕事と親の介護で時間の都合がつかない。
自治会活動への参加。様々な地域ボランティア活動への参加。
ちいさな問題があったとき（路上駐車など）誰に相談すれば良いのか教えてほしい。警察でいいのか？
今のところ特にはなし
団地で暮らしていますが、最近、孤独死を目の当たりにしました。もっと周りとのコミュニケーションを図り、声掛けしていく事で住み易い暮らしが出来るのではないかと思います。
意見を書きます。市内のコインランドリー、夜中営業に変更していくべきです。あらゆる状況想定をしたら、夜の方が都合がまとまるに決まっています。
以前は中野駅の辺りで暮らしておりましたが、全て徒歩で生活していたのですが、東久留米の駅近辺以外は商業施設が離れすぎていて、最初は不自由に感じました。リーズナブルなバスの数を増やして欲しいです。
同地区の独居等高齢者の安否確認、声掛け等
昔と異なり現代は、いわゆるご近所付き合いを好まない現状を目にします。良くないと感じてはいるものの自身の住まい地域においてお役に立てておらず、またどうしたら良いかも決めあぐねているのが現状です。
住宅地ということもあり、休日に外に出ようという気持ちが変わりません。イオンのような大規模施設が駅近くにないというのも一因であるかと思えます。駅前開発に力を入れて頂きたい。お金を使うにも結局、市外に出て使うばかりで市に貢献できてない現状です。
気楽に話すことができる近所付き合いが必要。
東久留米市は飲食店に厳しい市だと思えます。今回の市民の祭りでもそうでしたが、飲食店の品単価を考えると出店料が¥22,000、商工会に入っていないと¥44,000は高過ぎます。カフェを探して休みたいと思っている人はいても、出店する側は出店料が高くて参加出来ません。気軽に入れるカフェをもう少し支援して欲しいです。なるべく買い物は地域のお店です。
ゴミが個別回収となり近所の方との触れ合いもなくなりました。何か全世帯が必要となることを日常的に実施していると良いかと思えます
近隣とのコミュニケーションが出来る会合が必要である。
集会など集まり、お互いの話をしあう。
おつきあいが負担にならない程度の交流ができるのがベストですが、難しいと思う
福祉についての情報を得ておく。ご近所付き合いも続けて行きたいと思う。
定年退職後の地域貢献活動には興味がある。
犬猫殺処分0活動
自治会活動の活性化
地域だけというわけでもなく、必ずしも社会福祉に限ったことではないかもしれませんが、地図を扱う仕事をしているので、地図がらみの作業などであれば、お役に立てるかもしれません。
不便なところに引っ越して来たことを実感している毎日です。福祉の視点以外ですすでに暮らしにくいので、まず健康でいる人が暮らしやすいと思えるところを見つけるのが先で、その上でないと自分のできることを見つけるのは大変かと思えます。
高齢者が利用出来るコミュニティバス。特に公立昭和病院行き等。
市内に防犯カメラをもっと設置してほしい。
近所との付き合い。
年代別もしくは趣味ごとのコミュニティ場所の確保
日頃から近所の方たちと挨拶など、関わりを持つことによって、何かあったときには助け合えるようにしたい。

身近につらい状況にある(虐待など)子供たちが居たら、市や警察に知らせ、一人でも多くの子供が幸せに暮らせることを願う。
問 15 に関して、ある小説で高齢者施設の入居者の話を聞くだけの「リスニングボランティア」という活動がある事を知り、興味を持っています。
タバコ以外にも路上のゴミが酷い事に驚いています。大通りだけでなく、路地も川浴いも酷いと思います。ゴミ拾い等を市役所で先頭してお願いできれば、自分も参加したいと思います。
粗大ゴミ、例えば親が亡くなって家の中の家財道具等の処分や清掃等をお願いしたい時に、どこにお願いしたら良いのか？民間では高額請求される事が多いので。
とにかく若い家族や子供たちのために暮らしやすくしてほしい。老人ばかり楽しんでいる東久留米市のイメージです。子供たちの事を考えてくれる市であって欲しい。
空き家問題
特にありません。
出来れば、協力したいのですが、一人暮らし及び、共働きだと、なかなか時間が取れないのが、きついと思います。少しでも、協力出来ればと思いますが、それがわからないのが、辛いですね。
コロナ前には定期的に行われていた自治会の総会が、コロナで中止になり、地域の様子がわからなくなっている。災害時に地域の助け合いが必要だと思うが、この状況では心許せない。市から義務化とまでは言わないが、自治会の活動が望ましい旨、発信して欲しい。周囲の畑が宅地化して新しい住人が増加するのが目に見えているので、このタイミングでお願いしたい。
家の前で鍵っ子の集団が長時間大声で遊び回りボールが入ったりして、騒音で困っている。親は全く見ていない。家の敷地内にゴミを捨てられる。夜間に外人(日本人)が最近多く不法民泊しているのではないかと思う。災害が起これ、避難所に避難した時には、人のお世話は出来ませんがお手伝い出来る事があれば致します。
今は難しい状況です。
今、住んでいる所は大家さんも近所の方も良い人で、会えば挨拶するお付き合いです。動物を大切に作る皆さん達です。たまに、ゴミの出し方を間違える人もいますが、詰め直して捨てています。
特になし
独居の方への声かけ
緩い、あまり縛りの無い自治活動が必要だと思います。
現在は自治会の役員として、10月15日に防災説明会を実施しました。関東大震災100年自治会防災強化助成の申請をして決定通知を頂き、防災用品等30万円相当を自治会の役員に届ける事が出来ました。
高齢者の体力維持のため散歩・ウォーキングをもっとしたいが近隣で散歩したいと思えるところがない。川浴いなら毎日でもウォーキングしたくなるが、車や自転車置場がなくそこ(川浴い)まで遠くて実行できないので、せめて自転車をとめられるスペースがほしい。
今回のアンケートをきっかけに、市の取り組みや市民としてどうあるべきかを考えさせられました。もう少し勉強して、協力できることを考えたい。
周囲では、現代的貧富の差が存在しているのでは？と感じています。日々の接点が生まれたい要因ではないかと感じる。おまつり、お祝い、などの交流を促す事は、新しい街では大事だと感じています
市政に対する提案・意見・苦情等に速やかに対応できる統括部所の設置。
地域団体への加入・参加。
わくわくの教室が市の事務所になってしまい、運動する場所がなく困っています。また市民に使わせてください。どうぞ宜しくお願い申し上げます。
生活道路の街灯をもっと明るくしてほしい。
町の美化、ゴミをすてない、近所の人に必ずあいさつをする。マナーを守る。
デジタル化が進み、なかなかついていけません。もっと自由に参加できる高齢者向けの講習会、勉強会を増やしてほしい。
公立保育園を存続してより質の高い保育を市民に提供し、子供たちのより豊かな発達を図るべき。保育は公的責任を伴うもので、現在の市の姿勢は無責任であり、子育て世代はこの市には住まないでしょう。高齢化した世代には、より身近に公共交通が使えることが生活の為に健康の為に必要不可欠。他市では当たり前のコミュニティバスを実現されたい。
道路工事による住環境の悪化。
引っ越し後、初めてこちらのお祭りを拝見し、老いも若きも一体となつての力強い演技にとっても感動しました。心身の健康や、人とのふれあいを深めるため、街の活性化のためにも、より発展させてほしいと思いました。(イベントの回数も期待しています。)(広場、公園に望むこと)簡単な健康器具を設置してほしい。(中国参考)太極拳を行ってほしい。普段も人が集まるように有効活用してほしいと思います。若い人対象のイベントも提供してほしい。(ひきこもり、パートナー探し対策。)
今まで東久留米駅前にパン、とんかつ、寿司屋さんがあったのに、全部なくなり、ラーメン屋だけになり寂しい駅前になってしまい活気がない。行列してでも買ったり食べたりするようなお店が1軒もないので皆が来なくなるような町作りをしてほしい。
小山地域に住んでいますが、街灯が少なく夜が危ない。公立の保育施設が消えていく事にとっても不安を感じます。黒目川に大きな橋をかけるなど、自然が破壊されることに不安を感じます。

自治会に入会し地域活動などに参加してきたが、年齢と共に負担を感じるようになってきた。義務的にならずに参加できるようになると良い。
防犯カメラ設置。消火器の設置。カーブミラー設置。
住宅周辺の清掃活動。かけこみハウス登録済み。
自治会、所属するスポーツ団体等での活動を通じて、地域社会のために取り組みたい。
道路のゴミ拾い。
私の住むあたりは激しい雨の際、30cm くらい水が溜まることありましたが道路と下水を市が修正して以来、ほぼ水が出なくなり助かっています。ですが先日の豪雨の際数年ぶりに水が溜まり、側溝のふたを少しずらし、水位を下げました。本来は市に願うのが正しいことは知っていますが、ほんの 2cm 位ずらすだけで十分に改善します。この程度のことは、できますし、やっていくつもりです。
地域の人に高齢者を一人で介護している方がいます。自分自身も医者に通いながら先の不安をかかえています。一緒に兄弟が住んでいても介護はしてくれないようです。独身だから当然と言われ毎日つらそうです。どこに相談に行けば良いか分からず兄弟に知られたら怖いと言っています。相続の事もあるので大事にするなど言われてる様です。誰もが明るい生活ができることを望んでいます。是非相談口があるなら教えて欲しい。(介護認定を兄弟が受けさせてくれない様です)
自治会の活動には極力参加する。
学校の落ち葉が酷い。自治体で何とかして欲しい。
地域福祉について考えた事がありません。日常生活で感じる事は、横断歩道の設定が暗くなると、段差で高齢者は転倒の危険性があると思う箇所がある事。歩道の自転車走行が危険と感じる事。
協力できる事があればやりたいと思います。
ゴミ問題、最低限ゴミの減少に努めます。
特にありません
くるぶーについて、利用したいがなかなか予約が取れません。現在、私は骨折していて病院へ通うのが困難です。運転手さんが少ないのと台数が少ないらしい。柳窪 4 丁目に住んでいるがバス停まで遠い。年寄りには暮らしにくいのかな?
以前約五年前になりますが 94 歳のお一人で暮らしているご婦人とお付き合いをしまして私たち夫婦でいろいろとお世話をさせていただいていましたが、2 年前突然私の妻がその方の家に入り物を盗んだと近所中に言いふらしてしましまして大変びっくりしましてすごく怖い思いをしました。結局その方は認知症だったんですが、それ以来とても怖くてお付き合いをしていません。こう言う時何処に相談すればいいのでしょうか。
自治会活動への参加者が多くなることを願う。
学校の PTA 活動が長年、前年からの慣習行事を踏しゅうして来た為、共働き家庭がふえて行事の役員の引受手が無くなった。その為、改善策として、行事の中身を精査して、集まった人数で出来る行事のみ残すという方法になったそうです。高齢化で役員の引受手が無くなりつつある自治会活動も PTA 活動の改善策に習ったらどうでしょうか。
毎朝自宅周辺の道路の掃除はこれからも続けたいと思っています。自宅前が小学生の学校への通路になっているので出来る限り見守りを続けるようにしています。
黒目川の土手を散歩する 1 人として、桑の木が大きく育ち、とてもうっそうとしています。桑の木伐採してほしいと思います。見とおしが悪くて、先が見にくいです。一日も早く伐採お願いします。
祝日に届けなければいけないことがあると、どこに行けばいいのかあまりわからない。広報に詳しく書いていればいいけど、分かりづらいので、誰が見ても分かるようにお願いします。これから高齢の者ももっと増加すると思うので。
隣人との関係ですが、ゴミ屋敷までもいきませんが色々な物を置いて物を捨てる事をしない人です。夏になると蚊も発生するし、とても嫌な気持ちでいます。隣なのでケンカしたくないので我慢をしています。
ゴミ拾い、樹木伐採。
仁・思いやりの心。周囲と力を合わせて、助け合う事が出来る。
東久留米市は道路が狭く曲がりくねっていて、歩道がない。道路整備をよくしてほしい。
勤めていますので昼間は殆ど家に居ませんが、ゴミの回収等良くして頂いているので、家の周りがきれいなのが有難いです。
車椅子、ベビーカーなどを押していると段差やでこぼこ道がとても多いことに気付かされます。少しずつでも道路の整備をすすめていってもらえたらと思います。(長女代筆)
検討したい。
各種ボランティア活動。
スマートフォンの使い方等々を教えて下さる所があると嬉しいです。自分はまだ使用出来ないの何か所かあると助かります。是非、お願いしたい。
スポーツの推進をスポーツセンター、わくわく体育館で行っていますが、卓球台 1~2 台を各地域センター、地区センターに設置すれば更にスポーツが身近なものになると思う。(卓球台は常設ではなく既設会議室等を指定時間に使用する。)
住んでいて不便な事。道路の設備、道に出た木の枝払い、空き家の多くなって来た町の安全性など、自分たちで協力して出来る事はしたいと生活していています。

4～5年前までは青少年育成活動に参加してきましたが、現在はしていません。
高齢につき、あまりお役に立てず申し訳なく思っております。安心安全に暮らしてゆく街づくりに今後とも尽力していただきますようお願いいたします。
車イスがスムーズに渡れる様に車道と歩道の段差を極カスロープにしてほしい。
学校教育の中で、一人一人が大切にされる様に。先生方が目がゆきとどく様に、教育予算を増やして、一クラスの人数を少なくするか、生活指導の先生を多くするか、非行に走る前に、小さい頃から十分な学力をつけて大切にされる教育を願いたい。
手伝いをしたい気持ちはあるが…年齢的に難しい？
公園の清掃を地域で、協力してできたらいいと思います。
人間教育をして下さい。1、エレベーターで顔を合わせたら挨拶をしようとか。2、マンションの管理人も明るく住民に接しようとか。3、お年寄りを大切にしようとか。4、宣伝カーを使用して、明るく住みよい東久留米市、人に優しい東久留米市等など、市内を廻りながら声をかけ、市民の気持ちを明るくしてください。5、最後に個人病院の先生方。患者や病人の気持ちをもっと聞いて下さい。（えらそうに返事もしない医者が多い）医者が優しくない！東久留米市最高と言える人気のある町づくりを真剣にやってください。本気でやってください。
近所で必要とする方がいれば手を差し出したい。
公園を近くに多く作ってもらいたい。一方通行を交互に作れば良いと思う。
散歩していると庭木の枝葉が道路にはみ出している光景に出会う。市役所職員や警察官（？）等が注意して改善されれば気持ち良い。となり近所なら直接注意、要求すると今後やりづらくなるだろうから。なお、黒目川沿いの遊歩道はありがたいが、トイレを設置してほしいところである。
わかりません。病院通院が忙しいです。ゴメンナサイ。84才なので出来る事はありません。
高齢になりどうしても閉じこもりがちです。楽しく集える場所があったらいいと思います。
高齢者の為他の人に迷惑かけない様に努力しているだけです。
交通の便を良くしてもらいたい。シャトルバスを作してほしい。（通して。）
現在十分満足しております。
カラオケ教室を24年間続けて時々発表会等を行っています。コロナで4年間できませんでした。今年は10月30日月曜日に東部地域センター借りて発表会をすることが出来ました。残金を社会福祉協議会に寄付しました。全額は13827円です。
1、ひきこもりの人等への専門的知見や指導力をもった人の訪問体制の確立。2、孤独死防止の体制づくり。3、マロニエ通りなどの緑化、花いっぱい化への取り組み。4、図書館など文化施設や集会施設の充実、拡充。
道路の手入れはあまり良くないですね。公園も手入れもあまり良くないです。
落合川近くに住んでいて環境の良い場所で満足している。高台のため、散歩コースとして最適なのに、途中休憩所がない。ベンチやいすが欲しい。（要望したが、無理とことわられた）実現を要望。コミバスを運行してほしい。バス停に待っているときに椅子が欲しい。高齢者や身障者等の願いをぜひかなえてほしい。
私は現在89才です。聴力障害（6級）者です。今は出来るかぎり自分で生活を進めていく事を実行して、他の人達のカぞえが出来る事はお手伝いするようにしています。
お互いに声掛け合う気配りと、朝夕の挨拶を交わし合う努力を持ちたい。
高齢のため知識が乏しいので、回答が難しい。
問16でも書きましたが、各地域の広場などで天気の良い日にはラジオ体操をすれば積極的に参加します。近所の人と親しく会話をするきっかけにもなるかもしれません。太極拳をやっているグループを見かけますが、良い事だと思います。
コロナ前、少しの間ボランティア（老人ホーム）をした時、新住民の身で出しゃばりと言われた。今は何もしていません。
私、87才ですので自分のことでいっぱいです。今迄に出来ることは色々させて頂きました。今は踊りだけで楽しんでおります。
今は就業中で時間の制限があるが近い将来は高齢者向けの自分の出来るヘルプをしたい。又、子育てに関しても協力したい。
川沿いなどのゴミ拾い。地域でイベントとして行っても良いと思います。
私の家は急坂の途中なので、とにかく1日でも早く広くしてもらいたい。孫達がベビーカー、自転車では危険で遊びにも来れない。私自身も外に出るのは不便です。この道を出る為、ストレスを感じます。
クラブについて。県境近くでは生活環境は県境を超える生活が多くあります。生活が都外となり、いろいろ制約がありすぎる。
1.事件、非行のない地域（未然防止）。2.小中学校の教育の質の向上。昔はあったものがどんどん省略されている。運動会の種目や校庭での放課後遊び禁止等々。

問35 最後に、市の地域福祉を進める取組について、ご意見・ご提案がありましたら、ご自由にご記入ください。また、問33以前の回答の具体的な理由があればご記入ください。（自由記述）

※「問8 あなたは、お住まいの地域で今後も生活していきたいと思いませんか。」の理由を含む

高齢化社会も大きな問題だとは思いますが、これからの未来を担っていく子供たちや今の若者にもっと目を向けていただけると嬉しいです。経済的に貧困とまではいかなくとも、少しの贅沢もできない生活を送っている人は結構いるのではないかと感じます。私自身一人暮らしをしたくても今の収入では難しく、諦めて実家暮らしをしています。また子育てしやすい福祉支援が充実したらもっと人口も増えて、東久留米の魅力がさらに素敵なものになるのではと思っています。人と人のつながりも増やしやすいのではないのでしょうか。また、福祉ではなく街づくりかと思いますが、先日行っていたようなPayPayの還元などはとてもありがたい素敵な企画だったと思いました。今後もこういった取り組みをしていただけると嬉しいです。
町に街灯を増やす。市内の祭りを増やす。活性化等。
少子高齢化が進んでいる現状で、地域福祉を進める事よりも、子育て世帯にもっと手厚くサポートして欲しいと強く思います。
どれだけ若者の意見を聞けるか、取り入れられるか、是非お試し下さい。老人ばかりの場所で老人たちの意見を聞き取り入れるのなんて簡単でしょう。自戒の念も込めて酷評ですが、いずれにせよ、応援しています。
せっかくの富士山に見えるテラスを壊すのですか？もったいない。東久留米には名物がありません。お金がないのならクラウドファンディングすれば良いのに！補強する頭はないのですかね？市長に言ってください。じゅん散歩来ませんよ！
近所の方が車イスを理由に「くるぶー」をことわられたそうです。タクシーを呼んでも（人手不足）つかまらず大変困っているそうです。そのような方が利用するための車だと思っていたのですが違うのでしょうか、色々な事情の方がいると思います、より多くの方が利用できるものになるといいのではないのでしょうか。
保育園を潰して欲しくない。
バスの本数も減ってしまいましたね。にいバスみたいなはないですか？
ゴミ袋がいくらなんでも高すぎる。
毎月第二土曜日開催のスポーツデイに都合が合えば参加しています。これからも開催を続けてほしいです。
車屋さんばかりで遊べるお店が少ない。犬と入店可能な飲食店や商業施設があればバンバン経済回します。
自分から探しに行くほどの能動的な関心はないが、たまたま目にしたら興味を持つような受動的な関心はあるので、積極的に情報を出して欲しいです。
地域福祉の事ではないですが、市内のお年寄りの態度が悪いことがよく見受けられます。口が悪かったりして、時々嫌な思いをすることがあります。このような感じだと、若い人たちが市から離れていくでしょう。
東久留米市は東京都の中で子育て支援がワースト1位である事をニュースで知りました。持ち家の為支援が充実した所に引越す事は難しいですが、子育てがしづらい街なのだと知ってからは愛着もありません。
一人暮らしだと全然近所の人やまして若い人たちとの交流がありません。地域で支え合いができるよう、若い人同士の交流、若い人と高齢の方々との交流など、何か楽しい企画をしてくれませんか。市役所1階のテーブルとイスのあるスペース、読書をするのに活用しています。居心地が良くて助かります。より良くなるよう頑張ってください。お疲れさまです。
浅間町住民の生活圏はひばりヶ丘駅周辺で西東京市も含まれます。保育園、小学校、中学校に通う場合、東久留米市の学区だだと遠いお家もありますので、西東京市に通う選択もできると良いと思います。ひばりヶ丘駅～浅間町3丁目間の踏切が「開かずの踏切」状態で、朝・夕長蛇の列ができています。踏切周辺の道路まで車が詰まり、交通に支障があります。東久留米市としても改善に介入して頂きたいと思います。
将来、子育てを考えています。何かそのような情報がSNSやインターネットを介してあれば知りたいです。
●●小学校の前にある住居（会社かもしれません）の資材か廃棄物がとても多く、気になっています。特に小学校のすぐ近くのため治安が悪いような気がしてしまい、気になっています。何とかならないでしょうか…。
高齢者のいる家庭へのケアマネ、介護の説明をもっと詳しく市報などに載せて欲しい。近くに住んでいても援助や介護をどうしているのかわからなかったりする。
1.西東京市寄りの場所に住んでいるので、東久留米市プレミアム付き商品券等のサービスが受けづらい。2.公園の草や枝が伸び放題で困っている。
1.保育園の希望を出す際に、6ヶ所しか記入が出来なかった。入れる空きが全然無い状況でその少数しか空きを待つ事が出来ず、そこで希望を出していない園でたまたま空きが出た場合には入所出来ない。これはどこの園を選ぶかの運にも左右されてしまうと思うので良くない。通う事が可能な園は全てに希望を出して、空き待ちが出来るようにして欲しい。以前住んでいた自治体はそうでした。2.保育園の昼食代で、3歳以上は有料だがこれも無料にして欲しい。毎月の負担なので大きいと感じます。3.駅までの道が分断されている箇所が多くて、直線距離より大回り道をしなければならないので、通勤時間が長くなり毎回の負担になっている。町の魅力度が下がっていると思う。4.ゴミ袋の金額が高く感じる。生活必需品なので、無料配布もしくは割引等、負担を軽減して欲しい。5.東久留米駅とひばりが丘駅までの車でのアクセスが悪過ぎる。道の整備が必要。
市内での行事がいつあるのかがわからない。友人づてなどでわかることが多く、SNSで発信を増やしてほしい。

<p>私はゆとり世代。わたしより若い世代とは親和性があっても、年が上の世代とは生きる時代がちがすぎて全く話が合いません。とにかく何にしてもそうですが上の世代は私たちのジェンダーのこと、生活のこと、仕事のこと、デジタルのこと、結婚や出産のあり方などなど、あらゆることに理解がなく、理解できないと言って理解しようとすらしません。そんな人たちと交流したいと思わないです。命の危険があれば助けることはやぶさかではないですが、理解のなさから無自覚に差別され、ハラスメント行為の被害にあうのはもううんざりです。なので交流は望んでおりません。</p>
<p>家を買ったので今後も暮らしていくが、交通空白地帯でとっても不便なので、お金等あれば転居したい。</p>
<p>何も思いつかない。</p>
<p>未就学児がいるのですが、遊具のある公園が少ないと感じます。(アスレチック系の複合遊具など) 六仙公園も大きいだけで勿体無い気がします。結局市外の公園に行くことが多く、遊具を増やす検討をお願いします。</p>
<p>子育て中な為、子育て支援に力を入れてほしいです。学童期の子ども達か思い切り遊べる場所が少な過ぎます。六仙公園や児童館など力を入れているのかもしれませんが、遠いので子どもだけで安心して行かせられません。地域が小山なので子どもが1人でも安心して行ける距離に、ボールなどで遊べる場所がありません。長年住んでいますが、まだまだ高齢者の町のままだと思います。その為か、スポーツクラブチームも東久留米は強豪チームはありません。どこもトントンです。寂しいです。委託式や料金制が良いので、沢山遊べる放課後の学校の校庭解放や、新座市のココフレンドのような居場所作りを充実させていただきたいです。学童も4年生になったら退所しなくてはいけない為、長期休み期間の子どもの居場所もないです。東久留米を活気づけたいのであれば、子育て世代に住みたいと思われる町づくりだと思います。放課後子ども教室やにこにこフェスタなど、学校で行われる活動はとても良いと思うので、増やしていただけたらと思います。</p>
<p>公園の整備、運営について民間企業や市民を巻き込んだ取組みを期待します。自治体だけではこの先の運営がかなり厳しいと思うので今の段階から仕組み作りを検討いただきたいです。道路整備について、早急に検討をお願いしたいです。とくに東久留米市道230号は、車通りも多くトラックなどの大型車も通りますが、道路幅が狭く歩行者用の道路が隔離されていません。歩行者、自転車の通行量も多いため非常に危険です。保育園もある通りなので検討いただきたいです。市での起業支援やサポート制度などはあるのでしょうか？チェーン店ではなく東久留米市独自の店舗や施設づくりをしていくと愛着も高まると思うので市民の方々から起業し市に還元していけるような起業支援があると良いなあと思いました。</p>
<p>もう少し近所に遊具付きの公園があると嬉しいです。市の端の方に住んでいるため、周辺の市町村と協力した取り組みが多くあると助かります。</p>
<p>分かりやすく情報を提供してほしい、見る、読む、より聞くほうが分かりやすく、興味があると思う。マイノリティの方や家族も意見を聞いて住みやすい、利用しやすい市にしたい。</p>
<p>東京都家電支援(5万円)などの支援があったにも関わらず、東久留米市は行っていなかったため、子育て世帯としては他の市町村に移ることも考えてしまう。また、他の市町村に比べて、支援が少ないと思う。予算の兼ね合いもあるのわかるが、東京都が予算を出しているものについては、しっかりと行ってほしい。(東京都家電支援など)</p>
<p>コミュニティバスが欲しい。デマンド型では前日予約や、土日に使えないなど不十分と感じる。</p>
<p>障害者手帳は取得していませんが、発達障害の小学生の子供がいます。将来について不安になる時があります。そんな親同士で交流が図れる場があると情報交換もできたりして良いと思うので検討をお願いします。</p>
<p>どうしてこのアンケートが私に来たのか、本当にランダムなら無駄だと思いました。広報誌でちらっと見ることはあっても関係がなく、もし親が認知症になったら、もし周りでこのようなことで困っていきそうな人がいたら教えられるのかな…と思う事もありますが、こんな深刻なことはなかなか他人が口出しできることと思いません。これを見て少しでも困っている人が取り組みを知ってくればという事なのではないでしょうか…。病院の通院記録やそれこそ学校を通じて困っていきそうな方々へピンポイントで送られた方が良いのでは…と思ってしまいました。でも引越してきて先でいざという時、相談できることは知れてよかったです。</p>
<p>福祉活動に関係があるかは分かりませんが、子供に関わる事(給食費や教材費、18歳までの医療費)を親の所得に関係なく無料にして欲しい。うちは共働き家庭ですが、収入面が一番の悩みです。第8ブロック地域にも子供食堂や気軽にご飯が食べれる場所があれば、子供たちや地域も明るくなると思います。「子育てに手厚い」東久留米市であって欲しいです。※中学校の全教室にエアコンを付けて欲しい。</p>
<p>子供が放課後、小学校の校庭でのびのびとボール遊びや外遊びが出来る環境を作って欲しい！ゲームで遊ぶ事よりも外遊びが自由に出来る場所が少ない。</p>
<p>町内会がほぼ活動していない状態だと思います。特定のお宅の方しか知りません。自分が子供の頃と比べると、顔見知りだったり、挨拶や会話ができたりする近所の人が少ないと不安です。何かあったときに地域のつながりが無いと困るんじゃないかと思っています。地域清掃くらいあってもよいのではと思います。</p>
<p>どんなお仕事でもリスペクトしています。それぞれの仕事の内容や、何をしているかをずっと周りの人に知ってもらい、将来の自分も含め、先の事を考えるのが大事だと思っています。私は広報誌は毎回必ず目を通していますが、やはりこういうのを見ていない人も多いんじゃないかと思っています。SNSや動画サイト等で発信しても、ネット関連は自分から見に行くんじゃないかと思いません、例えば動画サイト等で途中で入るCMみたいに強制的に目に入る物があると良いのかなと思いました。何かで知るキッカケになれば良いなと思いました。駅の改札前等で活動のPRとか。先日あった市民祭りの様なところでゲーム感覚で知る様に等、活動や何故そうした方が良いかをクイズ方式で解いてもらって参加賞にお菓子や何かを渡す、子供が来ても親が付き添っていけば一緒に目にする事は出来る。</p>

<p>問 33 に関し、具体的なイメージがわからなかった。犯罪者に対し、市として支援を行う必要があるとは思わないが、犯罪のための教育の充実で犯罪を防ぐのは有効だと思う。</p>
<p>東久留米市は、地域福祉が充実していないと思います。小学校と連携して、子供たちの居場所をつくる、児童館が様々な地域で利用できる。子供にやさしい町づくりを望みます。また、アンケートでは答えを誘導するようなものが多く、回答者の本当の意見が反映されない仕組みになっています。また、いろいろな資料を見かけますが、都合のいい資料ばかりのため、もう少ししっかりとした資料で十一も把握でき、その上で納得できるように周知してください。道路の件では、電柱があれば倒れるなら、今すぐ改善しないと災害時に避難できません。横の部署で連携していい町づくりをお願いします</p>
<p>1. 全体的に街灯の数が少ないと思う。2. 道路状況があまり良くない。歩行者と車道をガードレール等で分けて欲しい。</p>
<p>野球などのボール遊びができる公園を増やしてほしい。</p>
<p>防災放送が屋外においても音が反響してしまい、聞き取れないため、震災等が起きた時に利用できる代わりの手段について、市の広報誌などで情報提供していただきたいです。</p>
<p>地域福祉に直接関係ないですが、中学校は全ての学校で給食にした方が良いと思います。お弁当では家庭毎の差が見えてしまい、子供達にも良い事が無いと思います。</p>
<p>低所得者や非課税世帯に甘すぎる。やたら現金給付したり手厚く支援したり、勝手に引かれる税金を勝手に使いすぎ。だから不正受給をしている人が多々いる。母子家庭も含め、本当に所得が低いのか、本当に働いていないのかを調べて無さすぎてただのばら撒きになっている。自営業の知り合いの元で働いたり、スナックなどで働いたら収入なんていくらでも誤魔化せるんだし、人様から支払われた税金なのだからしっかり徹底して調べて貰わないと困る。</p>
<p>問 8 について、同じ建物内に住む方で、偏見・差別的な事を言うてくる人がいる為。相手にしない様に生活しているが、親子で嫌がらせと受け取れる事をしてくるので怖い。小さな子がいる為、危険な目に合わない様にごそごそ生活している。海外に住む高齢の義父に医療費を送る為に家賃を削って引越して来たばかり（2 年未満）だけれど、希望条件に合う安全な住居が見つからず引越せていない。防犯面で安心できる、生活苦にならない住居を増やして欲しい。また、日々、思う事は有りますが、いざこざという形で意見を言えるチャンスが来ると、思うように伝える事が出来なくてもどかしいです。期日があるので考えがまとまらない状態で書いてしまって申し訳ないです。もっとじっくり取り組みたかったのですが、このような機会を頂けて感謝しています。もっとこういうアンケートや参加型の会議みたいな物があるといいと思います。定期的で市民の意見を出し合う会みたいなものが、このご時世なので、オンラインとかだと有難いです。高齢者（過ぎると負担掛けちゃうので、50~60 代くらい）の方とかにグループで子供の面倒を見てもらえたり、若いパパママ世代が年配の方の手伝いとか、普段困っている事（スマホとか）を教えてあげたり出来る様な関わりがあるといいなと思う事がある。平日限定だと正直、一部のしか対象じゃないので意味が無いと感じます。子育て中心に考えてしまいましたが、家庭環境が違っていると関わらない事が多いので、お互いに環境が違って集える場所があるといいなと思いました。全世代で一つのテーマを考える企画をして欲しいです。ロケ地以外に使ったりされているのでしょうか？下里小とか余っている施設を有効活用して欲しいです。他の人や違う環境の方の意見を聞きたいです。アンケート結果とかも公表するなら、見やすくして欲しいです。オンラインとか色々な方法で。</p>
<p>緑が多く自然のなかで暮らしたい、東久留米は木々が多く癒やされると引越した。しかし道路を作るため木々がどんどん伐採され緑が破壊された。直射日光はキツく木陰もなくなった。道路も熱され余計に暑い。伐採のせいで高齢者や子供が熱射の中バス待ちをしており気の毒。何十年も前に計画された道路よりも、今の時代、今の地域に合わせた計画が必要。人口減少の中誰が走るのだろうか。せっかくの東久留米ならではの自然、湧水大切にすれば。木は簡単に育たない。ダイオキシンの降りかかる東久留米市を木々がほんの少しでも酸素を作っていたのに。大気汚染被っているのに市民のメリットは無い。</p> <p>地域福祉については、東久留米市行政の力は少し弱いと感じる。生きづらさの人や高齢者に対して手薄に感じる。高齢者に関しては民間介護事業者に甘えている。甘えるならある程度の責任を負うなど事業者が活動しやすい体制を提供すべき。包括も何をしてるのかわからない。連携強化し活かして幅広く支援すべき。行政の発信も少なく弱い。なんとなく東久留米市の行政はうちに籠もっている。外へ出ていくことを拒んでいるように見受けられる。</p> <p>また、経済的弱者に対して柔軟に対応して欲しい。障害者や病気の人に役所に来いというのは非道。東久留米市役所の福祉窓口は何度か行ったが、福祉を担当する職員の資質にとっても不安を感じる。なんの資格も経験もない人が対応してるのではと思う。市民のプライバシーは頭がない様子。民間はきちんとしてます。住みやすい街かと思って引越してきたが、環境破壊含めどんどん住みにくくなってきた。若い世帯子育て世帯を取り入れたいなら、ゆりかごから墓場まで対応できる行政、地域福祉を目指して下さい。市民が安心し安全に生活を送れているか、市民の顔をきちんと見てみて下さい。出来ない事ではなくどうすれば出来るようになるか、現状に甘んじず消滅都市にならないよう努力してください。民間ではなく行政です。行政にしか出来ないことたくさんあります。</p>
<p>コミュニティバスはやはり必要だと思います。（私はまだ自分で移動手段があるので使いませんが）路線バスは大通りのみで坂の多い地域にはなかなか来てくれません。自分で移動することが困難な人にはとても重要な交通手段です。イオンバスやくるぶー（利用者が限定されすぎ、予約制で料金も路線バスより高い）だけでは不十分です。</p>

<p>東久留米に来て1年になります。以前は埼玉県に住んでいました。医療も恵まれていますし、市役所の方々はとても親切でいつも感謝しています。ただやはり私の住んでいる地域は高齢者ばかりで住宅も密集していて、住みづらいというかゆううつになります。いずれは埼玉に戻りたいと思います。義母の介護の際はとても親身になって頂き素晴らしいですが、高齢の親のことを大したくないことを相談していかとまどってしまいます。私の感覚ですが、子供へは色々免除などありますが、高齢者へは少ないと感じます。中間層の収入の老人には保険など厳しいのが現実です。</p>
<p>地域包括支援センターに実習で伺った時に、仕事量に対してスタッフ数が少ないと思いました。予算もあると思いますが、サービスを充実させるためにも余裕のあるスタッフ数がそろえられればいいなと思いました。</p>
<p>上の原地区の国有地の活用、未着手。公務員住宅の廃棄、整地、未着手による地域の不活性。治安の悪化を改善してほしい。URの土地内で野良猫へのエサやりする人への黙認を対処してほしい。市内指定ごみ分別袋の値段が高すぎる。ごみ回収の取り忘れなどムラがある。分別がわずかに至らないだけで、回収してくれない。共同住宅と戸建住宅のゴミ回収が不平等。(複数声あり)。私道の排水設備の補助。ゲリラ雨の度に家前が川になる。</p>
<p>日曜休みの人が多いのに、役所が日曜休みはおかしいと思います。平日に休んでください。</p>
<p>問21 付問 市/教育委員会/地域に渡る役会により、学校PTAだけで解決出来ず、困っている為。</p>
<p>老朽建築物のそばを通る度に、危険で不安を感じます。災害時には倒壊するのが必至であり、地域住民の福祉にも弊害になる為、地域福祉・防災・町づくりの部署が連携を取り、早急な対応をお願い致します。</p>
<p>東久留米市は、私自身は特段なじみのある市ではありませんでしたが、とあることから、長年住み続けることになった町です。当初は、物凄く郊外の都市かと思っていたのですが、いやいや、池袋まで、30分もかからず行けたり、何にせよどこに行くにでも、1時間以内でいける、極めて利便性の良い街、ということが、程なくして、分かりました。にも関わらず、自然が豊かで、そこまで人口密度も高くないうえ、地価もそこそこに抑えられている等、まだまだ、知られていない魅力ある都市です。唯一言うとすれば、中学の給食ナシ、公立保育園ゼロ、これは、経験したことがありませんし、検討すべき重要課題であると感じます。</p>
<p>今はやってあげたい気持ちがあっても生活して家族を食べさせて、贅沢せずに普通に生活するだけで大変で人をサポートする事に時間を使えないのが現状。不景気でお金がない→気持ちに余裕ない、貯金すらできない→人に興味すらないから手だすけしないの悪循環が良くないと思う。「心によゆうをもち、楽しく暮らせる町」にしてほしいです。※自分に余裕がうまれると人にやさしくなれる。そして手をかせる!</p>
<p>福祉人材の育成や積極的な活用を期待します。</p>
<p>現役世帯の負担を軽減する等の取り組みをお願いします。金銭面は国の制度に左右されるのは分かりますが、暮らしの不安の相談窓口、子育ての援助をしてくれるNPO等の機関への支援、子供が直ぐに駆け込める場所の設置等です。返礼品付きのふるさと納税のメニューにするとか、近隣の西東京市・清瀬市、そして西武鉄道等にも協力関係を結ぶ等の広い範囲で取り組みれば、負担も少ないかと思います。</p>
<p>先日は市民祭りが出来て良かったと思います。圧倒的にファミリーが多かったですが、こんなに若い世代が居ると驚きました。高齢者が多いイメージがあるので。</p>
<p>支援や介護の認定を受けていない高齢者にも参加出来るようなデイサービスの様な場所があるといい。あったとしてもそれを知らない人が多いのではないかと思います。</p>
<p>市役所にて、いろいろ、相談したい事があるが、受付に近所の知人や子供の学校の保護者がいたりすると、複雑な事情を知られたくない為に相談が出来ず、結局、言えない事がある。受付や相談窓口・マイナンバー申請等は、市街の方だと有難い。</p>
<p>自身の老後の生活がとても心配。収入がなくなった時に年金もあてにできないので、気持ちよく、心豊かに生きていける自信がない。</p>
<p>色んな人が活動できる場所が欲しい。私が書画を書いているので市役所とかに飾れる所があれば飾りたいので、もっとそんな場所を増やして欲しい。空き家を画廊にしたり、ワークショップスペースにしたり、期間を切って、ハンドメイドショップをオープン出来たり、そういう施設や、子供が遊べたり体験出来る施設を作って欲しい。活気が無さすぎる。</p>
<p>私達の生活を助けてくれる市の部署(?)があるのは知っているようであまり知らず、いざその時に(困ったことが起きて)初めて知る事が多いです。自分も先日まで親の介護(要介護5)で初めて知る事ばかりでした。親が亡くなった後もそうですが、本当にいろいろな手続きに苦労します。あちこち回らなければならない。書類の申請など、統括サービスがあると助かるのですが…。</p>
<p>小、中学校、水泳指導及びプール管理の根本的見直し。11ヶ月程使わない維持費のかかる施設、授業内容と時数、生徒の成長、効果が合わない。乱筆失礼いたしました。</p>
<p>問7 結婚で東久留米市に移り、自然豊かで治安もよく、暮らしやすい。</p>
<p>問8 都心にもアクセスが良くバスも多い。</p>
<p>問35 ゴミ屋敷が二軒、空き家二軒が近所にあります。テレビでも問題になっていますが、なかなか難しい問題ですが、火事放火いたずら心配です。</p>
<p>特にありません。</p>
<p>市の地域福祉を進める取組が何を対応しているかわからないため、意見も提案も特にない</p>
<p>市を走る定期バスがあると便利だと思う。</p>

<p>地域福祉に関係あるか分かりませんが… 私の幼少期は友達の家で TV ゲームをしながら何人かで集まってワイワイ遊んだ記憶があります。もちろん運動場や公園でも遊びましたが 仲良くなるきっかけがゲームだったので、今の時代でもゲーム機等も買えない家庭があるかもしれないので、例えば、地域の協力してくれる高齢者(独り身)の家に実験的に据え置きゲーム機を無償で貸出で、地域の人に無償で利用できることを宣伝してみたりして、地域の子供達の遊び場になったり、高齢者には子供たちと接して身の安全確認にもなったりと…安易な提案ですみませんが、こういった地域の繋がりも大事だと感じました。</p>
<p>問2 現在、あなたの世帯の構成は、次のどれにあたりますか。 ↓ 8 上記以外 ↓ 母と私と妹と甥との 4 人暮らしです。</p>
<p>でも結局「金」になってしまふ。「時間」「経済」「心」に余裕がないと自分優先になってしまう世の中。皮肉なことに、「金」がある程度の解決策になってしまう。金に変わる何か？を見つけれたら…。</p>
<p>昭和の時代に物価を戻して欲しいです。</p>
<p>20 年以上前に引っ越してきました。驚くほどの村社会を感じました。今もあまり変わってません。妬み、やっかみとしか考えられない嫌がらせを徒党を組んで集団住宅の閉鎖の中でされました。全体的に老人の態度や意地の悪さを感じます。車のマナーはひどく悪く、自転車、歩行者もです。また、駅前には交番があるにもかかわらず、他の場所でも(事故の多い)交通パトロールをいっさいしていないと言いたくなるほど怠慢です。もう、かなり県外からも人が流れ、外国人も増えた状況をもって警察署を作るべきなのではと思います。私は一刻も早くこんな陰湿な市から脱出します。争いの元にもなった「道路族禁止法」を作ってください。子どもを甘やかすのは為にならない結果がたくさん。</p>
<p>東久留米市に引っ越してきて思ったのは、公園や道にゴミのポイ捨てが多い。公園や広場はもっと定期的にきれいに整備してほしい。落合川や黒目川沿いもゴミだらけで汚い。</p>
<p>知らない事が多く、子供支援等の広報の充実を期待しています。見えない所に辛い思いをしている子供達がいると思うので。</p>
<p>市の施設は家から遠いので、利用しづらい。</p>
<p>実際に問題が起こってないので今のところ意見はないですが自分たちが高齢になった時や病気になった時に暮らしやすいように福祉の方を進めて欲しい。</p>
<p>親の介護と乳児の世話が重なり大変な思いをしたので、保育園審査の際は別居の親であっても就労とは別に介護の加点をしてあげて欲しいです。家族数名の介護に関しては市役所の方と地域包括センターの方には親身になって対応していただき大変感謝しております。</p>
<p>子どもも成人したので、ボランティア参加も良いなと思いはじめていますが、老人介護や障害者の福祉は自分には難しいので、実は多いグレーゾーンの方々のお役に立てればと思います。夫婦でいてもご主人の支配的な生活に苦しんでいる方もいるけど暴力がなければ助けられない、ワンオペ育児などは見つけにくいので、そういう方達が自分から声をあげられる場所、居場所が市内にあると良い。そういう方たちは交流も苦手だったりするので、カフェだったり、ふらっと立ち寄れる場所にパンフレットを置くとか、気づきをあたえてあげる場所が、普段から利用するところなどがいいと思います。保育園に入れなくても、学童に行かなくても、安心していれる場所、デイサービスに行くほどでもないけど交流はしたい、やりたいことがない方でも、おしゃべりしに來たりできる場所が老若男女問わずいろいろな年代の方々で助け合える場所があるといいなと思います。得意を生かすにはカテゴリーをわけすぎてもどうかな?とこれからは、「血のつながらない家族」で得意を生かして助け合う時代だと思えます。</p>
<p>買い物、病院に歩いて行かれない方々に、珍しくない悩みですが、市のバスが近所に通っているとありがたいです。年若い住むには不便なところでは。</p>
<p>近年、子供が直ぐ近くで遊べる様な公園が、新しい道路を作る為に閉鎖されたり、市民が安心して歩いて安らげる遊歩道が無くなったり、樹木が伐採される事になったりしてとても残念です。大きな公園を 1 箇所に作るのではなく、小さな子が気軽に直ぐ近くで安心して遊べる場を作って欲しいです。年配の方も遠くの公園には行けないので、年配の方にも優しい市になって欲しいです。</p>
<p>理由なき犯罪は再犯の可能性が高いと思います。はっきり言って社会復帰は不可能と考えます。</p>
<p>高齢者が増えて、孤立した人をつくらない。例えば、子ども食堂の高齢者向けのもの etc。こういった地域の現状は、学校でもとりあげて子どもたちにもアイデアを出してもらおうと良いのでは?と考えます。</p>
<p>道に落ちているゴミや吸い殻、ペットの糞などを清掃してくれる人を雇って欲しい。もしくは、もっと厳しく取り締まって欲しい。</p>
<p>地域福祉の取り組みが、家庭内や市役所内、施設内に閉じこもらず外に見える形で情報発信などが行われると良いなと思います。(そうするといざ自分が支援が必要になった時、支援を求めやすくなると思います。)駅前や市役所前などでの屋外イベント、取り組み紹介など行ってはいかがでしょうか。</p>
<p>福祉活動していらっしゃる方々や福祉を受けていらっしゃる方々の生き生きとした様子が多くの人に伝わり福祉についての理解が広まっていくような取り組みでしょうか。</p>
<p>自治会、PTA など任意的なものが 大変だとどんどん削られていきますが それらがあったからこそ ご近所との関わりが持っていたことも大きかったのに残念に思います。また災害の時等、こういったつながりが必要になるとも思うので 自治体としても是非安易な削減にならないような動きを作ってほしいと思います。</p>
<p>限られた財源の中で、最大限の効果を上げてくださるよう今まで以上に関係者の方には尽力頂ければと思います。</p>

<p>文章であげるの簡単であり、実際に支援活動にいたるまで長い時間を必要となっている。今必要って時に全く対応が遅い。市役所職員の対応は良くない印象が多い。対応している人以外後ろで座っている人は全く関心がない。仕事してるのかと思うくらいスタッフと話している。対応時の印象（第一）がつかない。また行きたいと思うことがなくなってきている。相談しづらい環境を市役所がつくっていると思うので、アンケートをとる必要があるのか。そもそもやっても、50年以上いるが良くなってない、悪くなる。</p>
<p>特にはなし</p>
<p>一人暮らしの人とか、年よりの一人暮らしの人、ケアマネがついていない人に、市の人が様子をたまに見に行ったり、安否確認の為に話に行ったりした方が良いと思います。私も実際に包括に電話した事があったのですが、「時間外」と言われて相談が出来ませんでした。私も仕事が忙しく、近所に一人暮らしのお年寄りの人がいて、夕方に電話したらそう言われました。活動したくても夕方から夜の時間は出来ないと思いました。</p>
<p>お年寄りが多いので、学生のボランティアを募れば興味のある子が沢山居ると思うので、沢山集まると思います。どのようなボランティアがあるのか、どうしたらボランティアが出来るのか、手段が分からない様子。学校のお便りに入れてくれたり、学校活動で軽く説明してもらえただけでも違うと思います。</p>
<p>定期的にキャッシュレス還元を行って頂けると助かるし、必要以上に買い物をするきっかけにもなると思います。</p>
<p>昔はよく物の貸し借りや大小の地域活動が行われ 近所の関わりも有りましたが、今はそういった事がなくても快適に暮らせる時代に。潜在的に困っている方を見つけにくい時代です。人助けはしたい気持ちはあれど一歩踏み込めないままです。そういった方のための踏み出すきっかけを作ってくれる事を願いますし、今回このような企画、アンケートもその役割を果たされていると思います。今後の活動に期待します。</p>
<p>高齢化が進み交通が不便な地域への支援。（例）氷川台地域への循環バス、出張マーケット等。</p>
<p>自治会の活発な地域に住んでおります。活動に参加する人は、限られていますが、参加できる時は参加し、顔見知りになるだけでも意味のある事だと思っております。</p>
<p>広報でもっとアピールしたほうが良いと思います。（高齢者のいる家に何をしたらいいのか。支援センターの使い方など）</p>
<p>つい先日、お隣の高齢者宅の庭の木の剪定をお手伝いしました。年金暮らしで剪定代金もつらいなとご自身でしておられましたが、梯子に乗っている様子が危ないと感じ、代わりに剪定しました。しかし、高いところまでは手が届きませんでした。シルバーの方が安心して利用（代金割引）できるシステムがあればいいのと思います。</p>
<p>日常的に気軽に声かけが出来る雰囲気が必要。</p>
<p>地域福祉と言えばかい話になりますが、隣同士の繋がりが殆ど無い世の中ではなかなか難しく、私達夫婦で自宅前とかでキッチンカーで小さな店を少しだけ市内で営業した事により、近所の方が来店され挨拶をしました。店をやらなければ近所の方が顔も存在も分からなかったのが、やって良かったのですが、カフェがある事で近所の方が集まれるならば、近所に住まれている方々の情報が耳に入って来ます。例えば、子供さんがいるとか、お年寄りがいらっしやるとか、悩みとか、喜びとか話の流れでキャッチ出来るかも知れないと思うのです。また、カフェがある事で気分転換になり、寂しさや孤独な人をフォロー出来るかも知れないのですよね。自殺しなくて良くなるかも知れないと思うのです。そんなカフェが東久留米市内にあちこちにあったらよいと思います。そのためにカフェを資金支援や応援して欲しいと思います。よろしくお願い致します。</p>
<p>浅間町は道路幅も狭く、道路面がガタガタしていてとても車イスでは生活出来そうもありません。駅前だけではなく、市内全域に税金を使って欲しい。</p>
<p>少子高齢化が進み、私のマンション居住者の平均年齢は60才を超えている。年金支給年齢も徐々に上がってきており、中小企業の定年退職60才の現状を鑑み、市政として就労支援を強力に進めて頂きたい。東久留米市も60才以上の市民が構成比としては高くなっていると存じます。この方々が就労する事で収支も上がり、より地域福祉にお金を掛けられると考えます。宜しくお願い申し上げます。</p>
<p>様々な支援活動等に助けられている方々を知っています。困難な状況にある方々の希望となっており、本当にありがたく感じています。</p>
<p>とにかく高齢者が多く、大変不安。家族が発達障害、自身も精神障害手帳所持、学生、生活習慣病など問題山積みで、ご近所のお世話は出来ない。ただ独居老人の方が気難しく頑固な方だと対応が難しく認知も進んでいる感じで心配になるが、何もできない。</p>
<p>高齢者宅を調べて、特に一人住まいの人があれば訪問等が必要であると思う。</p>
<p>福祉については、福祉を必要としたことがない人には、会議等の参加はしないでほしい。困ってない人は、事の重要性は理解できません。</p>
<p>私の両親が二人で近くに住んでいますが、年寄りでも車の運転をしないと生活出来なくて、免許の返納が出来ません。バス停も少し離れているので、出来るだけ私が乗せて行くのですが、耳も悪くなっているため心配です。</p>
<p>市の活性化につながる取り組みが必要。このままだと高齢化が進むばかり 市議会議員数を削ったり 市役所などスペースや施設を民間に開放して有効活用した方がいいと思う</p>
<p>財源が縮小していく中、メリハリをつけて必要などところに重点的に予算を配分すること、細分化している複数の制度や施策を統合してわかりやすく利用しやすくすることが肝要かと思います。</p>

<p>数年前に亡くなった家族の場合は、（障害があったということなど）身体に健康上の問題を抱えていたので、老健にずいぶん助けていただきました。一方、現在、認知症の家族がおりまして、認知症だけですと老健が受け入れてくれませんので、（もちろん、経済的などところを含めて）なかなか厳しく、やむを得ず、民間の介護施設にお世話になっております。民間でも良いのですが、その場合は、やはり経済的などところの支援がもっとあると助かるなあと感じます。</p>
<p>市報に記載されていると思いますが、もう少ししみやすくした方が地域福祉に目がいき、取り組みが入ってきやすい気がします。</p>
<p>市内テニスコートのトイレの改修。特に柳窪コートは入れない。</p>
<p>アンケートの対象が2,000人、何となく少ない気がする。無回答もありそうだし、18歳以下の意見も有りだと思ふし、市内や家の事は良く分かる気がする。</p>
<p>市の制度に何があるか、今どのような活動をしているか、もっと目につくところでアピールして欲しい。ポスターをスーパーなどに貼らせてもらうとか。そして、貼ってそのままでは情報が生きていることが伝わらないので、日付もいれて割と頻りに張り替えるなどすると、必要になった時すぐに思い出したり確認できる。支援が必要な人は、特に外出できる機会が多い方が良いと思う。寝て世話を受けるだけでは気持ちが前向きにならないので、身体や心が弱る一方ではないかと思う。</p>
<p>・本当に福祉が必要な方に手をさしのべるなら頑張ってください。・生活保護も本当に困っている日本人に。・食べられない子供達の子供食堂の充実。</p>
<p>東久留米は富士山の眺めが良く、黒目川、落合川など水辺の自然も豊かで、落ち着いた街であると思う。自分の故郷として愛着がある。</p>
<p>30年以上東久留米に住んでいますが、知らない事が多いなあと感じました。年代的に不安なのは、エレベーターのない団地に暮らしていること…。年金だけでは生活していけないのでずっと健康で仕事を続けていけるか…少し不安はあります。</p>
<p>黒目川・落合川の遊歩道を始め、東久留米市はとても良い所だと日々感じております。ただ、犬の散歩をされている方のマナーが気になる事があります。たまに、歩行者ではなく犬優先になっているとしか思えない時もあり（人間同士が会話に夢中になり、道を塞いでしまうとか）配慮が欲しい所です。また、歩きタバコにも迷惑を感じます。禁煙や歩きタバコ禁止等の張り紙等の対応をお願い出来ればと思います。残念ながら東久留米市には大規模な運動公園が無いので、現在、整備中の六仙公園をうまく活用出来ないものかと思ひます。例えばジョギング・ウォーキングコースの設定・コース表示。郵便局本局前の通りは道幅が狭い為に自転車歩道走る事が多いです。ルールを守って自転車通路を自転車歩道をバスがなかなか追い抜けずノロノロという場面にも直面しました。改善の余地は無いもののでしょうか？</p>
<p>1. 病院の無料送迎を検討して欲しい。2. 孫が生まれた時に、一人目の子の預かり所があると聞きましたが、どこに聞けば良いのか？</p>
<p>福祉関連の施設など、いろんな所にあるようですが、関わりのない家や人もいるので取り組みなど浸透してる感じがしない。</p>
<p>福祉課の職員の能力に凸凹がありすぎる。相談した第一歩の窓口で門前払い、めんどくさそう、言葉遣いが馴れ馴れしい、語尾に「～ね、～ね」をつけるのは相手が現役社会人であるとしてあつかっていないから？</p>
<p>もっと知らないといけないと感じた</p>
<p>特にありません。</p>
<p>自分の両親の介護の際は、市の方に大変協力頂き、感謝しております。ただ、最初は全然解らず、不安だけが進んでいました。たまたま、地域包括支援センターの存在を知り、介護が進み、仕事との両立が出来ました。出来れば職場を含めた啓蒙活動があればと感じました。</p>
<p>市内の他の地域に転居したい。理由は診療所等の医療施設が遠い。高齢の為、将来、運転が出来なくなった時が不便である。駅・バス停の近くに住めば…。または、医療施設を近くに作って欲しい。変な医者はダメ。</p>
<p>駅までの距離が遠いため、不便である。子どもや高齢者が何か地域の事に参加しにくい原因の一つとなっている。年令、男女使いやすい交流の場があると互いの困っている事を相談したり、理解しやすい事が増える文化施設が少ない。公園など整備されていない。新しい住宅地など、法的な決まり事で作られた公園は遊具も使われることないまま放置され危険である。有意義な憩いの場所にし、使っていけるようにして欲しい。</p>
<p>福祉に関わる人の収入や生活環境を改善し人員の増加を図る。</p>
<p>市が何をしているか、良くわからない。浅間町は東久留米の中心ではないのでコロナの注射には遠く自転車で10分はかかる。生活圏内は西東京。地域の商品券を利用する店が近くには無いので利用できない。西東京、新座でも利用できる様にしてほしい。</p>
<p>住んでいる地域にどのような福祉のNPOやボランティア活動があるのか具体的に分かりません。地域福祉活動については一元化されている機関があるのでしょうか？（社協以外）</p>
<p>他市のHPでは内職出来る所を掲載し、情報を得られるよう掲載している所があります。たくさん働けなかったり、高齢で外で仕事が見つからない人達が、そうした情報を得られる手助けがあったならば弱者の支援の人助けになると思います。（掲載している市～新座市や松戸市など。）我が家も情報が欲しくて探したのですが東久留米市の場合が無くて…。あってくれたならいいな、助けになるなあと思います。</p>
<p>地域福祉面における取組においても、今後デジタル化が進んでいくと思われませんが、高齢者の使い勝手を考慮した促進をお願い致します。</p>

特になし
既に実施している施策に関する目的とそれに対する効果の公表をほとんど耳にしない。例えば、子供支援対策（少子化対策ではない）で保育の拡充や助成手当などの効果がわからない。単にバラマキとしか思えない。目的と効果を明確にして検証結果を公表してほしい。老人に対しても同じだし、生活保護支援の効果もはっきりと公表して欲しい。
提案があります。1. 計画上の 8 ブロックの地区内に子供が無料で食事が出来る食事場所を開いて欲しい。2. 地域福祉を本気で取り組むなら福祉保健部だけでは出来ません。特別チーム等をプロジェクト毎に組んで、役所全体で取り組みをして欲しい。3. 現場 100 回を基本として職員全員が市内の実態を観て回る時間を設定して、動いてから意見を出し合えば良い計画に近づけると思います。4. 東久留米市も人口の 60%が 15～59 歳だと思えますが、老人と子供以外の市民に対する分かり易い福祉を実現して下さい。5. 人口減少を見据えた対策をお願いします。行政サービスの低下を防ぐ事が大切です。
高齢者が気楽に楽しく参加できる運動の催しがあればよいと思ったりします。
問 21 隣人の受動喫煙がある。タバコの煙は有害です。
現在居住している地域の自治会があるが、居住者の高齢化や自治会への参加辞退などの問題を抱えています。しかしながら、防災や住人の高齢化が進む中で現状でよいはずがなく、そのことは住人の方の多くは分かっておられると思うので、今後も広報活動を続けて下さい。
私は東久留米市の南端にあるひばりが丘団地に住んでいます。買い物、医療、公園もほとんど西東京市です。申し訳ないですが東久留米市は遠い存在です。地域のつながりは、ひばりが丘団地エリア（まちにわ）を基本に考えています。
弥生 1 丁目に住んでおります。近くに集会所があります。広場にブランコがあるのですが、何年も前から壊れております。撤去していただけないでしょうか。どうぞ宜しくお願い申し上げます。
兵庫県明石市の実績を参考にする点があるのかどうか実感としてありません。（私には分析する能力がありません。）がまねるべき点は少なからずあるのではと思います。高齢者として出来る事には積極的に参加したいです。
昭和 63 年より、東久留米市に住んでいます。前沢～滝山～下里、住みはじめた頃より、交通の便が良くなりました。（地下鉄が出来たら良いと思っていた頃もありましたが）緑も多くのどかな環境だと思っています。下里に図書館がなく不便を感じています。
東久留米に住んで来年でちょうど 40 年になります。空き地だった所、畑だった所に次々と新しい家が建てられ、小さな子供連れの若い御夫婦が近所にもたくさん増えてほほえましく思います。又、ペットのワンちゃんを散歩している方をたくさん見かけるようになりましたが、以前に比べてフンの落し物が減ってきているように思います。市報にもマナーについてたびたび取り上げられていましたのでその効果ではないかと思えます。又、散歩していると垣根を越えて飛び出している庭木がとても危険に感じます。雨の日は落葉にすべったりカーブの所では前が見えずびやっとなったり…市報などを使い注意喚起して戴けたらと思います。
戸別に一軒一軒訪ねて問題を抱えた家庭であるかどうかを、確認する必要はあるかとは思う。大変な作業となるが。
防災の視点からも民間の共同住宅への耐震補強工事を推進することが急がれているが、この市は市民の命と暮らしを守る上でも政策で見えるものが無い。民間共同住宅の耐震補強を他市、また 23 区並みに実施できる施策を急ぐべき。この点からもこの市に住んでいることが不安の原因になっている。直ちに改善されたい。地域センター内にある入浴施設をなくすことはやめて、もっと利用者を増やすべく周知させることに力を入れること。災害等で避難所にもなるセンターなので、入浴施設は取りやめず継続して利用できるようにして下さい。
道路工事による住環境の悪化。
弱者が困らない街づくりは誰にとっても居心地がいいもの。そこを視点に取り組んでいただきたいと思っています。色んな制度があっても、難しかったり日数がかかったり、高い費用が掛かったり、安心できなかったりすると、悩まされます。問題点の改善とかにも力を入れていただけますようお願い致します。
東久留米市の良いところは、1. 黒目川、落合川、南沢湧水などの自然環境です。自然環境を保存することが地域福祉を進める上で、一番大事なことです。2. 少子高齢化は、大きな問題ですが、日本社会福祉制度が実態に追いついていません。市の役割として地域福祉に力をそそいでもらいたいです。3. 地域の高齢者の集える、公共施設を身近に設置してもらいたいです。地域センター、公民館など。-以上-
何事に関してもスピード化と前例にこだわらない市の方向性が重要。
金銭的なゆとりが無く、身寄りの無い高齢者が病気になった時や亡くなった時、日頃の安否確認等のサポート的な事を考えて頂けたらと思います。
福祉向上のため多くの予算計上を！
地域福祉計画の策定に当たっては、市役所各部署間の連携を図るとともに、専門家や市民、団体等の意見を聴いて、進めていただきたい。
防犯カメラを多く設置して下さい。道路をひろく段差をなくす工事をお願いします。工事が中断している場所があり、かえって危険です。交通事故があってからでは遅いです。市の責任となります。早く工事を再開してください。私は障害者で歩行困難なので宜しくお願いします。市役所の福祉課の人達は親切で窓口対応は良く助かっています。ありがとうございます。
ひらかれた市役所になって欲しい。人はたくさんいるのに手心の届く市の職員でいて欲しいと願っています。

<p>問8 団地が近くにあり、高齢者も自分を含めて多いが、緑有り静かな町だと思う。バスも行き交い便利。</p> <p>問35 東久留米市に長年住み子育ても終わり、夫婦で今のところ健康に暮らしています。東久留米市は緑有り都心も近く、バスの便利さはシルバーバスも使えとても良い。今後高齢者多い現状、介護に関しては大変興味、気になるところですが、その時が来たら孤立せず積極的に参加したいと思います。その為にも高齢者に分かり易いより良いサービスなど、市として今後ご検討ください。</p>
<p>アンケートを取ることはいいことですが、アンケートの結果のフィードバックやそれに対してどのようにするのが見えていません。きちんと市民に目に見えて伝える努力が足りないように思います。市報に形だけちよろっとのせるだけなのでしょうか。このアンケートのやり方には問題があります。回答が郵送はいいのですが、ネットでの回答でまずひとりで複数回ちがった回答が可能であること。このURLでは選定された本人が確認できないので、このURLを使って市民以外の悪意をもった他人により回答ができること。以上のような理由でアンケート結果の内容の信頼性や統計学的な数値の妥当性が損なわれる可能性があるのでは？</p>
<p>私自身は、今年6月に結婚の為に転居して参りました。病院に通う必要が有りますが、バスの便が悪く、毎回、駅までタクシーで片道約1,000円かけています。これが改善されると有難いです。</p>
<p>都営住宅へ入れる人が少なく、他をさがし、東久留米をはなれる人も多くなっていますが…。買物や病院など、移動に時間がかかる場所が多くある為、これから不安があります。</p>
<p>私はこの柳窪3丁目アパート団地に住んで36年になりましたが、お隣さんとはちょっと暇があれば何でもお裾分けしながら色んなお話をしています。</p>
<p>バス停の無い浅間町に住んでいます。若い時は何も不自由を感じませんでしたが、最近、股関節を痛め手術を受けました。手術待ちの何ヶ月か「くるぶー」を利用して頂きましたが、午前の予約がいっぱい、タクシーの予約も取れずにやむをえず、病院の予約を別の日に振り替えてもらった事もありました。不必要と思われる道路ばかり作らず、コミュニティバスをぜひ実現して欲しいと思っています。</p>
<p>市の地域福祉の質、質を高めるためには、市の財政の質、質を高める事が重要だと思われます。市長を筆頭に市役所の幹部の皆様には今まで以上に深く考えて頂き、困っている方、恵まれない方々に援助の手が届くようになる事を切に願っています。市民の皆様が東久留米市に住んで良かったと思えるような市になる事を切に願っています。市の地域福祉向上に日々努力されている市役所の皆様に対しましては心より厚くお礼申し上げます。</p>
<p>市に要望出しても、予算がないとか、地区に議員がいないと何もしてくれないとかよく聞きますが、そのようなことがあってもいいのでしょうか。平等に行って頂きたいものです。</p>
<p>補聴器購入助成や健康診断の促進。</p>
<p>信頼できる市立の総合病院がないことが不安である。</p>
<p>社会福祉法人、福祉サービス事業、地域福祉コーディネーター、地域活動支援センター、地域包括支援センター、社会福祉協議会、など似た名称が多く区分が分からない。名称から分かるようにして欲しい。</p>
<p>以前、父母が福祉施設にお世話になっておりました。民間を含め充実しているものと感じております。</p>
<p>ヘルプマークの意味を説明する広報（知らない人が多いのでは）。高齢者が増加する中での居場所作り（認知症カフェとは別に）。</p>
<p>一杯あるけど書くのが苦手。</p>
<p>黒目川坂本橋の公園に橋をかける予定が有るようですが地域の人たちの憩いの桜公園です。福祉を進めると云うなら橋を掛けることは逆行です。反対します。</p>
<p>老人クラブは、各地域ごとにありますが、途中から入りづらと思います。固定なしに、誰でも集まれる場所があったらと思います。東久留米市ならではの住みよい所になる事を願っています。</p>
<p>市独自の取り組みが目につかない、田無 三鷹などに行くと、コミュニティバスが沢山目につく。動けなくなったら本当に困る。都心に行くのに、シルバーバスが使えないので、1000円、3000円、5000円、10000円、20000円と細分化してほしい。今の状態だと、夫が医者でも妻が1000円の人が結構いるのでおかしいと思う。保育と介護に携わる人の給料を多くしてほしい。今、保育園が少なく、小さい子を何人も引きつけて公園に連れて行っている姿をよく見かけるが、働く条件をよくしてほしい。</p>
<p>老若男女を問わず、ゆっくり楽しむ場所をたくさん作る。誰でも利用出来る場所を作る。</p>
<p>市の地域福祉ではないが、東久留米駅の一番の名物の富士見テラス取り壊し後の再建を考えるべき。予算確保は市の仕事。市のDXの状況が伝わって来ない。便利な町作りを進めて欲しい。</p>
<p>居場所の無い老年の女子の為に、行政で「居場所づくり」を進めて欲しいです。</p>
<p>わかりません。</p>
<p>今まで地域福祉などに関心がありませんでしたが、いろいろと取り組まれていることが分かりました。住みよい東久留米市になりますように願っております。</p>
<p>国民年金だけで老後施設が利用出来る様に成ることを望む。</p>
<p>高齢になっても三輪自転車等があれば買い物が出来ると思うが歩道が狭かったり障害物が多いとなかなか決心がつかない。安心して行動出来る環境整備が出来たらうれしい。</p>
<p>皆様お忙しいのに、ご苦労様です。</p>
<p>1人ひとりが協力し合って、住みよい町づくりにすること。</p>
<p>問8 この地域の生活に慣れてるから。</p>
<p>東久留米に他市より人が多く集まる様な町造りにしてほしい。一段と早く富士展望台を作してほしい。</p>

医療機関が少ない。(総合医療施設) 道路が狭くて歩きにくい所が多すぎる。(高齢者やベビーカー等)
東久留米市は、介護認定など素早く動いて頂きまして、ありがとうございます。市職員の方々、地域包括支援センターなど親身になって頂いていると思います。今後共、よろしくお願い致します。又、大人の介護用オムツの廃棄をする場合、有料の燃えるゴミ袋とは、別に作って頂きたいと思います。少しお安くしてほしいです。介護している家族より。
カラオケも現在 86 才ですのであと何年出来るか心配です。出来るかぎり続けたいと思っています。
多摩 26 市の中で当市の遅れていることがきわだっている。財政問題ではなく、困っている市民の願いを第一優先にしない市政の問題に疑問を持つ。請願署名などで表明していても、市民の要望が、いつも否決されている。市議会の問題なのか、いつも残念でしょうがない。高齢者や弱い人へのやさしい市政であってほしい。
日本人は「ヘルプ」がへたですね。こちらが手を差しのべても手を出さない人が多いでもあきらめずに市と個人が手をさしのべて行きたいと思います。市役所の各課の方々も頑張ってください。老人も頑張りますよ。
生活のリズムが違う、団地住いの我々は、「向こう 3 軒両隣」(戦時中の歌の文句)の精神で生きていけたら…と思う。心は誰にも見えないけれど、心遣いは見えるのだから。
交通が不便。オンデマンドは使いにくい。体力が衰え、かつては自転車で動けたが、市役所へ行くのも一苦勞。出来れば自宅一目的地一自宅、無理ならば巡回バスを運行して欲しい。施設の不足。莫大なお金がないと老人ホームには入れない。特養は何百人待ち、自宅で死ぬしかないと思ってしまう。特養を増やしてほしい。近隣もみな親切でつながりたい気持ちはあるが、日中の在宅者がほとんどなく、なかなかつながれない。
この 6 月まで長野県の郷里に 24 年間暮らしていましたが、成人病検診などについては健康推進員がいて検診の大切さを説得して歩いていました。市役所の職員にお任せすると職員の皆さんも大変ですし、若干の報酬を得られるようにして地域の責任者を決めて、健康だけではなくいろんなことを相談できるようにしたらどうでしょうか。民生委員がそうした役割を担っておられるとは思いますが、民生委員のみなさんが集まって問題を共有し合うような仕組みになっているのでしょうか。24 年間暮らしていた南信州の郷里は長野県(全国的に長寿ではトップクラス)の中でもきめ細かかったと思います。認知症の話はあまり聞いたことはありませんでした。85 歳の同級会をしていましたが認知症の人はいませんでした。人間関係ができていて「隣は何をする人ぞ」ということはありませんでした。24 年振りに東京へ帰ってきてお互いのコミュニケーションのなさがくぜんとしているところです。近くの広場で毎日ラジオ体操などすれば顔なじみも段々ふえてきてつき合いも始まるように思います。
十分にできていると思う。
駅へ行くのにも、買い物に行くのにも、乗り物の所へ行くのに徒歩しかない(及びタクシー)。病院は、くるぶーがあるのがとても良いです。感謝しております。
各町内での活動で今活動しているが、相当各町内高齢化していて 10 数年前と同じやり方で今年驚いた。内容も現状に合ったやり方を希望する。(体の動く 5~60 代女性にしわ寄せが来ている。)又、1 年の行事は学校と同じく 4 月スタートに決定していないと就業者には大変です。今、このような事でヘルプが必要と一目で分かるような書き方で市報に掲げて欲しい。どこから何をどうすればよいかわかりづらいです。
氷川台 1 丁目に住んでいますが六小までの道路にガードレールがなく、車と隣り合わせて小学生が歩く必要があるため、ガードレールの整備や登下校班があれば良いと思います。
介護の認定を出してもらう時、1ヶ月もかからず速やかに出して欲しい。一番困っている時にもらえず、介護する方が病んでしまった。それをずっと引きずってしまっている。
認識していなかった取組みが多い。住民に認知してもらえるようにもっとアピールして、活用してもらえるようにして頂きたい。

## 資料2 アンケート調査票

# 市民と一緒に住みよい東久留米市をつくるための アンケートご協力をお願い

日頃より、東久留米市政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

市では、市民憲章の「知恵をだしあい、進んでまちづくりに参加し、住みよい東久留米をつくり  
ます」を目指し、令和6年度に第4次改定となる「東久留米市地域福祉計画」を策定いたします。  
このアンケートは、皆様のご意見や日頃感じている地域課題などをお聞きし、計画策定に役立て  
ることを目的に実施いたします。

アンケートの対象者として、住民基本台帳から市内にお住まいの18歳以上の市民2,000人を無作  
為で選ばせていただきました。お忙しいところ、まことに恐縮ですが、アンケートの趣旨をご理解  
いただき、ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、アンケートへのご回答は統計的に処理いたしますので、ご協力くださいました個人が特定  
されることはございません。ご自身のお気持ち・ご意見に最も適した回答をご記入ください。

令和5年11月 東久留米市長 富田竜馬

[ご本人が回答することが難しい場合]

ご本人が回答することが難しい場合は、ご家族や代理の人がご本人の意見を聞いて記入して  
いただいても差し支えありません。

また、周囲にご家族や代理の人がいない場合は、下記問い合わせ先までご相談ください。

### ■アンケート、地域福祉計画に関するお問い合わせ・返信先

東久留米市 福祉保健部 福祉総務課 福祉政策係

〒203-8555 東京都東久留米市本町3-3-1

電話：042-470-7749（直通） ファクス：042-470-7808

電子メール：fukushisomu@city.higashikurume.lg.jp



湧水の妖精

るるめちゃん

東久留米市地域資源 PR キャラクター

## ～記入についてのお願い～

<p>【回答方法】 インターネット または 調査票の郵送  <u>※どちらかの方法でご回答ください</u></p> <p>【回答時間】 30分程度（目安）</p>	<p>ご回答・ご投函は  <u>12月4日（月）</u>          までお願いいたします。</p>
インターネットによる回答方法	調査票の郵送による回答方法
<p>①URLもしくは二次元コードから専用ウェブサイトにアクセスしてください。</p> <p>【URL】  <a href="https://questant.jp/q/higashikurume_chiiki_shimin">https://questant.jp/q/higashikurume_chiiki_shimin</a></p> <p>【二次元コード】</p>  <p>②調査票と同じ質問が画面に表示されます。</p> <p>③途中保存はできませんので、目安の時間が取れそうな時にご回答をお願いいたします。</p>	<p>①封筒の宛名のご本人がお答えください。          ご本人が回答することが難しい場合は、ご本人の意見を聞いて、ご家族や代理の人が記入しても差し支えありません。</p> <p>②回答はあてはまる番号を○で囲んでください。「その他」を選択する場合は番号を○で囲み、（ ）に具体的な内容を記入してください。</p> <p>③質問によっては、回答数や回答者が限られる場合があります。</p> <p>④回答終了後、同封の返信用封筒に入れて封かんし、回答期限までにポストに投函してください（切手は不要です）。</p>

### 1 あなた（ご本人）のことについて

問1 あなたの性別、年齢をお答えください。（それぞれ○は1つ）

①性別

※性別を選択することに違和感や抵抗感がある場合は回答を控えていただいても結構です。

1 男性	2 女性	3 その他（ ）
------	------	----------

②年齢【令和5年11月1日現在】

1 18～19歳	5 35～39歳	9 55～59歳	13 75～79歳
2 20～24歳	6 40～44歳	10 60～64歳	14 80～84歳
3 25～29歳	7 45～49歳	11 65～69歳	15 85歳以上
4 30～34歳	8 50～54歳	12 70～74歳	

問2 現在、あなたの世帯の構成は、次のどれにあたりますか。(1つに○)

※「夫婦」には婚姻届を提出していない場合や同性パートナーを含めます。

1 ひとり暮らし	5 ひとり親と子ども(一番下の子どもが18歳以上)
2 夫婦のみ	6 ひとり親と子ども(一番下の子どもが18歳未満)
3 夫婦と親(二世帯同居)	7 三世帯同居(親と子と孫)
4 夫婦と子ども(二世帯同居)	8 上記以外

問3 同居している世帯の状況について、あなたご自身を含めてお答えください。(○はいくつでも)

1 未就学児がいる	4 病気で寝たきりの人がいる
2 介護が必要な人がいる	5 生きづらさを感じている人がいる(※)
3 障害者手帳を所持している人がいる	6 1～5のいずれもない

(※) ひきこもり、ヤングケアラー、LGBTQ、貧困、8050問題等に起因する1～4に当てはまらない悩みや困り事により、生きづらさを感じている場合は「5」に○を付けてください。

また、この後の設問で、これらについて回答したくとも選択肢が無い場合は、その他にご記入いただき、必要に応じて問35(自由記述)で補足記入をお願いします。

問4 あなたのお住まいの住居形態は、次のどれにあたりますか。(1つに○)

1 持ち家(一戸建て)	5 都営住宅
2 持ち家(マンションなどの共同住宅)	6 社宅・社員寮
3 民間賃貸(一戸建て)	7 上記以外
4 民間賃貸(マンションなどの共同住宅)	

問5 あなたの市内の居住年数(市内での転居を含めた通算)をお答えください。(1つに○)

1 5年未満	4 15～20年未満	7 30年以上
2 5～10年未満	5 20～25年未満	
3 10～15年未満	6 25～30年未満	

問6 現在のお住まいの地域は、次のどちらですか。

ブロック (↓1～8から○は1つ)	含まれる町
1 第1ブロック	上の原、神宝町、金山町、氷川台
2 第2ブロック	大門町、新川町2丁目、浅間町
3 第3ブロック	東本町、新川町1丁目、本町
4 第4ブロック	小山、幸町、下里1・7丁目、野火止、八幡町1丁目
5 第5ブロック	中央町、前沢1・2丁目、八幡町2・3丁目
6 第6ブロック	学園町、ひばりが丘団地、南沢、南町
7 第7ブロック	前沢3～5丁目、滝山、弥生
8 第8ブロック	下里2～6丁目、柳窪

問7 あなたは、お住まいの地域に愛着を感じていますか。(1つに○)

- |          |             |
|----------|-------------|
| 1 とても感じる | 3 あまり感じない   |
| 2 少し感じる  | 4 まったく感じない  |
|          | 5 どちらともいえない |

(回答の理由があれば、問35(自由記述)で補足記入をお願いします)

問8 あなたは、お住まいの地域で今後も生活していきたいと思えますか。(1つに○)

- |                 |            |
|-----------------|------------|
| 1 可能な限り、生活したい   | 3 市外に転居したい |
| 2 市内の他の地域に転居したい | 4 わからない    |

(回答の理由があれば、問35(自由記述)で補足記入をお願いします)

## 2 近所付き合い、地域の暮らしについて

問9 ふだん、となり近所とは、どのようなお付き合いをされていますか。(主なもの1つに○)

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1 お互いの家を行き来している        | 3 あいさつ程度        |
| 2 いただき物や旅行のお土産をおすそ分けする | 4 <u>ほとんどない</u> |



付問 前問で「4 ほとんどない」と答えた方におたずねします。近所付き合いをしていない主な理由は何ですか。(○はいくつでも)

- |                            |   |
|----------------------------|---|
| 1 仕事や学業、家事・育児などで忙しく時間がないから |   |
| 2 引っ越してきて間もないから            |   |
| 3 普段、付き合う機会がないから           |   |
| 4 となり近所と知り合うきっかけがないから      |   |
| 5 同世代の人が近くにいないから           |   |
| 6 気の合う人や話の合う人が近くにいないから     |   |
| 7 あまり関わりをもちたくないから          |   |
| 8 その他(具体的に                 | ) |
| 9 特に理由はない                  |   |

以降、【全員の方へ】

問10 (同居をしていない家族や友人のうち、一番親しい方を思い浮かべて回答してください)  
あなたとの方とのコミュニケーションの頻度について、ア～ウごとにそれぞれお答えください。(それぞれ○は1つ)

	週4 ～ 5 回 以上	週2 ～ 3 回 程度	週1 回 程度	2 週 間 に 1 回 程度	月1 回 程度	月1 回 未 満	全 く な い
ア 直接会って話す	1	2	3	4	5	6	7
イ 電話(ビデオ通話含む)	1	2	3	4	5	6	7
ウ SNS(LINEなど)、 電子メール、ショートメール	1	2	3	4	5	6	7

問11 あなたは、日頃の生活の中で、孤独であると感じることがありますか。(1つに○)

1 決してない	4 時々ある(月2～3回程度)
2 ほとんどない(月1回未満)	5 しばしばある・常にある(週1回以上)
3 たまにある(月1回程度)	

問12 あなたのお住まいの地域では、お互いに助け合う「地域のつながり」を感じますか。  
(1つに○)

1 とても感じる	3 あまり感じない
2 どちらかといえば感じる	4 まったく感じない
	5 どちらともいえない

問13 あなたは、現在の地域での暮らしに「地域のつながり」は必要だと思いますか。(1つに○)

1 とても必要である	3 あまり必要ない
2 どちらかといえば必要である	4 必要ない
	5 わからない

問14 あなたの地域で次のような世帯を見たり、聞いたりしたことがありますか。(○はいくつでも)

- |    |   |
|----|---|
| 1  | 大量のごみが自宅や敷地に放置されている世帯(ごみ屋敷)               |
| 2  | 高齢者が同居の高齢者の世話(看病、介護、介助など)をしている世帯(老老介護)    |
| 3  | 世帯全員が近隣や地域と関わりをもっていないと思われる世帯(孤立世帯)        |
| 4  | 自宅にひきこもっている人がいると思われる世帯(ひきこもり)             |
| 5  | 高齢の親が中高年の子どもの生活を支えている世帯(8050問題)           |
| 6  | 親の世話(看病、介護、介助など)と自分の子育てを同時に抱えている世帯(ダブルケア) |
| 7  | 未成年の子どもが親や兄弟姉妹を介護し、自分の時間をもてない世帯(ヤングケアラー)  |
| 8  | 家族の間で虐待が疑われる世帯(虐待)                        |
| 9  | となり近所で何かのトラブルが起きていると思われる世帯                |
| 10 | 上記以外で、課題を抱えていると思われる世帯<br>(具体的に )          |
| 11 | 見たり、聞いたりしたことはない                           |

問15 あなたは、まわりの人(家族以外)に手助けできること(してもいいこと)はありますか。(○はいくつでも)

- |   |                |         |                    |
|---|----------------|---------|--------------------|
| 1 | 安否確認の声かけ       | 7       | 災害時避難の手助け          |
| 2 | ちょっとした買い物やごみ出し | 8       | 具合がよくない時に病院などに連絡する |
| 3 | 食事や掃除・洗濯の手伝い   | 9       | 専門の相談機関等に連絡する      |
| 4 | 通院の送迎や外出の手助け   | 10      | その他                |
| 5 | 子どもの預かり        | (具体的に ) |                    |
| 6 | 話し相手や相談相手      | 11      | 特にない               |

### 3 地域の活動について

問16 あなたが地域に参加するとしたら、どういう活動に参加したい(しやすい)ですか。現在の活動の有無に関係なく、お答えください。(○はいくつでも)

- |   |                                       |
|---|---------------------------------------|
| 1 | 自治会、町内会、マンション管理組合、自主防災組織、消防団などが行う地域活動 |
| 2 | 保護者会、PTAなどが行う、学校などを拠点とする活動            |
| 3 | 社会福祉法人、福祉サービス事業者などが行うイベント・講習会・ボランティア  |
| 4 | 趣味のグループ、自主サークルなどが行う地域活動(自分が関心のある分野)   |
| 5 | 市、商店街、NPOなどが行うイベント・講習会・ボランティア         |
| 6 | 自分たちが主体となって行う地域活動(交流づくり、居場所づくりなど)     |
| 7 | その他(具体的に )                            |
| 8 | そうした活動に参加したくない・関心がない                  |

問17 あなたは、どのような環境があると地域活動に参加しやすいと思いますか。現在の活動の有無に関係なく、お答えください。（○はいくつでも）

- |    |                       |
|----|-----------------------|
| 1  | 自分の時間に余裕があること         |
| 2  | 時間や期間にあまりしぼられないこと     |
| 3  | 関心・興味のあるテーマの活動があること   |
| 4  | 知り合いや気の合う仲間がいること      |
| 5  | 身近な場所で活動できること         |
| 6  | 家族の理解・協力が得られること       |
| 7  | 子どもの世話や親の介護を代わってもらうこと |
| 8  | 自分の能力向上につながること        |
| 9  | 参加に報酬があること            |
| 10 | その他（具体的に              |
| 11 | そうした活動に参加したくない・関心がない  |

問18 あなたが身近な地域（自宅以外）で利用する場所がありますか。（○はいくつでも）

- |   |                      |       |                 |
|---|----------------------|-------|-----------------|
| 1 | 公園                   | 6     | 図書館             |
| 2 | カフェ（喫茶店）、レストラン、飲食店   | 7     | 学校（教室、校庭、体育館など） |
| 3 | 商業施設（スーパーやコンビニなど）    | 8     | その他             |
| 4 | 自治会、マンションなどの集会スペース   | （具体的に |                 |
| 5 | 地域センター・地区センターなどの公共施設 | 9     | 利用することはほとんどない   |

問19 下記の地域福祉に関する活動や組織について、聞いたことがあるものをお答えください。（○はいくつでも）

1	地域福祉コーディネーター	制度の狭間にあるような困りごとを抱えている方への個別支援や居場所づくりなど、住民主体の活動の推進を行う役割を担う人。
2	民生委員・児童委員	住民の相談に応じ、行政などにつなげる役割を担う、厚生労働大臣から委嘱された非常勤の地方公務員であり、無報酬の市民ボランティア。
3	地域活動支援センター	障害のある方をサポートする相談窓口。
4	地域包括支援センター	高齢者をサポートする相談窓口。
5	自立相談支援機関	困窮者を支援するため、家計や仕事など生活に関する困り事に幅広く対応する相談窓口。
6	子ども家庭支援センター	子どもと家庭に関する相談窓口。
7	社会福祉協議会	地域福祉の推進を図ることを目的とする社会福祉法人。
8	1～7はいずれも聞いたことがない	



以降、【全員の方へ】

問22 あなたにとって、市役所、社会福祉協議会がより相談しやすくなる方法は何ですか。

(○はいくつでも)

1 土日・祝日でも相談できる	5 1か所で相談できる
2 早朝や夜間でも相談できる	6 その他
3 チャット、LINEで相談できる	(具体的に )
4 相談員が親身になってくれる	7 現状のままでいい
	8 わからない・利用したことがない

問23 あなたは、市の福祉(サービス)に関する知識や情報をどこから得ていますか。

(○はいくつでも)

1 市や社会福祉協議会のホームページ	6 地域福祉コーディネーター
2 市広報「ひがしくるめ」やパンフレット	7 テレビ、ラジオ、新聞、雑誌など
3 市役所や社会福祉協議会の窓口	8 関係機関のホームページ
4 地域包括支援センターなどの市が設置している施設	9 家族・親戚、友人・知人
5 NPO・ボランティア等の民間団体	10 その他
	(具体的に )
	11 特にない・関心がない

問24 あなたは、スマートフォン、タブレット、パソコンのいずれかを使っていますか。最も使うものの頻度でお答えください。(1つに○)

1 日常的に使っている	3 持っているが、あまり使っていない
2 時々、使っている	4 持っていない

## 5 災害への備えについて

問25 あなたは、日頃から、災害発生時に備えていますか。(○はいくつでも)

1 防災訓練に参加している	5 3日分以上の食料、水などを備えている
2 避難場所や避難経路を確認している	6 防災マップ、洪水ハザードマップを確認している
3 家具などの転倒防止を行っている	7 その他(具体的に )
4 避難行動要支援者名簿に登録している	8 特にしていない

問26 あなたは、災害発生時に地域の防災活動に協力できることはありますか。(○はいくつでも)

1 避難の声かけをする	4 (自身や家族の状況が許されれば) 災害ボランティア活動に参加する
2 高齢者などと一緒に避難する	5 その他(具体的に )
3 避難所で人のお世話をする	6 特にない

問27 あなたは以下の防災の取り組みや用語について知っていますか。(〇はいくつでも)

1 福祉避難所	4 在宅避難
2 仮設住宅	5 避難所運営マニュアル
3 災害ボランティアセンター	6 知っている取り組みや用語は一つもない

## 6 権利擁護支援について

問28 あなたは、権利擁護に関することについて知っていますか。(それぞれ〇は1つ)

	内容を知っている	(聞いたことはある 内容は知らない)	知らない	説明
ア 成年後見制度	1	2	3	認知症、知的障害、精神障害などの精神上の障害により判断能力が不十分な場合に、成年後見人(弁護士、司法書士、社会福祉士など)が本人を法律的に保護し、支える制度。
イ 任意後見制度	1	2	3	本人に判断能力があるうちに、将来、判断能力が不十分な状態になることに備え、公正証書を作成して任意後見契約を結び、任意後見人を選んでおく制度。
ウ 社会貢献型後見人 (市民後見人)	1	2	3	身寄りがない等、財産管理をする人がいなく施設に入所できない人などの権利をまもり、同じ市民の目線に立って支援をする人。

問29 あなたやご家族のどなたかが認知症などによって判断が十分にできなくなる場合に備えて、あるいは、できなくなった場合、上記(問28)ア～ウのうち、いずれかの制度を利用したいと思いますか。(1つに〇)

1 既に利用している	2 利用を検討する	<u>3 利用しない</u>	4 わからない
------------	-----------	----------------	---------



付問 前問で「3 利用しない」と答えた方におたずねします。 制度を利用しない主な理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1 制度の内容や利用方法がわからない
2 事務手続きが面倒
3 後見人に財産管理や契約手続きを任せるのは不安
4 申立てにかかる費用や後見人へ支払う報酬が負担
5 家族などに支援してもらいたい
6 その他(具体的に )





---

**東久留米市地域福祉計画（第4次改定）の策定のための  
市民アンケート調査結果報告書**

発行：東久留米市 福祉保健部 福祉総務課  
〒203-8555 東久留米市本町三丁目3番1号  
TEL：042-470-7749  
FAX：042-470-7808

発行年月：令和6年3月

---